

第一部 鹿兒島県地誌・同備考(抄)

鹿児島県地誌（抄）

薩摩國

鹿児島郡 古甕嶋二作ル、享保中鹿児島ト更ム、本郡吉田郷ハ、古時大隅始羅郡ニ属ス、天正十五年始テ鹿児島郡ニ隸ス

疆域 北ハ牟禮岡ノ山脉、其他ノ山川ヲ以テ、大隅始羅郡

ニ界シ、西北ハ矢嶽ノ山脉ヲ以テ、薩摩郡入来郷 長野村ニ界

シ、西ハ花尾山三重嶽ノ頂及ヒ岡陵ヲ以テ、日置郡ニ界

シ、南ハ谷山郡ト丘陵及ヒ平地ヲ界トシ、東南ハ海ヲ隔

、テ大隅郡櫻島ニ対ス

幅員 東西弍里拾町四間、南北四里弍拾弍町

管轄沿革 古時伊佐平次貞時阿多郡ヲ領シ、貞元ヲ経テ、

季基ニ至ル、季基ノ子川邊良道川辺郡ヲ領ス、良道六子

アリ、長子道房、川辺郡ヲ領シ、第二子有道、給黎郡ヲ

領シ、第三子忠永、穎娃郡ヲ領シ、第四子忠明、川辺郡

加世田ヲ領シ、第五子忠景、阿多郡ヲ領シ、第六子忠

良、本郡ヲ領シ、鹿児島太郎ト称ス、忠景ノ後ヲ継ク

以上古系図及ヒ地理纂考ニ據ル

鎌倉ノ時、島津忠久薩隅日三州ノ守護

タリ、出水郡木牟礼ニ居ル、当時藤内康友康友文治中薩摩高城郡新田宮執

印職ニ補セラレ鹿児島郡司兼辨済使タリ康村康弘其職ヲ襲ク康弘ノ弟重兼高城郡ニ居リ新田宮執印職タリ其子孫近世ニ至ル迄

其職ヲ 矢上盛純 盛純ハ藤原純友ノ子有馬直純四世ノ孫ナリ嗣ク 矢上盛純 盛純ニ至テ始テ矢上ヲ氏トス時純・頼純・真純・高純ニ至ル皆 並ニ本郡ノ郡司タリ 執印氏系図及ヒ他家本郡ノ郡司タリ 古城主来由ニ據ル

北条氏執政ノ時、島津忠時・島津久経守護ヲ継ク、弘安

七年久経卒ス、其子忠宗守護ヲ継ク、文保二年三月宗忠

守護ヲ長子貞久ニ伝フ、是時ニ当テ、足利尊氏北条高時

ノ兵ヲ六波羅ニ敗リ、新田義貞鎌倉ニ克ツ、貞久少弍貞

経・大友貞宗ト與ニ探題北条英時ヲ博多ニ攻ム、英時自

殺ス、建武中興、貞久詔ヲ奉シテ、大隅ノ守護職ト為ル、二

年後醍醐天皇詔シテ尊氏ヲ討ス、三年正月貞久尊氏ニ属

シ、官軍ト京師ニ戦フ、其後、菊池武俊等既ニ敗レ、九州ノ兵風ヲ望シテ足利氏ニ属ス、延元二年三月、三条侍

從泰季地ヲ薩摩ニ徇ス、其後、矢上盛純六世ノ孫高純、

肝属兼重・中村秀純等ト官軍ニ応シ、東福寺城及ヒ催馬

楽城ニ據ル、島津貞久之ヲ攻メ、東福寺催馬楽ノ両城

ヲ抜ク、貞久既ニ老シ、第一子師久ニ薩摩ノ守護職ヲ、

第二子氏久ニ大隅ノ守護職ヲ伝フ、師久ハ碓山城ニ薩摩郡ニ

居リ、氏久ハ東福寺城ニ居リ、後大始良肝属郡ニ遷

リ、又志布志諸県ニ遷リ、復東福寺城ニ居ル、正平十

一年 北朝延文元年 氏久南朝ニ応シ、弘和元年 北朝永徳元年 又北朝ニ

応ス、氏久ノ子元久清水城ヲ築キ、之二居ル、元久ノ卒スルヤ、伊集院頼久其子初大千代ヲ立ント謀ル、元久ノ弟久豊之ヲ怒リ、大二兵ヲ起シテ、頼久ヲ撃ツ、応永二十年四月久豊菱刈氏ヲ撃ツ、頼久其虚ニ乗シ、清水城ヲ襲ヒ、之ヲ抜ク、久豊兵ヲ返シ、頼久ヲ撃ツ、頼久原良ニ退ク、久豊卒ス、島津忠國守護ヲ襲ク、元享四年反者三州ニ蜂起ス、忠國之ヲ討滅スル能ハス、其弟用久ヲシテ守護職ヲ撰シ、反者ヲ伐シメ、忠國大隅噲於郡末吉ニ徙ル、既ニシテ之ヲ悔ヒ、嘉吉元年清水城ニ帰り、用久ヲ逐フ、用久谷山ニ據リ反ス、高木章家・市来久家等之ニ応ス、忠國卒ス、立久嗣ク、立久守護ヲ忠昌ニ伝フ、島津季久島津國久洪谷党ノ擅横ヲ惡ミ、之ヲ撃ント請フ、忠昌聴カズ、遂ニ叛ス、文明八年三月十八日季久鹿兒島ヲ侵ス、忠昌伊集院郡 日置 内城ニ遷リ、伊作久逸・新納忠續ヲシテ鹿兒島ヲ守ラシム、九年忠昌國久ヲ田布施 阿多 郡ニ攻ム、永正五年二月忠昌卒ス、子忠治嗣ク、是時ニ当テ、國勢振ハス、強臣封内ニ跋扈シ、三州大ニ乱ル、忠治卒シ、弟忠隆嗣ク、忠隆卒シ、弟勝久嗣ク、大永六年島津實久反ス、初メ勝久族島津実久ノ姉ヲ納レ、夫人

ト為シ、実久ニ任スルニ國政ヲ以テス、実久擅横遂ニ守護ヲ奪ンコトヲ謀ル。是ニ於テ勝久実久ノ任ヲ解キ、夫

人ヲ逐フ、実久之ヲ怨ミ、跋扈愈甚シ、勝久之ヲ患ヒ、國政ヲ伊作ノ領主島津忠良ニ托ス、勝久子ナシ、忠良ノ子貴久ヲ以テ嗣ト為ス、実久伊集院及ヒ谷山郡ヲ取り、其勢大ニ振フ、貴久ノ麾下亦実久ニ應スル者アリ、是ニ於テ、貴久暫ク難ヲ田布施ニ避ケ、重ネテ兵ヲ率ヒ、実久ヲ鹿兒島ニ伐ツ、実久谷山ニ奔ル、貴久聰明英武積衰ノ餘ヲ承ケ、喪乱ヲ夷ケ、人民ヲ愛撫シ、國政大ニ振フ、天文五年貴久内城ニ遷ル、永祿六年大隅始羅郡吉田郷ヲ島津歳久ニ與エ、阿多久鎮ヲ以テ地頭ト為シ、後吉田郷ヲ本郡ニ隸ス 以上島津國史ニ據ル 天正十五年豊臣秀吉大挙シテ、島津氏ヲ討ス、義久出降ル、秀吉義久ヲ薩摩ニ封シ、義久ヲ大隅ニ、義弘ノ第二子久保ヲ日向諸縣郡ニ封ス、義久・義弘豊公征韓ノ軍ニ從ヒ功アリ、慶長五年関ヶ原ノ役、義弘西軍ニ属ス、義久之ヲ幽シテ、以テ謝ス、因テ義弘ノ子家久旧封ヲ領スル故ノ如シ、七年家久鶴丸城ヲ築キ、之二居ル、十四年琉球ヲ伐チ、之ヲ降シ、其大島等五島ヲ取ル、徳川氏大政ヲ奉還セシ後、島津忠義封土ヲ奉還シ、明治四年七月鹿兒島県ニ属ス

里程

東 大隅大隅郡桜島工海上凡壹里

西 日置郡伊集院駅工四里三拾八間

南 谷山郡谷山駅工式里拾町拾九間壹尺

北 大隅始羅郡重富駅工四里三町式拾六間式尺

地勢 東ハ海峡ニ瀕シ、帆檣灣ニ湊リ、百貨市ニ列ル、西

北郡巒起伏スト雖モ、甲突川ノ下流、其両涯沃野平曠頗

ル灌溉ニ便ナリ

氣候 郡ノ西北ハ、山多キヲ以テ、暑氣稍輕シ、東南ハ、

海峽ニ面ス、氣候夏炎冬暖、寒暖計極暑凡九拾度、極寒

凡四拾五度

風俗 其俗淳樸ニシテ、勇敢武ヲ好ム、且ツ、家産ノ如キ

ハ、古時島津氏ノ制、農民ヲシテ土地ヲ私有セシメザル

ヲ以テ、農民ハ富厚ノ者少シ

地味 郡ノ西南、甲突川ノ兩涯ハ、其色赤黒ニシテ、膏腴

稲梁ニ宜シ、其實上ノ中、西北ハ、岡陵原野多ク、其色

七分ハ赤ク、三分ハ黒シ、雜穀ニ適ス、其實下ノ上

郷莊 古時、鹿兒島及ヒ吉田郷二分チ、鹿兒島ハ貳拾四村

郡元村荒田村中村西ノ別府村田上村武村西田村原良村永吉村小

野村草牟田村下伊敷村上伊敷村犬迫村小山村比志島村皆房村

岡ノ原村川上村花棚村下 吉田郷ハ五村 宮ノ浦村本城村本

田村坂元村塩屋村吉野村 名村東佐多浦村西

佐多 ヲ管ス、今鹿兒島ハ四拾七町 山下町易居町生産町六日

浦村ヲ管ス、今鹿兒島ハ四拾七町 新築町見町和生町

中町吳服町大黒町堀江町住吉町船津町新町松原町通町馬場町

屋町惠美須町車町柳町浜町向江町新照院通町通町山口馬場

師馬場町西町新屋敷町上荒田町高麗町上ノ園町加治冷水通町

下龍尾町上龍尾町池ノ上町鼓川町 貳拾壹村 中元村荒田村

稻荷馬場町清水馬場町春日小路町 村田比志島村岡ノ原村川上村小野村下伊敷村元村塩屋村吉野村

田村比志島村岡ノ原村川上村小野村下伊敷村元村塩屋村吉野村

ヲ管ス

町村数 町 四拾 村 壹拾 驛 壹 總計六拾九

官用地 鹿兒島県庁 薩摩大隅日向三州ヲ管ス、本郡鹿兒島山下

合、東西式町式拾七間、南北三拾町式拾七間、 鹿兒島警察

北緯三拾壹度三拾五分、西經九度拾六分ニ在リ

署 鹿兒島山ノ口馬場町ニ在 鹿兒島裁判所 司法省用地ニ

山下町ニ在リ、面 積千九百九拾六坪 勸業試験場 壹千四百三拾八坪

同上 本郡西田村ニ在リ、面 積七千八百八拾六坪 監獄署 鹿兒島小川町ニ在リ、

内務省用地ニ屬ス、六日町 二在リ、面積九拾四坪式合

官用地 陸軍省用地 三拾町六反 海軍省用地 五反八 内

務省用地 拾式町六 七畝拾八歩 畝壹歩 師範學校用

地 壹反九畝 女子師範學校用地 式拾六歩 中学校用地

拾壹歩

四反式 解剖場用地 壹反式 練兵場敷地 八町八反八
畝四歩 四町四反 墳墓地 拾歩 絞罪場 式拾五歩 砂揚場

天保山 四畝六歩 井戸敷地 拾 堂宇敷地 九 押堀 貳反六畝
壹反六畝 拾四歩 畑 拾七町三反六 原野 壹畝貳拾歩 宅地

田 壹反六畝 畑 貳拾貳歩 山林 百拾町壹反 社地 五畝歩 荒蕪地
壹町九反六 貳拾壹歩 柴草生地 五町九反八 藪 六反三畝 沼地
貳拾貳町九 反九畝四歩 附寄洲 七畝貳 礮 貳町五 總計五百三拾貳町四
壹歩

稅地 田 千五百七拾四町五 畑 四千五百拾九町 原野 八百
壹反七畝 反三畝貳拾五歩 宅地 八百四拾貳町 山林 千五百町四 柴生地 七町
拾四歩 百七拾七町壹 反貳畝拾壹歩 田畑荒地 九反壹 塩田 三拾貳町壹反 稻
乾場 六畝 墳墓地 貳町六 總計九千六拾壹町七反五畝
五歩

貢租 地租 金三萬八千三百三拾八 營業稅 金壹萬六千貳百
円貳拾九錢七厘四毛 円貳拾九錢九厘 總計金七萬五千四百五拾三円五
錢四毛

地方稅 金貳萬千八拾四 總計金七萬五千四百五拾三円五
錢四毛

戶數 本籍貳萬三千八百拾貳戸 土族八千六百貳拾八戸、
平民壹萬五千八百拾四戸、
寄留二百貳拾貳戸 華族壹戸、土族百貳 社八拾戸 官社壹
吏社壹 寄留二百貳拾貳戸 拾壹戸、平民貳百戸 鹿兒島縣

社三座、郷社拾座、村社 總計貳萬四千貳百拾四戸
式拾六座、無俗社四拾座 人口 男三萬貳千八百七拾貳口 土族壹萬貳千五百八拾七口、平
民貳萬九千九百八拾壹口、總計七
萬七千九百八拾九口 他出寄留八百五拾三口、男三
百七拾壹口、女四百八拾壹口 寄留
男四拾九口、女五拾九口、總計百八口

牛馬 牛六百貳拾八頭 牡牛三百四拾壹頭 馬五千九拾貳
頭 牡馬貳千四百七拾七頭、牝
馬三千四百七拾五頭 總計五千八百貳拾頭
舟 蒸氣船貳艘 百噸以上 漁舟四拾壹艘、遊船貳艘、總
計四拾五艘

山川 花尾山 本郡及ヒ日置郡ニ跨ル、高サ凡貳百七拾六丈、周
圍凡壹里四町 山ノ東ハ本郡本名村ニ屬シ、西ハ日
置郡厚地村ニ屬ス、山脉東北矢嶽ニ連ル、全 矢嶽 本郡及ヒ
山樹木翁蔚溪流流出ツ、即チ甲突川ノ源ナリ 日置郡大
隅始羅郡ニ跨ル、高サ凡四百四拾四丈、嶺上ヨリ三分シ、南ハ
日置郡厚地村ニ屬シ、東ハ本郡本名村ニ屬シ、北ハ大隅始羅郡
白尾村ニ屬ス、全山緑山鬱茂、山脉東ハ吉田郷ノ諸山ニ
控キ、北ハ大隅蒲生郷ノ諸山ニ接シ、南ハ花尾山ニ連ル 三
重嶽 本郡及ヒ日置ニ跨ル、高サ凡三拾丈、周圍凡ソ壹里、
山ノ東北ハ、本郡比志島村本名村ニ屬シ、西北ハ、日置
郡東俣村ニ屬 牟禮岡 本郡及ヒ大隅始羅郡ニ跨ル、高サ凡
ス、樹木鮮シ 全禮岡 本郡及ヒ大隅始羅郡ニ跨ル、高サ凡
頗ル曠漠、古ハ本郷吉田ニ屬シ、西南麓ハ吉野村ニ屬ス、原野
頗ル曠漠、古ハ本郷吉田ニ屬シ、西南麓ハ吉野村ニ屬ス、原野
ス 甲突川 江月又神月ニ作ル、幹流源ヲ日置郡厚地村花尾山
ニ發シ、厚地村ノ東北ヲ流レ、祓川ヲ合セ、南流
シテ松下川ヲ合セ、又南東俣村ヲ過キ、川田村ニ至テ、瀑布ト
為リ、本郷小山田村ニ至テ、郡山川ニ合シ、又東南比志島川ヲ

鹿兒島縣地誌(抄)

五

病院 私立病院二 一八鹿兒島二本松馬場町ニ在リ

電線 線路 本郡鹿兒島ヨリ東京ニ通ス、鹿兒島電信分局ヨリ鹿兒島市街ノ北ヲ過ギ、吉野村ヲ經テ、大隅始羅郡平

松村ニ入ル、長サ式里式 鹿兒島山下町ニ在リ、面積四百式拾五坪七合

拾七町、日向路ニ傍フ 電信分局 飯設一八吉野村ニ在リ、面積九拾四坪式合

郵便 郵便局 鹿兒島六日町ニ在リ 同上 在リ 一八東佐多浦村ニ在リ

郡役所 鹿兒島築町ニ在リ、明治十四年八月鹿兒島山ノ口馬場町ニ移ス、今鹿兒島郡谷山郡日置郡熊毛郡馭摸郡五郡ヲ管ス

物産 動物 一ヶ年魚獵ノ概額雜魚四億式拾四萬千五百拾尾、塩屋村ヨリ出ツ小海老凡拾石、宇宿村ヨリ出ツ鮎凡五

千頭、春夏ノ間甲突川ニ産 植物 壹ヶ年収獲高米老萬三千六

ス、小山田村ニテ之ヲ獲 百五拾式石五斗式升三合、

其質美ナラズ、上伊敷村・下伊敷村・荒田村ヨリ出ル者、其質稍佳ナリ、雜穀老萬百九拾石八斗六升八合、蕎麥ハ吉野村ヨリ

出ル者其質最佳ナリ、粟ハ坂元村ヨリ出ル者其質佳ナリ、甘藷六百七拾八萬四千式拾三斤、吉野村ヨリ出ル者其質佳ナリ、油

菜子三百七拾石九升、吉野村・犬迫村・小山田村ノ諸村ヨリ出ツ煙草三百斤、田上村ヨリ出ツ、其質美ナラズ、柿実八百七

拾五斤、金柑式石五斗、下田村ヨ 飲食 塩四千六百式拾五

リ出ツ、高菜三拾駄田上村ヨリ出ツ 石、塩屋村・荒田村

中村・郡元村ヨリ出 器用 陶器一ヶ年製造ノ價額八千九百

ツ、鹿兒島ニ輸出ス 鹿兒島ヨリ出ツ、絹布綿布ノ

類式千三百九拾式反、帶地式百九拾老筋、其他紙筆竹

細工燐枝・傘・櫛・挽糸ノ類、鹿兒島授産場ヨリ出ツ

民業 本郡各村男女皆農ヲ業トスト難モ、郡ノ西北西別府村・犬迫村・小山田村・比志島村・本名村ノ諸村ハ、多クハ山林ニ屬ス、其民農隙菜薪燒炭ヲ業トス、東南西田村・鹿兒島地誌(抄)

武村・荒田村・上伊敷村・下伊敷村・小野村・永吉村・

郡元村・中村ノ諸村ハ、平田多シ、其民專ラ農ヲ業トス、

郡ノ北吉野村ノ一村ハ、原野多ク、土地爽塏ニシテ、水

利便ナラス、雜穀ヲ植ユ、其民皆農ヲ業トス

鹿兒島 從前、市街郡村ノ經界、明力ナラサルヲ以テ、

明治十二年十一月区域ヲ定ム 鹿治、鹿兒島県、薩摩大隅日向三州ヲ管ス

県庁鹿兒島郡鹿兒島山下町ニ在リ、坪數老萬式千六百八拾壹

拾五分、西經 東南式町式拾七間、南北三町式拾七間、町

數四拾七 山下町 県庁所在ノ地ニシテ、城山ノ麓ヲ繞リ、西南ハ平ノ馬

場町ニ通シ、東北ハ長田町ニ通シ、正東ハ中町・六日町

・易居町 二接対ス 易居町 県庁ノ東ニ方リ、西ハ山下町南ハ六日町

・築町、北ハ小川町、東ハ生産町ニ接ス

生産町 県庁ノ東ニ方リ、南ハ野上橋ヲ踰テ、築町ニ通シ、北

東ハ海 二面ス 八阿蘇橋ヲ踰テ、小川町ニ通シ、西ハ易居町ニ接シ、

六日町 県庁ノ東ニ方ル、山下町ヨ

・築町 県庁ノ東ニ方ル、安永中海岸ヲ埋テ、此地ヲ拓

・汐見町 南ハ住吉町、西ハ泉町ニ接ス

・泉町 泉町ノ東南ニ在リ、東ハ海岸 泉町ノ東南ニ方ル、北ハ

・築町、南ハ堀江町接ス

金生町

県庁ノ南ニ方ル、西ハ中町ニ隣シ
南ハ大黒町、北ハ六日町ニ接ス

中町

県庁ノ南ニ方ル、北ハ山
下町、南ハ呉服町ニ接ス

呉服町

県庁ノ南ニシテ、北ハ中町、東ハ大黒町
南ハ船津町、西ハ山口馬場町ニ通ス

大黒町

県庁ノ東南ニ方リ、北ハ金生町、
東ハ堀江町、南ハ新町ニ通ス

堀江町

県庁ノ東南ニ方リ、北ハ泉町ニ隣
リ、南ハ海岸、東ハ住吉町迄ヲ云フ

住吉町

県庁ノ東南ニ方リ、東南海岸
ヲ抱キ、北ハ汐見町ニ隣ス

船津町

県庁ノ南ニ方リ、北ハ呉服町ニ
東ハ新町、南ハ松原通町ニ通ス

新町

県庁ノ南ニ方ル、北ハ大黒町、東
ハ堀江町、南ハ松原通町迄ヲ云フ

松原通町

県庁ノ南ニ方リ、東ハ海岸、北ハ船津町新
町、西ハ樋ノ口通町、南ハ塩屋村迄ヲ云フ

以上大称シテ之ヲ下町ト云フ

小川町

県庁ノ南ニ方ル、山下町ヨリ東ニ折レ、北ハ和泉屋町
南ハ易居町、東ハ海岸迄ヲ云フ、南阿蘇橋ヲ過キテ、生

産町ニ
通ス

和泉屋町

県庁ノ北ニ方ル、長田町ヨリ東ニ折レ、北ハ
恵美須町、東ハ浜町、南ハ小川町迄ヲ云フ

恵美須町

県庁ノ北ニ方ル、和泉屋町ヨリ北ニ折
レ、東ハ浜町、北ハ栄町車町迄ヲ云フ

車町

県庁ノ北ニ方ル、南ハ恵美須町、
北ハ下竜尾町、東ハ栄町迄ヲ云フ

栄町

県庁ノ北ニ方ル、西ハ車町、北
ハ下竜尾町、東ハ柳町迄ヲ云フ

柳町

県庁ノ北ニシテ、東ハ向江町、南
ハ栄町、北ハ春日小路町迄ヲ云フ

濱町

県庁ノ東北ニ方ル、東ハ海岸、北ハ向江町ニ通
シ、西南濠ヲ隔テテ、和泉屋町・小川町ニ対ス

向江町

県庁ノ東北ニ方ル、南ハ浜町、北
ハ柳町、東ハ春日小路町迄ヲ云フ

以上大称シテ之ヲ上町ト曰フ

新照院通町

県庁ノ西ニ方ル、城山ノ麓ヨリ江月川
ニ傍ヒ、南平ノ馬場町ニ至ル迄ヲ云フ

薬師馬場町

県庁ノ西ニ方ル、南ハ西田町ニ接シ
西ハ西田村、東ハ鷹師馬場町ニ隣ル

鷹師馬場町

県庁ノ西ニ方ル、南ハ西田町迄ヲ云フ
西田町 帯ノ市街ニシテ、即肥後街道ニ属ス

西田町

県庁ノ西ニ方ル、西田橋西ニ通スル一
帯ノ市街ニシテ、即肥後街道ニ属ス

平ノ馬場町

県庁ノ西ニ方ル、北ハ城山ノ麓ヨリ、南ハ千石
町ニ抵リ、西ハ江月川、東ハ山下町迄ヲ云フ

西千石町

県庁ノ西南ニ方リ、西ハ江月川、南
ハ加治屋町、東ハ千石町迄ヲ云フ

東千石町

県庁ノ南ニシテ、山下町ヨリ西ニ折レ、
南ハ山口馬場町、東ハ中町迄ヲ云フ

加治屋町

県庁ノ南ニシテ、西ハ江月川、東ハ山
口馬場町、南ハ樋ノ口通町迄ヲ云フ

山口馬場町

県庁ノ南ニ方ル、北千石町、南ハ樋ノ
口通町、東ハ呉服町船津町迄ヲ云フ

樋ノ口通町

県庁ノ南ニ方リ、西ハ加治屋町、南ハ樋ノ
口通町、東ハ松原通町、北ハ船津町迄ヲ云フ

新屋敷通町

県庁ノ南ニ方ル、西南ハ江月川ヲ隔テ、下荒田町
ニ対シ、東ハ塩屋村ニ界シ、北ハ樋ノ口町ニ隣ル

下荒田町

県庁ノ南ニ方ル、南ハ中村、西ハ上荒田村、東ハ天保
山ニ
対ス

高麗町

県庁ノ南ニ方ル、東北ハ江月川ヲ帯ヒ
西ハ上ノ園通町、東南ハ荒田村ニ接ス

上ノ園通町

県庁ノ西南ニ方ル、東ハ高麗町、西南ハ武
村、北ハ江月川ヲ隔テテ、加治屋町ニ対ス

冷水通町

県庁ノ北ニ方ル、西ハ下伊敷村、東
ハ長田町ニシテ、城山ノ麓ニ接ス

長田町

県庁ノ北ニ方ル、西北ハ冷水通町、西南ハ山下町・易
居町ニ接シ、北ハ下竜尾町、和泉屋町・小川町ニ隣ル

下龍尾町 県庁ノ東北ニ方ル、南ハ長田町、西ハ坂元村、北ハ上龍尾町、東ハ車町・惠美須町・和泉屋町ニ対ス
 上龍尾町 東ハ春日小路町ニ隣リ、西ハ坂元村ニ界ス
 池ノ上町 山南ノ龍尾町、東ハ榑木川ニ界ス

鼓川町 県庁ノ東北ニ方ル、西ハ福昌寺山、北ハ坂元村、南ハ池ノ上町ニ隣リ、榑木川ヲ隔テテ、稻荷馬場町ニ対ス
 稻荷馬場町 県庁ノ東北ニ方ル、西ハ榑木川ヲ隔テテ、鼓川町ニ対シ、南ハ清水馬場町ニ接シ、東北ハ吉野村ニ界ス

清水馬場町 馬場町、東ハ海岸、南ハ春日小路町ニ対ス
 春日小路町 県庁ノ東北ニ方ル、西南ハ柳町向江町ニ隣リ、東ハ海岸、北ハ榑木川ヲ隔テテ、清水馬場町ニ対ス
 鹿兒島 旧藩城下鹿兒島ト称スル地ハ、慶長七年島津家久鶴丸城ヲ築キ、明治二年島津忠義之ヲ奉還ス

疆域 東南海峡ニ面シ、西ハ西田村・武村・永吉村・下伊敷村ニ接シ、南ハ荒田村ニ隣リ、北ハ丘陵ヲ以テ、坂元村・吉野村ニ界ス

幅員 東西三拾三町、南北壹里貳町拾間
 地勢 東南海峡ニ面シ西北岡陵ヲ負ヒ、甲突川市街ノ西ヲ東南流シテ海ニ入ル、魚塩饒足シテ、運輸便利

地味 海濱ハ其色薄黒ニシテ、斥鹵、山地ハ赤噴、皆大
 小麦及ヒ菓蔬ニ宜シ

官有地 鹿兒島県庁 山下町ニアリ、面積壹萬
 山ノ口馬場町ニアリ、式千六百八拾壹坪六合
 警察本署
 面積四百四拾九坪三合 鹿兒島裁判所 山下町ニアリ、面積

九 鹿兒島県地誌(抄)

九 鹿兒島県地誌(抄)

九 鹿兒島県地誌(抄)

積千九百 勸業試験場 山下町ニ在リ、面積九拾六坪
 壹千四百三拾八坪
 監獄署小町ニ在リ、面積式
 工務省用地ニ屬ス、山下町千拾九坪式合五勺
 電信分局 二在リ、面積四百式拾六坪
 郵便局 二在リ、面積九拾四坪式合

官有地 海軍省用地 旧造船場、春日小路町字鶴江崎ニ在リ、面積壹千七百四拾壹坪四合
 砲墩、汐見町辨天波止ニ在 砲墩、小陸軍省用地 砲墩、汐見町辨天波止ニ在 砲墩、川町新台

場面積壹千 五百四拾坪 同上 砲墩、清水馬場町字祇園洲ニ在リ、面積四千八百式拾四坪 同上
 清水馬場町字東福ヶ城ニ在 砲墩、清水馬場町字風月
 同上 面積壹千五百五拾坪 亭ニ在リ、面積式千四百

八拾 同上 旧當所跡、山下町字上ノ屋杉ニ在 同上
 兵第六方面同所、面積四萬式千四百五拾八坪 同上
 積四千四百式拾七坪 同上 旧練兵場跡同所、面積

學校用地 山下町ニ在リ、面積壹千五百八拾壹坪三合
 女子師範學校用地 所同
 七百七拾 同上 易居町ニ在リ、面積壹千六百六拾四坪式合
 六坪式合 同上 解剖場

用地 春日小路町字鶴江崎ニ在リ、面積三百七拾六坪八合
 稅地 田 拾五町三反五 畑 貳拾三町四反 宅地 三百九拾
 畝式拾七步 五畝式拾步 式町八反

步拾 總計四百三拾壹町六反壹畝式拾七步
 字地 ウチマル 県庁ノ北ニアリ、上龍尾町ニ屬ス、
 内ノ丸 東西凡拾壹町、南北凡三町五間
 イワサキ 県庁ノ北城山ノ麓

属ス、東西凡貳町、南北之ニ同シ 岩崎 ヲ云フ、山下町ニ
 属ス、東西凡貳町、岩崎 ヲ云フ、山下町ニ
 南北凡三拾間 壱野 県庁ノ北ニアリ、下龍尾町ニ屬
 凡五 城ヶ谷 岩崎ノ北ニアリ、長田町七町四拾五間、南北

凡五 城ヶ谷 東西凡九町拾五間、南北凡拾町
 冷水

城ヶ谷ノ東北ニアリ、冷水通町ニ属ス、ナカフクラ 中福良 二アリ、ナカフクラ 中福良 二アリ、

東西凡拾七町拾五間、ホリ 堀ノ面 属スノ北ニアリ、長田町ニ

凡式町、南北ニ属ス、東西 堀ノ面 属ス、東西凡三町拾三間、

北凡壹町、ウシロザコ 後迫 属ス、東北ニアリ、稲荷馬場町ニ

五拾貳間、ウシロザコ 後迫 属ス、東西凡三町、南北凡八町、田ノ 田ノ

浦 属スノ東海浜ヲ云フ、東西凡三 大門口 属スノ南海浜

通町ニ属ス、東西凡 中洲 属スノ南ニアリ、高麗町ニ属

三町、南北凡式町、ナカス 中洲 属スノ南ニアリ、高麗町ニ属

北凡四町、ミスマカト 三角門 属スノ南ニアリ、上ノ園通町ニ属ス、東

三町三間、ミスマカト 三角門 属スノ南ニアリ、上ノ園通町ニ属ス、東

築地 属スノ東海浜ヲ云フ、ツルヘサキ 鶴江岬 属スノ東海浜ヲ云フ、春日小路町ニ属ス、

東海浜ヲ云フ、春日小路町ニ属ス、マダラチ 町口 属スノ西ニ

壹萬四千貳百五拾四戸

人口 男壹萬九千九百七拾貳口、士族五千五拾七口、 平民六千九百拾五口、 女貳

万參千貳百八拾八口、士族九千九百九拾七口、 平民壹萬四千八拾九口、 總計三万五

千貳百五拾八口、他出寄留貳百九拾六 口、男三拾貳口、

牛馬 牛五拾四頭、牝牛四拾三頭、 馬貳百一拾壹頭、牝馬 拾六

頭、牡牛拾壹頭、 馬貳百一拾壹頭、牝馬 拾六

舟車 蒸氣船六艘、百噸以上壹艘、 西洋形風帆船拾八艘

百噸以上拾艘、百噸未満五艘、 日本形船三百八艘、千石以上貳艘、 千石未

百噸未満八艘、千石以上貳艘、 千石未滿五百石以上九艘、五 拾石以上八艘、五拾石未滿貳百八拾三艘、 總計三百三拾

貳艘、荷車百拾九輛、 大七車拾五輛、人力車貳百四拾三 輛、總計三百六拾貳輛

山 城山 一ニ鶴嶺ト称ス、鹿児島灣ヲ距ル西北八町許ニアリ、

高サ凡三拾丈、周圍凡壹里半、 山ノ西ハ下伊敷村ニ

属ス、山脈西江月川ノ涯ヨリ起リ、 斜メニ東北ニ繞テ、浄光 明寺、東福寺 多賀山及ヒ吉野村ノ諸山ニ接ス、山ノ東面樹木鬱 葱、其麓島津氏ノ城址アリ、 登路ニ塔十字形ヲ成ス、山ノ北 麓字岩崎ヨリ、南新照院通町ニ出ルヲ 岩崎越ト云フ、山ノ東麓 ヨリ西下伊敷村ニ出

ルヲ城ヶ谷越ト云フ、浄光明寺山 式拾丈、古ヘ浄光明寺ア リ、遂ニ山ノ名ト為ル、 山ノ西ハ城元村ニ

属ス、山山西郷隆盛以下數百人ノ墳墓アリ、 東福寺山ノ東海

浜ニ聳ユ高サ凡三拾五丈、山脈吉野村ノ諸山ニ接ス、 全山樹

木蒼鬱、山ノ東麓ヨリ登ル凡式拾町、 鳥越ト云フ、即チ鹿児島

三、無格社貳、招魂社壹、 村社 寺八戸、禪宗三、天台宗壹、 真言宗一、真宗三、 總計

戸數 本籍壹萬三千九百四拾壹戸、士族六千八百八拾戸、 平民七千七百六拾壹戸、

寄留貳百八拾八戸、士族九拾九戸、 平民百八拾九戸、社拾七戸、 郷社九、

島ト吉野村トノ界ナリ、山ノ
シテ、得ル浄光明寺山ニ同シ
シテ、海ニ枕ム、山上古松數
樹、多賀神社アリ、故ニ名ク

多賀山 東福寺山ト一脈ナ
リ、東ハ巉島峭立

川 甲突川 幹流一ニ江月川・神月川ニ作ル、源ヲ日置郡花尾
山ニ発シ、本郡ニ入り、敷村ヲ經、下伊敷村ノ界

ヨリ、鹿兒島市街ノ西ヲ東南流シテ、洲崎ヨリ海ニ入ル、長
凡三拾貳町、上流ハ広サ凡貳拾五間、下流ハ凡三拾九間、
其流清シテ、舒緩、鹿 新上橋 石造長サ貳拾五間八尺、
児島ニ四大橋ヲ架ス 廣サ貳拾三間壹尺五寸、

新照院通町ヨリ鷹師馬場町ニ 西田橋 石造長サ貳拾七間
通ス、水ノ深サ平水凡壹尺 貳尺、廣サ四間壹
尺七寸、千石馬場町ト西田町トノ間ニ 高麗橋 石造長サ
架ス、九州街道ニ屬ス、水ノ深サ同上 三拾間壹
尺五寸、加治屋町ト高麗町トノ間ニ架 武ノ橋 石造長サ
ス、谷山別街道ニ屬ス、水ノ深サ同上 三拾九間

老尺、廣サ三間三尺貳寸、新屋敷町ト下荒 榑木川 ヲ本郡
田町トノ間ニ架ス、水ノ深サ平水壹尺五寸 榑木川 ヲ本郡
宮ノ浦山中ヨリ発シ、東福寺山ノ間ヲ流レ、榑荷馬場町ニ至
ツテ、榑荷川ト稱シ、鼓川町ニ至テ、鼓川ヲ合セ、東流シ

テ多賀山ノ麓ニ出テ、鶴江崎ヨリ裏海ニ注ク、長サ吉野村ノ
界ヨリ凡拾五町、上流ハ広サ凡八間余、下流ハ長サ吉野村ノ
深サ平水凡貳尺、鹿 榑荷橋 榑木川ノ上流榑荷馬場町ニ架
児島ニ六石橋ヲ架ス、長サ八八間八寸、廣サ貳

間五 大乗院橋 同町ニ架ス、長サ八 一ツ橋 清水馬場
寸 間廣サ貳間四尺八寸 町ヨリ池
ノ上町ニ通ス、長サ七 葛原橋 清水馬場町ヨリ春日小路町
間四尺、廣サ貳間壹尺 長サ七間五尺、廣

サ貳間 戸柱橋 同上長サ拾五間三尺 精木川 榑木川
老尺 二架ス、清水馬場町ヨリ春日小路町ニ通 鼓川 鼓川町字
ス、長サ貳拾壹間四尺、廣サ貳間四尺、平 蛇ノ穴ヨ

リ湧キ出テ、南流シテ、榑木川ニ入ル、平 滑川 單流水
常水少シ、大雨毎ニ暴漲ス、廣サ凡壹間半 源城山

鹿兒島県地誌(抄)

ノ北麓ヨリ出テ、冷水通町・長田町ヲ過ギ、小
川町・生産町ノ間ヨリ海ニ注ク、長サ凡ソ六町 阿蘇橋

滑川ノ下流ニ架ス、小川町ト生産町トノ間 濠 北ニ在リ、
ニアリ、板橋長拾四間、廣サ貳間壹尺壹寸 長サ凡六町、
長サ凡六町、濶サ最広ノ処凡拾五間、最狭ノ処三間壹尺五
寸、北ハ榑木川ノ下流ニ合シ、南ハ灣曲シテ海潮ヲ通ス、乾

潮ノ時ハ水無シ、 行屋橋 惠美須町ト浜町ノ間ニ架ス、
五石橋ヲ架ス、長サ五間貳尺、廣サ貳間四尺
孝行橋 浜町ト柴町トノ間ニ架ス、長サ 蛭子橋 柳町ト
四間三尺五寸、廣サ貳間五寸 同上長サ三間三尺

尺五寸、廣サ壹間貳尺 汐見橋 廣サ壹間貳尺五寸
ノ間ニ架ス、長サ三間壹 境橋 春日町ニ架ス、長サ拾五
尺、廣サ貳間貳尺 名山濠 小川町ノ南ヨリ山
至リ、磐折シテ海潮ヲ通ス、乾潮ノ時ハ水無シ、長凡七町、
廣サ最広ノ処六間、最狭ノ処四間三尺六寸、六石橋ヲ架ス、其

五ハ山下町ト易居町トノ間ニアリ、橋 石橋長サ八
名ナシ、橋ノ長サ大抵濠ノ廣サニ準ス 野上橋 間壹尺、廣
サ貳間三尺、名山濠ニ架ス 生産町ト築町ノ間ニ在リ

森林 松原 鹿兒島ノ南隅海浜ニアリ、官有ニ屬ス、東西凡七
者困凡老丈七尺 南北貳町半、蒼松森立雜樹無シ、其最大ナル
長サノニ協フ

道路 九州街道 一ニ出水街道ト稱ス、国道三等ニ屬ス、山下
町元標ヨリ東千石町西千石町西田町ヲ經テ、
西田村ノ界ニ至 肥後別路 一ニ郡山街道ト稱ス、標ヨリ平
ル長凡拾七町 等ニ屬ス、山下町元標ヨリ平

ノ馬場町真照院通町ヲ經テ、 山川路 一ニ谷山街道ト稱
西田村ノ界ニ至ル長凡拾町 ス、県道三等ニ屬
ス、山下町元標ヨリ西新屋敷町下荒田町 大隅路 一ニ福山
ヲ過ギ、荒田ノ界ニ至ル長凡三拾三町 街道ト稱
ス、県道一等ニ屬ス、山下町元標ヨリ 里道一
北吉野村ノ界ニ至ル長凡貳拾貳町 等ニ屬

ス、山下町元標ヨリ池ノ上町鼓川町ヲ経テ、坂元村ノ境ニ至ル長尺貳拾八町

港湾 鹿児島湾 東南ヨリ西北ニ亘ル長凡三町、西北幅拾町、深サ拾三仞ヨリ貳仞ニ至ル、東南二向ヲ

燈明台 辨天波止竿燈 鹿児島湾辨天砲台沖ナル波止場ノ北端、北緯三拾壹度三拾貳分五秒、東

曆百三拾度三拾分貳拾壹秒ニアリ、明治十二年四月十五日西曆千八百七十九年第四月十五日ヨリ点燈、形質ハ白色、竿燈ニシテ基礎ヨリ燈火ニ至ル高サ四丈、水面ヨリ燈火ニ至ル高サ四丈五尺、燈光ハ不動赤色ニシテ、射光ノ方位ハ、全度、光達ノ距離ハ六里、建築費ハ中村真五左衛門等ノ私費ニ属ス

墳墓 死者者墓 鹿児島祇園洲ニアリ、明治十年丁丑ノ麥、陸海軍軍人軍属戦死或ハ病死ノ者ヲ葬ル

同上 鹿児島官所ノ西ニ 丁丑賊軍戦死墓 鹿児島浄光明寺ニアリ、事由ハ同上 寺山ニアリ、

丁丑ノ歳、官軍ニ敵シ戦死セシ旧陸 僧月照墓 鹿児島南軍大將西郷隆盛以下數十人ヲ葬ル 寺山ニアリ、

リ、月照ハ京師ノ僧ニシテ、徳川氏ノ末、多年 林寺ニアリ、王事ニ勤勞シ、事遂ニ成ラス海ニ投シテ死ス

社 照国神社 県社、山下町ノ西ニアリ、社地東西四拾貳間、南北拾壹間、面積四百九拾八坪七合四勺、島津

奇彬ヲ祭ル、文久三年癸亥明彦神勲照国ノ神号ヲ賜リ、元治元年甲子十二月島津忠義創建、例祭一月十一日、九月二十八日

鶴嶺神社 県社、平ノ馬場町ニアリ、社地東西六拾八間、南北八拾五間、面積三千六百貳拾貳坪貳合六勺、島津

津氏祖先ノ靈ヲ祭ル、明治二年十一月島津 郷社、忠義創建、例祭二月五日、十一月ノ辰日 八坂神社 元祇園

社トス、清水馬場町ニアリ、社地東西三拾八間、南北四拾間四尺、面積八百貳拾八坪七勺、素盛鳴命稲田姫命、神ヲ祭

リ、創建年月詳ナラズ、例祭六月十五日、社ノ北拾町許ニ石アリ形意ニ類ス、肩ノ高サ壹丈五尺八寸、頭垂テ西ニ向フ

地ヲ距ル、周圍六丈六寸、尾地 若宮神社 郷社、池ノ上町ニアリ、社地東西三拾五

間三尺、南北五拾間、面積九百五坪貳合六勺、仁徳天皇應仁天皇神功皇后ノ三神ヲ祭ル、島津貞久ノ創建スル処、例祭九月九日

春日神社 郷社、春日小路町ニアリ、社地東西三拾拾坪、創建年月詳ナラス、例祭十一月二十八日 南方

老坪、武甕槌命・経津主命・天児屋根命・姫大神四神ヲ祭ル、創建年月詳ナラス、例祭十一月二十八日 南方

神社 郷社、元諏訪神社ト称ス、清水馬場町ニ在リ、社地東西五拾四間壹尺、南北五拾四間壹尺五寸、面積千九百

八拾四坪五合五勺、南方乃美命ヲ祭ル、島津貞久薩摩出水郡山門院ヨリ遷座、例祭七月廿八日 稻荷神社

郷社、稻荷馬場町ニアリ、社地東西七拾七間、南北拾壹間、面積七百七拾三坪八合九勺、宇迦御魂神・猿田彦大神・大官禰

命ノ三神ヲ祭ル、島津氏九代忠国 松原神社 町ニアリ、社ノ創建スル処、例祭十一月三日

地東西壹拾九間、南北壹拾九間、面積三千四拾五坪四合五勺、島津氏十五代貴久及七十六代義久父子ヲ祭ル、例祭六月二十

三日 長田神社 郷社、長田町ニアリ、社地東西五拾壹五勺、羽八重事代主命ヲ祭ル、創建 鶴江崎神社 郷社、

年月詳ナラス、例祭十一月中卯日、創建 鶴江崎神社 春日小路町ニアリ、社地東西六拾四間、南北拾五間三尺、面積八

三拾八坪九合九勺、天照大神ノ豊受姫命ニ神ヲ祭ル、宝永三年九月創建 多賀神社 郷社、鹿児島ノ北多賀山ニアリ

例祭九月九日 社地東西貳拾八間五寸、南北四拾四間、面積七百貳拾九坪壹合、伊弉諾命ヲ祭ル

天正七年己卯二月六日創建、例祭四月廿八日 住吉神社

社 凡社、新屋敷通町ニアリ、社地東西凡拾八間五尺、南北八間貳尺五寸、面積百七拾四坪五合三勺、祭神創建年月不詳、例

八幡神社 村社、下荒田町ニアリ、社地東西積九百三拾坪三合六勺、神功皇后・應神天皇

玉依姬、祭例九月廿三日、創建年月詳ナラス 竈戸神社

村社、稻荷馬場町ニアリ、社地東西八間貳尺、南北三拾七間面積七百七拾坪三合五勺、奥津比古命ヲ祭ル、創建年月詳ナ

ラス、例祭十
二月二十九日 皇産靈神社 無格差、清水馬場町ニアリ

積三拾五坪九合杓、高皇産靈神、神皇産靈神、社地東西八間、南北八間、面
積二神ヲ祭ル、創建年月不詳、例祭十一月九日 大物主神社

無格社、清水馬場町土族佐藤千尋私有地ニアリ 招魂社
大物主神ヲ祭ル、文化二年創建、例祭三月十日

官社、山下町ノ西ニアリ、社地東西三拾間、南北拾九間、面
積五百四拾四坪八合五勺、慶應四年戊辰以後、鳥羽伏見奥羽

北越其他各地ノ戦ヨリ以テ会津藩降伏ニ至ルノ間、戦死セシ
鹿兒島藩士ヲ祭ル、例祭正月三日・五月十五日・九月二十三日

寺 福昌寺 曹洞宗、東西四拾間、南北式拾八間、面積千四百
廿五日 拾三坪六合杓、長田町ニアリ、明治十一年五月

再興 相国寺 臨濟宗、東西拾九間、南北拾九間、面積
一月設置 式百貳拾八坪式合六勺、松原通町ニアリ、

一月設置 南林寺 曹洞宗、東西拾四間、南北拾四間、
アリ、天文申島津貴久ノ創建スル所、慶應 最大乗院 言

中之ヲ廢ス、明治十三年二月十九日再興 慶應中
宗、東西五拾間、南北式拾三間、面積千七百七拾五坪四合七勺、

長田町ニアリ、天文申、島津貴久創業スル所、慶應中
ノ廢ス、明治十 興正寺派別院 真宗、東西拾八間三尺、

二年十一月再興 小川町ニアリ 南北拾七間三尺、面積三
百三拾壹坪、西本願寺派別院 真宗、東

明治十一年五月十六日創建 間三尺、南北五拾式間式尺五寸、面積式千八百五拾九坪
式合三勺、東千石馬場町ニアリ、明治十一年八月創建

東本願寺派別院 真宗、東西式拾三間、南北拾八間、面積
四百拾坪、新町ニアリ、明治十一年六月

廿六日 常樂院 天台宗、東西拾六間、南北九間、面積百
四拾五坪六合杓、長田町ニアリ、明治

十三年一月 十三日再興

廿七日再興

學校 県立師範學校 山下町ニアリ、生 全附属小學校 所同
徒男百四拾六人

鹿兒島県地誌(抄)

生徒男百六拾人 県立女子師範學校 同所生徒女
女三拾七人 易居町ニアリ 九拾五人 県

立中學校 生徒男九拾五人 公立小學校拾壹 町、一八
下竜尾町、一八上竜尾町、一八長田町、一八松原通町、一八

平ノ馬場町、一八車町、一八山之口馬場町、一八下荒田町、
一八西千石馬場町、一八高麗町ニアリ、生

徒合男式千八百五拾老人、女八百三拾式人
病院 私立病院式 一八二本松馬場通町ニ在
り、一八小川町ニ在り

軍鎮 鹿兒島宮所 山下町ニ在り、面積
六千四百五拾六坪

裁判所 鹿兒嶋裁判所 山下町ニ在り、面
積千九百九拾六坪

監獄署 小川町ニ在り、面積
式千九拾九坪式合五勺

郵便局 六日町ニ在り、面
積九拾四坪式合

郡役所 築町ニ
在り

戸長役場 一八山下町ニ在り、一八平ノ馬場町ニ在り、一八山
之口馬場町ニ在り、一八高麗町ニ在り、一八下竜尾

町ニ在り、一八西田町ニ在り、一八新町ニ在り、一八築町
ニ在り、一八西田町ニ在り、一八車ノ町ニ在り、一八浜町ニ

在り、總計拾壹、明
治十四年ノ調ニヨル

農事社 私立、山下町ニ在り、明治八年開業、牧牛及開
拓ノ事ニ従事ス、明治十三年牧牛ノ數六拾四頭

授産場 織物授産場 易居町ニ在り、明治十二年開設、一ヶ
年産出ノ概數絹布四百拾壹反、綿布千

五百四拾式反、帶 山下町ニ在り、明治十
地式百七拾壹筋 鹿兒嶋授産場

製出品ノ概數筆七萬四千九百五拾本、素麵千五百八拾貫六百
五拾目、傘五千五百七拾五本、雜紙式千四百三拾五束、燐枝

三年二月開設、一ヶ年

老萬五千式百四拾六ダース、櫛老萬四千三百六拾五本、竹細工六百九拾三個、挽糸百八拾五貫八百目、織物四百三拾九反、足袋式千式拾八足

清水馬場町ニ在リ、一年製造高八千九百円

陶器製作所 電信分局ヨリ山下町ヲ過キ、浜町向江町ヲ経テ、山ノ浦ヲ過リ、吉野村ニ入ル、長凡式拾町

電線 山下町ニ在リ、面積四百式拾六坪七合

古跡 鶴丸城墟 一二鹿兒島城ト云フ、鹿兒島灣ヲ距ル西北八町許ニ在リ、周圍凡三町、城山ニ倚ル、文治二年丙午四月島津忠久薩摩大隅ノ守護ト為リ、薩摩山門院木牟礼城ニ居リ、忠時・久経・忠宗・貞久ニ至ル五世之二居ル、正平九年甲午八月貞久薩摩ノ守護ヲ第三子師久ニ、大隅ノ守護ヲ第四子氏久ニ伝フ、是ニ於テ、師久ハ薩摩郡碓

山城ニ居リ、氏久ハ東福寺城ヲ鹿兒島ニ築キ、之二居リ、後大隅大始良城ニ遷リ、又日向志布志城ニ遷リ、又大隅桑原郡咲隈城ニ徙リ、又東福寺城ニ復ス、氏久東福寺城ノ狭隘ナルヲ以テ、広ケテ之ヲ大ニセント欲ス、未ダ果サズ、嘉慶中、島津元久清水城ヲ鹿兒島ニ築キ、之二移ル、久豊・忠国・立久・忠昌・忠治・忠隆ヲ経テ、嗣久ニ至ル、勝久ノ時、國中大ニ乱ル、島津貴久勝久ノ後ヲ嗣キ、伊集院城ヨリ清水城ニ徙リ、未タ幾モナクシテ、内城ヲ築キ、之二居ル、貴久ノ子義久貴久ノ後ヲ嗣キ内城ニ居ル、義久位ヲ其弟義弘ニ讓ル、退テ大隅国分郷富隈ニ居ル、義弘初、日向諸県郡飯野城ニ居リ、又、大隅桑原郡栗野城ニ移リ、又大隅帖佐郷平松ニ移リ、後、大隅加治木ニ移ル、慶長七年壬寅、鶴弘ノ子家久城ヲ鹿兒島ニ築キ、名ケテ上山城ト云ヒ、後、鶴弘城ト称シ、又、鹿兒島城ト称ス、薩摩・大隅・日向諸県郡及ヒ琉球国ヲ領ス、島津綱貴ノ時、鹿兒島城火災ニ罹ル、元禄十五年八月綱貴更ニ土工ヲ起シ、宝永七年庚寅二月成ル、其後、島津氏累世ニ之居ル、王政革新以降、兵部省ノ所管タリ、東福明治六年冬、復火災ニ罹ル、今其壁ヲ有スルノミ

寺城墟 鹿兒島ノ北、東福寺山ニ在リ、周圍凡拾五町、累壁猶存ス、長谷場永純之ヲ築ク、南北朝ノ時、肝付兼重・矢上高純・中村秀純等ト官軍ニ應シ、東福寺城浜崎增重馬楽城ノ諸城ニ據ル、島津貞久弟師忠等ヲシテ、衾冨清城重種等ヲ率テ、東福寺城ヲ攻ム、濱崎城墟 一二尾頸小城兼重高純等城ヲ棄テ、遁ル、

寺城墟ノ東、多賀山ニアリ、今、多賀神社ノ地ナリ、麓ニ椿木川ヲ帯ヒ、東ハ峭壁ニシテ、海ニ臨ム、清

水城墟 鹿兒島福昌寺山ノ東北ニアリ、周圍凡拾八町、嘉慶中、島津元久清水城ヲ築キ、日向ノ志布志城ヨリ之二移ル、元久ヨリ島津貴

久ニ至ル九世之二居ル、鹿兒島ノ北、上龍尾町存セス、天文十九年十二月島津貴久内城ヲ築キ、清水城ヨリ之二移リ、島津家久ニ至ル四世之二居ル、琉球

館墟 琉球国王以下來貢ノ時ノ邸宅ナリ、大龍寺廢寺

跡 即チ内城墟ノ地ナリ、禪宗、慶長中島津家久ノ創建スル所、慶應中廢ス

池之上町ニアリ、禪宗、應永元年十二月島津元久ノ創建スル所、慶應中廢ス

寺跡 鹿兒島ノ西北ニアリ、文治二年島津忠久ノ創建スル所、時衆宗、慶應中廢ス

寺跡 鹿兒島ノ東北ニ在リ、淨土宗、文禄五年、島津貴久創建、慶應中廢ス

寺跡 鹿兒島ノ北ニ在リ、曹洞宗、永正五年、本立寺廢寺跡ノ東北

中、島津忠治創建、慶應中廢ス

二在リ、時衆宗、五道院ト号ス、創建年月詳ナラス

島津忠久ヨリ貞久ニ至ル五世ノ石塔アリ、慶應中廢ス

名勝 田之浦 鹿兒島ノ東北、祇園洲ヨリ大磯ニ至ル迄ノ海浜ヲ云フ、前ニ桜島アリ、西南連山ノ際、遙ニ開

開岳ヲ眺ル 湧水 清水馬場町故大乘院ニ王門ノ側ヨリ湧

風景佳絶 湧水 清き水出ツ、酒造此水ヲ用ヒ酒ヲ醸ス、俗

ニ之ヲ二王 近衛水 鹿兒島冷水通町ニアリ、水極メテ清

堂水ト呼フ 冽、文禄慶長ノ間、近衛伸輔公鹿兒

島ニ来テ、此ニ住ス、
故ニ近衛水ノ名アリ
ト云 鶴江崎 鹿兒島ノ東北、
鹿兒島ノ北ニ在リ、又轟ノ小路
ヲ云フ 海ニ注クノ処ヲ云フ

物産 菓 橘柚及文旦ノ類 陶器 一ヶ年製造高代 絹布 四
其質頗ル美ナリ 価凡八千九百圓

拾壹 綿布 千五百圓 帶地 拾壹筋 雜品 紙筆竹細工
反 拾式反 燐枝素麵傘

櫛挽糸ノ類、授産
場ノ條ニ詳ナリ

民業 商ヲ業トスル者三千百七拾五戸、農ヲ業トスル者

八戸、工ヲ業トスル者式百七拾三戸、縫織ヲ業トスル

者拾戸、船業ヲ業トスル者五拾九戸、人力車夫式百五

拾八戸 (人物ノ項省略)

^{サカモト}坂元村 古時、今ノ鹿兒島ヲ併セテ、一村タリ、明治三

年下田村ヲ併セテ、一村ト爲ス、明治十二年一月鹿兒島ノ

区域ヲ定メ、十四年一月復本村ヲ割テ、下田村ヲ置ク

疆域 南ハ丘陵ヲ以テ、鹿兒島市街 上龍尾町 二界シ、東
池ノ上町

ハ吉野村ト精木川ヲ界トシ、西ハ隴畝ヲ以テ下伊敷村ニ

隣リ、北ハ畔道ヲ以テ下田村ニ界ス

管轄沿革 古時、藤原純友ノ子直純、鹿兒島郡司ト爲リ、

鹿兒島越前守ト称ス、直純ノ孫永純東福寺城ヲ築キ、之

二居ル、始テ長谷場ヲ氏トス ^{以上島津国} 鎌倉執政ノ

時、守護島津氏ニ属シ、永純ノ子矢上盛純鹿兒島郡ノ郡

鹿兒島県地誌(抄)

司タリ、時純・頼純・真純・義純相承ケ、高純ニ至ル、
高純曆應中、肝付兼重等ト官軍ニ應シ、東福寺城及ヒ催

馬樂城ニ據ル、島津貞久之ヲ攻ム、克タス、貞久ノ子氏

久撃テ、之ヲ敗ル、其後、歴世島津氏ノ直管タリ、徳川

氏大政ヲ奉還セシ後、島津忠義封土ヲ奉還シ、明治四年

七月鹿兒島県ニ属ス

幅員 東西凡式拾八町拾間、南北凡式拾五町八間

里程 鹿兒島県庁ヨリ西ニ距ル凡式拾九町、元標ハ村ノ中

央字催馬樂ニ在リ ^{ウイバカラ}

北 重富驛エ凡三里

西 下伊敷村元標エ凡拾八町

東 吉野村元標エ凡三拾町

北 下田村元標エ凡拾九町

地勢 精木川村ノ東ヲ南流シ、全村丘壑多ク、平地ハ五分

ノ一二過ギズ、運輸便ナラス

地味 其色赤黒相交ル、山地ハ、ニガ土、或ハ赤ボコニシ

テ、其質悪シ、甘藷ニ適ス

税地 田 五町五反式 畑 百五拾式町老 宅地 式拾壹町
畝式拾式歩 反二畝拾六歩 式畝三歩

山林 参拾九町参 総計貳百拾八町壹畝拾八歩
反四畝七歩 ^{サイバカラ} 村ノ東ヨリ西ニ連ル、東 ^{ウヘル} 村ノ西南

字地 催馬樂 西凡四町、南北凡拾三町 上ノ原 ニアリ、

鹿兒島ニ跨ル、本村ニ係ルモ 実方^{サネカタ}村ノ東ニアリ、東西凡ノ東西凡四町、南北之ニ同シ

川添^{カサシ}村ノ東北、精木川ノ上流ニ傍^{ヨリ}、^{コト}国料ノ東、福昌寺山凡五町、南 勝浦山^{カサヤマ}村ノ北南ニアリ、東南北之ニ同シ

貢租 地租 金六百五拾九 營業稅 金八拾七 地方稅 金百

老円式 總計金七百八拾壹円式拾四錢七厘

官有地 社地 三反式 陸軍省用地 五反參畝 敷^{九畝}步

荒蕪地 七反七 畝九步 柴草生地 式反式畝 總計壹町九反四畝

式拾五步

戸數 本籍貳百人拾壹戸 土族百貳拾七戸 平民百五拾四戸 社貳戸 村社壹

格社 總計貳百八拾三戸

人口 男七百九拾四口 土族貳百七拾壹口 女八百拾口 土族

三口、平民 總計壹千六百四口 他出寄留拾四口

五百七口 男六口、女八口

牛馬 牡牛貳頭、馬百三拾四頭 牝馬百三頭 總計壹百三

拾六頭

山 福昌寺山 本村ノ南ニ峙ツ、高サ凡ソ拾八丈、山ノ南麓ハ鹿

二接シ、精木川兩山ノ間ヲ流ル、古 峯島ニ屬ス、山脉西ハ城山ニ接シ、北ハ東福寺山

時 山下ニ東福寺アリ、故ニ名ヲ得

川 精木川 幹流本村ニテハ実方川ト呼フ、本郡宮ノ浦村ヨリ村

南流シテ、稻荷川ト為リ、又東南流シテ、鶴江崎ヨリ海ニ注ク、広

サ四間ヨリ七間ニ至ル、深サ壹尺ヨリ四尺ニ至ル、本村ニ係ルモ

ノ、長サ三拾 式町式拾四間 石造長サ四間、広サ九尺、精木川ノ上流本

太鼓橋^{タイコ} 村ト吉野村ノ間ニ架ス、旧大隅路ニ屬ス

森林 山間林アリ、都テ三拾九町三反四畝餘、松樹多シ

道路 旧大隅路 里道一等ニ屬ス、本村ヨリ東吉野村ヲ經テ、大

南鹿兒島敷川町ノ界ヨリ吉野村ノ界ニ至ル、長凡拾式町式拾五

間、広サ三間、支道ニアリ、一ハ村ノ東、路頗ル險ナリ、

ス、本村ニ係ルモノ、長拾五町、広サ二間、路頗ル險ナリ、

一ハ鹿兒島上龍尾町ニ通ス、長サ式拾五町八間、広サ式間

瀑布 菜摘瀑^{ナヅミ}アリ、即チ精木川ノ上流ナリ、高サ凡六間、広サ

之二 倅^ツシ

神社 日枝神社 村社、本村ノ中央ニアリ、社地壹反四畝拾四步、

陰曆十一月初申日例祭ナリ、土人伝 稻荷神社 無格社、村

テ、島津忠久ノ創建スル所ト云フ 豊受姫大神・猿田彦大神・天宇受咩命ヲ祭ル、祭日陰曆十一月

ニアリ、社地壹反七畝拾八步、東西凡拾五間、南北凡式拾間、

十七日、創建 戸長役場 本村ノ中央ニアリ

古跡 催馬樂城 一二矢上城ト云フ、本村ノ中央日枝神社ノ西

凡拾町ニアリ、今、其址ヲ存セズ、曆應中、

矢上高純之ニ拠ル、興國五年九月、島津氏久 比志島範平等ト共ニ、高純ヲ攻メ、之ヲ拔ク

物産 米 式拾石四斗、凡ソ物産ヲ記スル米何石何斗、麦何石何

斗ト書スルノ類ハ、一ヶ年ノ收穫高ヲ云フ、下之ニ倅

フ 大麥 拾九石 小麥 拾七石五 糯米 拾三石七 粟

百六拾壹石 蕎麥 式拾四石 甘藷 三拾六萬七千 四升八合 八斗六升 式百八拾四斤

民業 闔村皆農ヲ業トス、農暇商ヲ業トスル者五戸

下田村 シモタ 本村ハ古時、坂元村ト両村タリ、明治三年本村

ヲ坂元村ニ合ス、明治十四年一月復分テ両村トナス

疆域 北ハ山路ヲ以テ川上村ニ界シ、南ハ坂元村ト村路ヲ

界トシ、西ハ上伊敷村ト山谷ヲ以テ界シ、西北ハ用水路

岡ノ原村ニ隣リ、東ハ吉野村ト精木川ヲ界トス

幅員 東西凡式拾三町八拾貳間、南北凡式拾町四拾間

管轄沿革 鎌倉以後、島津氏ノ管スル所タリ、正平十三年

七月島津氏久谷山郡山田郷ノ領主山田忠経ニ本村及ヒ上

伊敷村ノ三分ニヲ加封ス 山田氏藏 書ニ拠ル 應永ノ頃、島津久

豊復本村ノ六町ヲ割キ、吉田清正ニ与へ、其忠節ヲ賞ス

地理志 慶長ノ頃ヨリ鹿兒島近在ト称シ、島津氏ノ直隸

ニ拠ル たり、王政革新以後、鹿兒島県ニ属ス

里程 鹿兒島県庁ヨリ北凡壹里半、元標八村ノ中央字上 カミウラ

原ニ在リ バラ

東 重富駅エ凡三里

西北 岡ノ原村元標エ凡壹里

東 吉野村元標エ凡三拾町

北 川上村元標エ凡拾八町

南 坂元村元標エ凡拾九町

西 上伊敷村元標エ凡拾八町

鹿兒島県地誌(抄)

地勢 精木川村ノ中央ヲ南流シ、四顧皆丘陵圍繞、平地其

半ニ居ル、運輸便ナラスト雖モ、薪炭乏カラズ

地味 田ハ其色薄黒、其質美、稲梁ニ宜シ、圃ハ其色赤黒

相交、其質美ナラス、甘藷ニ適ス

税地 田 式拾六町壹 畝拾六歩 畑 八拾貳町九反 八畝貳拾壹歩 宅地 九町三反五 畝貳拾九歩

山林 式拾貳町七反 四畝貳拾貳歩 總計百四拾壹町壹反貳拾八歩

官有地 社地 九畝貳 拾七歩 荒蕪地 七畝 五歩 草生地 三畝 歩 總計

式反貳歩

宇地 溝ノ上 ウヘ 東西凡式町 中ノ迫 ナカノサコ 東西凡四町半 桑原 クハラ 西

凡三町東 テ 手ノ平 ヒラ 東西凡貳町半 南北凡四町半

貢租 地租 金六百四十八 圓拾七錢貳厘 營業稅 拾錢 地方稅 金百貳拾 五圓五拾

三錢 壹厘 總計金七百七拾四圓貳拾錢三厘

戸數 本籍百七拾三戸 土族六戸、平 民百六拾七戸 社老戸 無格 社 總計

百七拾四戸

人口 男三百九拾六口 土族拾五口、平 民三百八拾壹口 女三百八拾貳口

土族拾三口、平 民三百六拾九口 總計七百七拾八口

牛馬 牛拾頭 牛 馬百三拾八頭 牡馬九拾頭 牝馬四拾八頭 總計百四拾

八頭

川 精木川 幹流源ヲ本郡宮ノ浦ニ發シ、南流シテ川上村ヲ經、 又、南本村ノ中央ヲ過キ、坂元、吉野兩村ノ界ヲ流レ

鹿児島ヲ経テ、海ニ注ク、本村ニ係ルモノ
長サ凡拾三町、深サ凡壹尺、広サ凡七間
還ニ属ス、長サ凡ソ七間、幅貳間、一ハ
本村ノ村道ニ属ス、長サ凡七間、幅九尺

道路 村道 村ノ南、下伊敷村ト坂元村ノ界ヨリ、北ノ方川上村
ノ界ニ至ル、長サ凡ソ拾貳町、広サ壹間半、支道ニ
アリ、一ハ村ノ中央元標ヨリ西ニ折レ、上伊敷村
ニ通シ、一ハ同所ヨリ、東ニ折レ、吉野村ニ通ス

学校 公立小学老ヶ所 村ノ中央ニ在リ、生
徒男四拾人、女壹人

神社 小鷹神社 無格社、村ノ東ニ在リ、社地九畝九歩、比志島
義弘ヲ祭ル、例祭十一月十八日、創建年月詳ナ
ラス

物産 米 貳百六拾八 糯米 三拾五石
石七斗五升 六斗四升 大麦 六石
斗 裸麦 三拾八 粟 六拾三 蕎麦 百拾貳石
石四斗 石七斗 甘藷 三拾

萬七千 柿実 八百七 式石
八百斤 拾五斤 金柑 五斗

民業 鬪村男女皆農ヲ業トス

塩屋村 シホヤ

疆域 東北ハ海峽ニ瀕シ、西ハ鹿児島市街 新屋敷通町樋ノ
口通町、松原通町

二界シ、南ハ甲突川ヲ隔テテ、下荒田町ニ対ス

幅員 東西凡拾町、南北凡六町

管轄沿革 鹿児島二同シ

里程 鹿児島県庁ヨリ南ニ距ル凡拾五町、元標ハ村ノ中央

字四元ニ在リ

南 谷山駅工式里拾町余

地勢 東北海峽ニ臨ミ、土地平坦ニシテ運輸便利、魚塩ノ

利アリ

地味 其色黒、其質斥鹵

税地 田 七町貳反三 宅地 九町九反
畝拾五歩 四畝八歩 塩田 拾町八反八
畝拾六歩

総計貳拾八町六畝九歩

字地 四元 村ノ中央ニアリ、東西凡
三拾間、南北凡三拾間

貢租 地租 金貳百四拾七 營業稅 金六拾貳円貳
円六錢六厘 總計金五百拾八円拾六錢

戸數 本籍四百五拾八戸 平民三百貳拾七戸 寄留老戸 平民
社老戸 社村 總計四百六拾八戸

人口 男八百八拾五口 土族三百四口、平 民五百八拾壹口
土族三百貳口、平 民五百五拾壹口 總計千七百三拾八口
ルモノ男老口

牛馬 牛拾九頭 牡牛拾三頭 馬貳頭 馬 總計貳拾壹頭
牡牛六頭

川 甲突川 幹流水源花尾山ヨリ出テ、日置郡厚地村及ヒ本郡小
山田村犬迫村上伊敷村下伊敷村小野村永吉村西田村

ヲ経テ、鹿児島市街ノ西ヲ過キ本村ト下荒田町ノ間ヲ南流シ
テ、海ニ入ル、本村ニ係ルモノ、長サ凡貳町、広サ凡五拾間

道路 村道 村ノ西、鹿児島ノ界ヨリ海浜

出崎 洲崎 長沙村ノ東北ノ方ニ斗出スルコト
凡五町斗出ノ所、名ケテ洲崎ト云ウ

神社 塩竈神社 村社、村ノ南ノ方ニアリ、社地東西拾壹間、南北四間、面積四拾八坪、塩土翁ヲ祭ル、例祭九月廿五日

物産 米 四拾壹石六斗 塩 式千四拾五斤 魚 四億式拾四萬千五百五拾尾

民業 農ヲ業トスル者五拾四戸、エヲ業トスル者六戸、商ヲ業トスル者三拾貳戸、漁獵ヲ業トスル者五拾七戸、人力車夫拾五人

荒田村 アラタ 本村ハ古時、上荒田・下荒田ト称シ、今ノ下荒田町ト一村タリ、明治十二年十一月鹿兒島ノ区域ヲ定メ、荒田村ヲ割テ、下荒田ヲ下荒田町トシ、鹿兒島ニ編入シ、上荒田ヲ荒田村ト為ス

疆域 東ハ海ニ瀕シ、北ハ鹿兒島市街ニ接シ、西ハ田上村・武村ト丘陵及ヒ田間ノ堤ヲ以テ界トシ、南ハ中村ト用水路ヲ以テ界トス

幅員 東西凡壹里拾六町、南北凡六町
管轄沿革 鎌倉以後、島津氏ノ管スル所タリ、建久圖田帳ニ大隅国正八幡宮 桑原郡宮内村ニアリ即チ鹿兒島神宮 御領、鹿兒島郡荒田荘トアレハ、建久ノ頃ハ、今、鹿兒島神宮ノ神領ニ属

セシト見ユ、天文六年十二月、島津勝久其家臣本田薰親ニ本村ノ内八拾町ヲ與フ 天文以下本田薰親譜ニ拠ル 慶長ノ頃ヨリ鹿

鹿兒島県地誌（抄）

児島近在ト称シ、島津氏ノ直隸タリ、王政革新以降、本県所管ト為ル

里程 鹿兒島県庁ヨリ南凡貳拾八町、元標ハ村ノ中央字町 マチ 口ニ在リ

南 谷山駅エ凡貳里
西 田上村元標エ凡三拾町

南 中村元標ヘ凡八町

地勢 西南丘陵ヲ襟帯シ、東ハ海ニ瀕シ、土地平坦ニシテ、運輸便利

地味 其色黒ク、其質中、稲梁ニ宜シ

税地 田 六拾九町六畝拾六歩 畑 三拾四町貳畝拾貳歩 宅地 貳拾町九反七畝拾九歩

切換畑 五町貳反壹畝七歩 山林 貳町貳反五畝廿歩 原野 貳町七反九畝拾三歩 塩

田 拾四町貳反八畝拾六歩 總計壹百四拾八町八反壹畝拾三歩

官有地 練兵場敷地 八町八反八畝拾三歩 陸軍省用地ニ属ス 原野 貳畝拾四歩 沼

地 壹畝貳拾壹歩 總計八町九反貳畝拾八歩

字地 ウチノハシキ 内屋敷 本村ノ北ヨリ西ニ連ル 前田 マエタ 町拾八間、南北 ウヘ 上ノ濱 本村ノ海浜ニアリ、東ヨリ南ニ連 凡貳町三拾間 ル 東西凡壹町、南北凡壹町三拾間 ヤワタ 下濱 東南上ノ浜ニ接ス、東 八幡 村ノ東ヨリ北ニ連 西凡三町、南北凡貳町 ル 東西凡四町三

拾間、南北凡 マエノハマ 馬籠 村ノ西ニ方ル、東西凡 貳町四拾間、南北凡 マエノハマ 五拾間、南北凡 マエノハマ 貳町

貢租 地租 金壹千七百貳拾 五円拾五銭貳厘 營業稅 金六拾四円 三拾錢九厘 地方稅 金五百拾三円 八拾五銭貳厘 總計金貳千三百三円三拾壹錢三厘

戸數 本籍三百三拾貳戸 土族百拾七戸 寄留貳戸 土族 寄留貳戸 土族 總計三百三拾貳戸 平民貳百拾五戸

人口 男七百四拾壹口 土族四百五拾壹口 女七百拾八口 土族 貳百七拾四口、平民 貳百九拾口 他出寄留六拾四口 民四百四拾四口 總計壹千四百五拾九口 口男三拾口女三拾四口本村二寄留 口男三口女六口

牛馬 牡馬四拾貳頭、牛六頭 牡牛壹頭 牝牛五頭 總計四拾八頭

車 人力拾三輛

川 田上川 幹流本村ニテハ新川ト称ス、水源犬迫村ノ西字萩ノ別府ヨリ出テ、東流シテ、西ノ別府村田上村ヲ過キ、本村ノ西ヲ東流シ、中村郡本村ヲ經テ、海ニ注ク、広サ凡八間、深サ凡八寸、其流舒緩ニシテ清シ、西岸堤防アリ、南中村ノ境ヨリ西田上村ニ至ル 村ニシテ 民有二屬ス、雜木ナリ 岸下林 其大ナル者困凡貳尺 芝生 迫林 同上岸ノテ總計貳町貳反五畝式拾步、雜木ヲ生ス、其大ナル者困凡貳尺

道路 山川路 一ニ谷山街道ト称ス、県道三等ニ屬ス、本村ノ北下荒田町ノ界ヨリ南中村ノ界ニ至ル、長凡八町、

広サ凡ソ三間

堤塘 弓場濱堤 本村東海浜塩田ノ東北ニアリ、長凡七拾間

学校 共立小学校 本村ノ東ニアリ 生徒男五拾八人

戸長役場 本村ノ中央字町 口ニアリ仮設

物産 米 八百三拾 粟 八石 甘藷 八万八千五 麥 四拾 式石式斗 四斗 百九拾斤 石 塩 千貳百九拾石 鹿 児島ニ輸出ス

民業 闔村男女皆農ヲ業トス、商ヲ業トスル者式拾戸

西田村 古時、西田ヲ併セテ一村タリ、明治十二年十一月本村ヲ割テ、西田町ヲ置キ、鹿児島ニ編入ス

疆域 東ハ鹿児島西田町ニ界シ、西北ハ永吉村ト岡及ヒ村道ヲ界トシ、南ハ村道ヲ以テ武村ニ隣リ、西南ハ岡上ノ徑ヲ以テ、田上村ニ界ス

幅員 東西凡拾八町五拾五間、南北凡拾四町四間三尺

管轄沿革 鎌倉以後、島津氏ニ屬ス、永祿ノ頃、島津氏ノ老臣伊集院忠朗本村ヲ領ス 旧記ニ 忠朗ノ子忠棟ニ至テ、大隅ノ肝付郡ヲ領ス 島津国史 其後、歴世島津氏ノ直管タリ、明治四年七年本県ニ屬ス

里程 鹿児島県庁ヨリ西ニ距ル凡式拾貳町、元標ハ村ノ中央字二ノ迫日枝神社下ニ在リ

南 谷山駅エ凡式里式拾五町

西南 田上村元標エ凡式拾三町

西 永吉村元標エ凡拾壹町

南 武村元標イ凡拾三町

地勢 西北ハ岡陵ヲ負ヒ、東南ハ土地平坦、運輸便利

地味 田ハ其色赤白相交リ、其質中ノ下、山地ハ甘藷ニ適

ス 田 三拾五丁壹反 畑 拾七丁八 宅地 貳拾貳丁壹反

税地 八畝拾貳步 反四畝步 四畝拾六步

山林 壹反六 原野 拾九丁三 總計九拾四町壹反六畝五

歩 畝七步 畝七步

官有地 社地 壹反壹 梟庁用地 貳丁六反貳 藪 四反六

沼 拾六 田 壹反六畝 井戸敷地 拾 畝五步

畝貳拾貳步 貳拾五步 總計三町三反七

字地 八枝 本村ノ東ニ在リ、東 尾畔 本村ノ東ニ在リ、東

稲荷免 凡三丁南北凡壹丁 西 本村ノ東ニ在リ、東

上添 本村ノ東ニ在リ、東 住吉 西凡貳丁南北凡壹丁

貢租 地租 金六百六拾壹 金六百六拾三元

金貳百四拾円 円拾三錢四厘 六拾六錢六厘 地方税

戸数 本籍四百八拾壹戸 土族貳百六拾壹戸 寄留壹戸 族 士

社壹戸 社 總計四百八拾三戸 平民貳百貳拾壹戸 族 士

人口 男壹千壹口 土族六百七口、平 女壹千貳拾八口 土族

四拾口、平民 民三百九拾四口 他出寄留四拾三口男貳拾

三百八拾八口 總計貳千貳拾九口 壹口女貳拾貳口本村へ寄

鹿兒島県地誌(抄)

留五口男四

牛馬 牛壹頭 牛牝 馬三拾三頭 馬牝 總計三拾六頭

舟車 遊船貳艘、人力車拾輛

川 甲突川 幹流、本村ノ東北永吉村ノ境ヨリ本村ヲ過キ

田溝 ヨリ本村ニ抵リ、荒田村ヲ經テ、甲突川ノ下流ニ入ル

筋違橋 石造長サ凡貳間、巾之ニ均シ、甲突

道路 九州街道 一ニ出水街道ト称ス、国道三等ニ属ス、本村ノ

八丁五十五間、水上坂 郡山街道 県道三等ニ属ス、東鷹師馬

ヨリ以西処々並木アリ 場町ノ界ヨリ西永吉村ノ界

ニ至ル、長凡

神社 日枝神社 村社、村ノ南ニ在リ、社地壹反壹畝步、東西凡

月二十二日、創

古跡 谷峰城墟 本村ノ西北ニ在リ、曆応四年、肝付兼重谷峰城

軍ニ応シ、又此城ニ拠 千眼寺廃寺址 村ノ北ニ在リ、禪宗

十一月廢ス 西田寺廃寺址 村ノ中央ニ在リ、天台宗、延

藥王寺廢寺址 本村ノ東南ニ在リ、笑岳寺廢寺址 村ノ東南

明治二 年廢ス 明治二年廢ス

名勝 常盤谷 本村ノ西北丘壑ノ間ニ在 尾畔 本村ノ東永吉村

下ニ池アリ、桜樹及ビ楓樹多シ、風光佳絶、

古島津氏ノ別館在リ、島津光久ノ築ク所

物産 米 貳百拾四石 糯米 拾壹石三斗 粟 七石六斗 麥 貳拾七升六合 三升三合 斗八升

老斗 蕎麥 壹石五斗貳升 甘藷 壹万八百斤

民業 園村男女皆農ヲ業トス、商ヲ業トスルモノ四戸

武村 古田毛村ニ作ル

疆域 東ハ上ノ園町ニ接シ、西南ハ用水路ヲ以テ田上村ニ

界シ、北ハ村路ヲ以テ西田村ニ隣ル、南ハ丘陵及ヒ田間

ノ提ヲ以テ荒田村ニ界ス

幅員 東西凡拾四間、南北凡九町貳拾間

管轄沿革 鎌倉以後、島津氏ノ所管ト為ス、応永十年十一

月二十九日島津元久渋谷重頼ニ本村及ヒ揖宿郡成川村ヲ

与フ 島津国史 其後、重頼カ子孫猶本邑ヲ領スルヤ否ヤ

載籍詳カナラス、慶応以後ハ、下田村ニ全シ

里程 鹿兒島県庁ヨリ西南凡貳拾八町、元標ハ村ノ中央字

五本松ニ在リ

南 田上村エ凡貳拾町

西 西田村エ凡拾三町

南 谷山駅エ凡貳里半

地勢 西北丘陵ヲ負ヒ、土地平坦ニシテ、運輸便利

地味 其色赤黒相交ル、其實中、稲梁ニ宜シ、水利便ナラ

ズ

税地 田 四拾三丁六反 畑 拾七丁六反 宅地 拾壹丁貳反

山林 五反四 原野 拾丁壹反貳 總計八拾三町貳反五畝壹

歩 畝 畝歩 畝拾貳歩

飛地 字一貫地 鹿兒島高麗町ノ東ニアリ、東 天保山 本村ノ

ニ在リ、荒田村ニ跨ル、塩田八反 西凡六丁貳拾間南北凡八丁

八畝貳拾八歩、宅地五畝貳拾四歩 陸軍省用地四丁

官有地 天保山 四反四畝六歩

貢租 地租 金壹千四拾九 營業稅 金百五拾三 地方稅 金貳

拾七円六拾 五錢九厘 總計金壹千四百七拾円貳拾五錢四厘 百六

戸數 本籍三百七戸 土族七拾壹戸、平 寄留七戸 土族三戸

社寮戸 社村 總計三百拾五戸 平民四戸

人口 男六百拾八口 土族百四拾八口 女六百六拾四口 土族

拾五口、平民 四百九拾九口 總計壹千貳百八拾貳口 他出寄留六拾七人、

老入、本村エ寄留 男三拾六人、女三拾 六人、女八人

牛馬 牛六頭 牛 馬七拾五頭 馬 總計八拾壹頭

車 人力車三輛

山 武ノ丘 本村ノ西北ニ連ル、西北ハ西田村ニ屬シ、西南ハ田

ナラズト雖トモ、高キハ拾五丈ニ過キズ 上村ニ屬ス、山脉東南ニ走リ、

低キハ八丈ニ下ラズ、岡上ハ畑地ナリ 海浜ニ及フ、高低一

川 甲突川 幹流、本村ノ東鹿兒島上ノ園町ノ境ヨリ東流シテ高

麗町ノ東ヲ過キ、本村及ヒ上荒田町ノ北ヲ流レ、又

本村ノ飛地字一貫地ノ北ヲ流レ、海ニ入ル、本村ニ係ルモノ、長サ壹丁四拾九間、新田溝、上伊敷村字甲突川ヲ引キ、小野村永吉村西田村ヲ経テ、本村ニ至リ、又荒田村ニ概キ、甲突川ノ下流ニ合ス

道路 伊集院別往還 里道一、二等属ス、伊集院駅及ヒ谷山駅ニ通キ、南ニ向ヒ、田上村ノ界ニ至ル

長サ凡九町貳拾壹間、巾貳間

神社 建部神社 村社、社地三畝貳拾三步、東西凡拾五間、南北凡七間、大名持命日本武尊ヲ祭ル、例祭九月十日

学校 公立小学校 本村ノ西北ニ在リ、生徒男百六拾壹人、女七拾八人

古城 野元原戰場 本村ノ西北武丘ノ上ニ在リ、正平九年九月南朝ノ將畠山修理亮直蹟薩隅日三州ノ義兵ヲ集メ、軍ヲ分ツテ二下為シ、一ハ野元原ニ陣シ、一ハ原羅ニ陣ス、島津氏久各所ニ伏兵ヲ設ケ、連戦數日、互ニ勝敗アリ

櫛ヶ森 本村ノ東南ニアリ、肝付氏ノ軍島津氏ノ軍ト戦シ時ノ首塚ナリト云フ 寿国寺廢寺址

本村ノ西北ニ在リ、享保十三年僧玄黙開基 禪宗黄蘗派ナリ、明治二年十一月廢ス

物産 米 七百拾 百拾五石 三石七
四石 糯米 七斗貳升 大麥 升四合 小麦 六
粟 四拾 老万六 以上一ヶ年収入高

民業 園村男女皆農ヲ業トス、牛馬賣買ヲ業トスル者五戸、商ヲ業トスル者拾貳戸

上伊敷村 古時、下伊敷村ト一村タリ、宝曆ノ頃、上下両村ト為ル

疆域 東南ハ下伊敷村ト畔道ヲ以テ隣リ、東ハ下田村ト山

谷ヲ界トシ、西ハ小野村ト甲突川ノ中央ヲ界トシ、犬迫村ト郡山街道及ヒ岡陵ヲ界トシ、北ハ岡ノ原村比志島村ト岡陵ヲ以テ界トス

幅員 東西凡拾四町四拾貳間、南北凡壹里拾四町

管轄沿革 文治以還、島津氏之ヲ管ス、正平十三年五月朔、島津氏久其臣山田忠経ヲ以テ、本村ノ地頭ト為ス 史ニ拠ル

是ノ年七月、氏久忠経ニ本村及ヒ下田村三分ノ二ヲ與ヘ、之ヲ領セシム 山田氏藏 書ニ拠ル 慶長以後ハ、下田村ニ全シ

里程 鹿兒島県庁ヨリ西北凡壹里拾貳町、元標ハ村ノ中央ヨリ南字下脇田ニ在リ

南 谷山駅エ凡四里拾貳町
西 小野村元標エ凡拾五町
南 下伊敷村元標エ凡拾八町

北 岡ノ原村元標エ凡壹里拾貳町
東 下田村元標エ拾八町

地勢 西甲突川ヲ帶ビ、東北岡陵ヲ負フ、土地平坦ニシテ、運輸便利

地味 其色赤黒相交リ、其質上ノ中、稲梁ニ宜ク茶或ハ煙草ニ適ス

税地 田 九拾六丁式 反八畝三歩 畑 九拾四丁八反五畝七歩 切換畑 七拾式七歩

宅地 拾九丁三反拾式歩 山林 拾五丁考畝 原野 百六拾五丁四畝拾壹歩 総計

四百六拾貳町七反五畝貳拾九歩

官有地 社地 七畝 堂宇敷地 九墳墓地 五荒地 貳丁七畝 五歩

草生地 三畝 総計貳町五反七畝貳拾三歩

宇地 宇都 本村ノ南ニアリ、下伊敷村ニ接 假屋 本村ノ中央 西凡三丁、南 脇園 本村ノ北ヨリ西ニ連ル 肥田 甲突川

北之ニ均シ 飯山 肥田ノ北ニ接ス、東西凡 丁、南北凡拾式丁

貢租 地租 金貳千四百九円 金三円式 牛車税 金三 貳拾六錢三厘 營業税 拾五錢 円五

地方税 金貳百八拾九 圓五拾三錢 総計金貳千七百五円五拾四錢

三厘

戸数 本籍四百六拾六戸 土族七拾五戸、平 民三百九拾壹戸 寄留五戸 族 士

社寮戸 村 総計四百七拾式戸

人口 男壹千七口 土族百人拾四口 女壹千貳拾九口 土族 拾式口、平民 八百八拾三口 他出寄留六口男四口女貳口 八百拾七口 総計貳千三拾六口 本村エ寄留貳拾壹口男九口 女拾 貳口

牛馬 牛貳拾八頭 牡 馬百九拾四頭 牡馬貳拾式頭 牝馬百七拾式頭 總計 貳百貳拾貳頭

車 牛車六輛、人力車壹輛、總計七輛

川 甲突川 幹流、本村ノ北比志島村ノ界ヨリ本村ト小野村ノ界 ヲ南流シテ、下伊敷村ニ入ル、長凡壹里七丁三拾間、

廣サ凡式拾五間、深サ凡壹尺五寸、其流緩シ、其上流ヲ石堰ト 云フ、石ヲ置ミ、水ヲ深フシ、西南ノ山下ニ溝渠ヲ鑿チ、東南

小野永吉西田武荒田ノ諸村ニ通シ以テ 永井田川 岡、原村字 灌漑ニ便ニス、俗之ヲ新田溝ト称ス

天ケ窪ヨリ出テ、本村ノ西字永井田ヲ経テ、西ニ流レ 甲突川ニ入ル、長凡半里 深サ凡三間、深サ凡五寸 支流、岡ノ野村旧花野村ノ谷ヨリ出テ、深サ凡五寸 西流シテ、甲突川ニ入ル、長サ凡五丁深サ五寸 支路 郡山街道 突川ノ西涯ニ沿ヒ、西比志島村ノ界ニ至ル、長 壹里七丁三拾三間、廣サ凡式間、支道アリ、北ニ折 レ、下伊敷村ニ通ス、村境迄長サ凡九丁、廣サ凡九尺

神社 諏訪神社 村社、村ノ北ニ在リ、社地四畝式歩、建御名方 主神、事代主神ヲ祭ル、例祭陰曆二月二十五日、

創建年月 詳ナラス

戸長役場 本村ノ中央ニ在リ、東西拾 間、南北六間、面積六拾坪

学校 公立小学校 村ノ北ニ在リ、生徒百四拾八 人、男百四拾五人、女三人

墳墓 僧桂菴墓 村ノ中央、民舎ノ後ニ在リ、桂菴字ハ玄樹、周 防山口ノ人、童艸洛ノ龍山ニ性キ 雙桂和尚ニ

從ヒ、内外字ヲ受ケ、周防ニ帰リ、永福寺ニ居ル、禪宗程朱ノ 学ヲ講シ、頗ル蘊奥ヲ極ム、応仁元年明ニ使シ、入テ憲宗ニ見

ユ、居ル凡七年、蘇杭ノ間ニ遊ヒ、鉅儒ニ從ヒ、程朱学ヲ攻ム、 文明五年帰テ使事ヲ報ス、其後、東肥菊府ノ饗館ニ客タリ、

既ニシテ薩摩国龍雲玉洞禪師其国老数輩ト桂庵ヲ島津忠昌ニ薦 ム、忠昌桂菴ヲ聘ス、十年二月、桂菴薩摩ニ來ル、忠昌一見、

其雅量二服シ、特ニ敬礼ヲ加フ、明年桂菴ニ命シ、寺ヲ甕島
 二瓶ム、其寺ヲ号シテ島陰ト曰フ、十三年夏 桂菴国老伊地知
 重貞ト胥議リ、始テ大学章句ヲ刊ス、実ニ皇国新註ヲ印行スル
 ノ嚆矢ナリ、是時 明商貢船多ク、飢肥ニ泊ス、忠昌族人忠廉
 ヲシテ其上ヲ鎮セシム、桂菴ヲシテ兼テ簡牘ヲ掌ラシム、明年
 九月、洛ニ如キ、釣帖ヲ奉シ、健仁寺ヲ主ル、尋テ南禅寺ニ転
 ス、未タ幾ナラズシテ辞シ、明年薩摩ニ歸リ、方丈ヲ伊敷村ニ
 築キ、名テ東帰菴ト曰フ、永正五年菴ニ歿ス、寿八十二、佐藤
 一齋ノ碑

物産 米 九百四拾老 粟 貳百八 麦 百六拾 甘藷 貳万貳千
 石 三斗五升 拾三石 八石 五百斤

民業 男女皆農ヲ業トス、商ヲ業トスル者四戸

シモイシキ

下伊敷村 本村ハ古時伊敷村ト称シ、上伊敷村ト一村タ

リ、宝曆ノ頃、上下両村ト為ル、明治八年草牟田村ヲ本村
 ニ併ス

疆域 東ハ坂本村ト丘陵ヲ界トシ、西ハ甲突川ノ中央ヲ以

テ、小野永吉ニ村ニ界シ、北ハ上伊敷村ト畔道ヲ界トシ、

南ハ鹿兒島市街 新照院 下接ス
 通町

幅員 東西凡拾五町、南北凡三拾町

管轄沿革 文治以後、島津氏之ヲ管ス、正平ノ頃、島津氏

ノ族佐多忠光 島津忠宗 本村ヲ領ス 島津国史 其後、忠光

ノ子孫、猶本邑ヲ領スルヤ否ヤ、載籍詳カナラス、慶長

以後ハ、下田村ニ全シ

里程 鹿兒島県庁ヨリ西貳拾五町、元標ハ村ノ中央宮

鹿兒島県地誌(抄)

ノ下ニ在リ

西 郡山駅エ凡三里

南 新照院通町エ凡拾貳町

西 小野村元標エ凡八町

西南 永吉村元標エ凡拾三町

北 上伊敷村元標エ凡拾八町

地勢 東ハ丘陵ヲ負ヒ、西ハ甲突川ヲ隔テテ、小野永吉兩

村ノ岡陵ニ対シ、又曲折シテ、北両山ノ間ニ斗入ス、土

地膏腴ニシテ、運輸モ亦便ナリ

地味 其土ハ赤黒色ニシテ、其質美、稲粱ニ宜シ、山地ハ

赤クシテ、其質美ナラズ、赤ボト雖トモ、煙草及甘藷ニ

適ス

税地 田 八拾三丁五反 畑 七拾八丁七反 宅地 三拾五丁老
 九畝拾貳步 貳 貳拾貳步 反 貳拾五步

山林 七丁九反 原野 三拾九丁五反 總計貳百四拾四町九
 五畝九步

反七畝九步

官有地 陸軍省用地 壹反八 荒蕪地 貳反貳畝 墳墓地 壹畝
 畝拾步 貳拾五步

歩 總計四反貳畝拾五步

字地 明分窟 村ノ東ヨリ西ニ接ス 日向平 村ノ東ヨリ西ニ
 ミヤウホキ 東西凡五丁、南北貳丁 連ル、東西凡七

丁、南北凡 中福良 村ノ東ヨリ西ニ連ル、東 紙屋谷 村ノ
 ナカクラ 西凡六丁、南北凡貳丁 東ヨ

壹丁三拾間

リ西ニ接ス、東西凡^{ソム} 草牟田^タ 村ノ南ヨリ北ニ連ル、東
 三丁、南北之ニ均シ 西凡五丁、南北凡八丁
 貢租 金貳千五百五拾四 營業稅 金拾 地方稅 金四百
 錢 円六 總計金三千〇四拾九円四拾五錢三里
 八拾四

戸數 本籍七百八戸 土族貳百五拾四戸 寄留壹戸^華 社四
 戸 県社壹戸村社貳 總計七百拾貳戸
 人口 男壹千三百貳拾四口 土族五百壹口、平 女壹千三百
 四拾四口 平民七百拾九口 總計貳千六百六拾八口 寄留
 九拾八人、男五拾壹口、女四拾七口、
 本村エ寄留四人、男貳人、女貳人

牛馬 牝牛拾七頭、馬貳百頭 牝馬四拾三頭 總計貳百拾
 七頭
 車 牛車八輛、人力車貳拾貳輛、總計三拾輛
 山 愛宕山^{アタゴ} 本村ノ東ニ孤立ス、高サ凡拾貳
 丈、周圍凡拾三丁松樹叢生ス
 川 甲突川^{カサキ} 幹流、本村ノ北ニ伊敷村ノ界ヨリ、本村ト小野永吉
 兩村ノ界ヲ南流シテ、鹿兒島市街ノ南ヲ過キ、海ニ
 入ル、本村ニ係ルモノ、長凡拾壹丁、広
 サ凡貳拾五間、深サ凡壹尺、其流緩シ 山崎川^{ヤマザキ} 支流、本村
 ヨリ西流シテ、甲突川ニ入ル、長凡拾丁
 広サ凡三間、深サ凡八寸、其流稍急ナリ

池沼 溜池 本村ノ東ニアリ、周圍凡四拾間、深サ凡ソ九尺、田
 地ノ用水ニ供ス、一方ハ丘ニ倚ル、堤防ノ高サ貳間、
 長貳拾
 八間
 道路 村道 本村ノ北上伊敷村ノ界ヨリ、村ノ中央元標迄、長拾
 三丁貳拾七間七尺、元標ヨリ南新照院通町ニ至ル

長拾丁四拾三間、元標ヨリ西小野村界ニ至ル、長四丁
 拾三間、東冷水通町ニ至ル、長拾丁貳間、広サ凡貳間
 堤塘 甲突川堤 甲突川ニ沿ル、本村ノ北上伊敷村ノ界ヨリ、南
 鹿兒島市街ノ界ニ至ル、長凡拾壹丁、堤上ニ路
 アリ、作
 道ナリ

神社 鹿兒島神社 県社、本村ノ東ニアリ、社地東西凡拾間、南
 北凡八間、反別式畝式拾歩、彦火々出見尊・
 豊玉姫命ヲ祭ル、例祭十月十八日、創建年月詳ナ
 ラズ、社地ニ老杉古松アリ、皆數百年前ノモノ 伊爾色神
 社 村社、社地六畝式拾七歩、村ノ北ニアリ、伊爾色入
 日子命ヲ祭ル、例祭九月廿八日、創建年月詳ナラス 春日
 神社 村社、社地拾歩、本村ノ北ニアリ、建甕姫命・
 経津主命・天兒屋根命ヲ祭ル、例祭九月廿八日、
 無格社、社地式畝五歩、祭神詳ナラス
 例祭十一月八日、創建年月詳ナラス

学校 共立小学 二校皆ナ村ノ東ニアリ、一ハ生徒百五拾人
 男四拾人女拾人、一ハ生徒百七拾四人、男百
 三拾貳人
 女四拾貳人
 戸長役場 本村ノ中央
 ニアリ仮設

古跡 伴兼行館趾 本村ノ東妙谷寺山ノ上ニアリ、東西凡壹丁
 南北凡三丁、今大抵畑地下為ル、陸墟猶存ス
 古城由来記ニ、古時、伴兼行大宰大監ヲ以テ、薩摩ノ椽ヲ兼任
 シ、始テ本村ニ居ル、応永ノ頃、伊敷四郎忠純墨ヲ此地ニ築ク
 四郎ヶ坂戰場 嘉曆中、伊敷四郎忠純此地ニ居ル、故ニ、四郎
 ヶ坂ノ名アリ、応永廿年十一月、島津久豊叛臣
 伊集院頼久ト四郎ヶ坂ニ戰
 名勝 玉里 村ノ中央ニアリ、北愛宕山ヲ負ヒ、西南
 ハ平田ニシテ、山麓ニ島津久光ノ邸アリ
 物産 米 壹千六百八拾 粟 四拾 裸麦 四斗七拾 蕎麦 拾
 貳石壹斗六升 五石 四斗七拾 石

甘藷 拾六万三
千九百斤

民業 闔村男女皆農ヲ業トス、商ヲ業トスル者拾貳戸

小野村

疆域 北ハ上伊敷村犬迫村ト畔道及ヒ用水路ヲ界トシ、東
ハ甲突川ノ中央ヲ以テ界トシ、下伊敷村ニ対シ、南ハ永
吉村ト岡上ノ経、西南ハ田上村ト九州街道ヲ界トシ、西
ハ西ノ別府村ト田上川ヲ界トス

幅員 東西凡三拾七町八拾八間、南北凡拾壹町五拾九間
管轄 沿革文治以後、島津氏ノ統轄スル所タリ、慶長ノ頃
ヨリ鹿兒島近在ト称シ、島津氏ノ直管タリ、王政革新以
後、本県ノ所管ト為ル

里程 鹿兒島県庁ヨリ南ニ距ル、凡壹里三町四拾七間、元
標ハ村ノ中央字橋ノ口ニ在リ

南 谷山駅エ凡四拾壹町
西南 田上村兀標エ凡壹里半
東 下伊敷村兀標エ凡八町
東南 永吉村兀標エ凡壹里

西 西ノ別府村兀標エ凡壹里拾九町四拾間
北 上伊敷村兀標エ凡拾五町

地勢 九州街道郡山街道ノ間ニ横絶シ、西岡陵ヲ負ヒ、東

鹿兒島県地誌(抄)

南甲突川ヲ帶ブ、運輸難カラス

地味 其色赤黒ニシテ、其實中ノ上、水利ニ便ナリ

田地 七拾五丁八反 畑 百貳丁四反 切換畑 百三拾四丁
六畝貳拾九歩 五畝六歩 原野 五拾三丁

拾三 宅地 拾六丁五反 山林 五拾八丁三
歩 三畝壹歩 反七畝三歩 原野 七反八畝

拾六 總計四百四拾壹町六反貳畝拾八歩

官有地 社地 八畝貳 荒蕪地 拾四丁三反 草生地 貳丁四反
拾貳歩 四畝拾貳歩 八畝貳拾

三 總計拾六町八反壹畝貳拾七歩

字地 中ノ迫 村ノ南ニアリ、永吉村ニ接 中福良 村ノ中央ニ
ス、東西凡貳丁南北凡壹丁 栗木平 村ノ北ニ

凡三丁、東 西ノ谷 村ノ西ニ連ル、東西 栗木平 村ノ北ニ
北之ニ均シ 凡拾丁、南北凡八丁 アリ、甲

突川ニ傍フ、東西凡
拾丁、南北凡四丁

貢租 地租 壹千七百六拾三 營業稅 金九円三拾
円貳拾九錢六厘 七錢五厘 牛車稅 拾

円 地方稅 金五百七拾九 總計金貳千三百六拾貳円六拾
八錢貳厘

戸數 本籍四百五拾四戸 士族七拾貳戸、平 寄留壹戸 士
民三百八拾貳戸 族

社壹戸 社 總計四百五拾六戸

人口 男九百五拾六口 士族百四拾六口 女壹千拾四口 士族
八拾三口、平民 平民八百拾口 他出寄留四口男三口女
八百四拾壹口 總計壹千九百七拾口 壹口本村工寄留貳口

男壹口
女壹口

牛馬 牡牛拾三頭、馬百七拾五頭 杜馬九拾五頭 牝馬八拾頭 總計百人

拾八頭

車 牛車九輛、人力車拾三輛、總計式拾式輛

山 宮園山 ミヤノヤマ 村ノ中央ニ聳ユ、高サ凡六十丈、松樹多シ、山脈南ハ田上村、北ハ犬迫村ニ接ス

川 甲突川 幹流、本村ノ北上伊敷村ノ界ヨリ本村ト下伊敷村ノ界ヲ南流シテ、永吉村ヲ經、鹿兒島市街ノ西ヲ過キ、海ニ入ル、本村ニ係ルモノ、長凡拾壹丁五拾九間、広サ式拾五間、深サ凡壹尺五寸 田上川 幹流、源

幸加木川 コカキ 支流、水源犬迫村ヨリ出テ、本村ノ中央ヲ東南ニ流レ、甲突川ニ入ル、長凡式拾三丁、広サ凡壹間三尺

深凡六寸 新田溝 本村ノ北上伊敷村石堰ヨリ本村ヲ過キ南流シ、永吉村ニ入ル、長サ凡式拾丁

道路 九州街道 一ニ出水街道ト称ス、国道三等ニ属ス、本村ノ南永吉村ノ界ヨリ、本村ノ北犬迫村ノ界ニ至ル

長凡式里、広サ三間、左右並木アリ、支 郡山街道 県道三等道アリ、東ニ折レテ、郡山街道ニ出ツ

本村ノ南永吉村ノ界ヨリ、甲突川ニ沿イ、北 永吉村往還村

下伊敷ノ界ニ至ル、長サ七丁三間、広凡式間

ノ北上伊敷村ヨリ新田溝ニ沿ヒ、

南永吉村ノ界ニ至ル、長凡式拾丁

神社 日枝神社 村社、村ノ西ニアリ、社地八畝式拾式歩、大山

昨神ヲ祭ル、例祭陰曆十一月四日、創建年月詳

ナラ

戸長役場 村ノ中央字中福良ニアリ東西三間三

尺南北三間面積九坪永吉村ヲ兼ヌ

学校 公立小学校 村ノ中央ニアリ、生徒男九拾人

物産 米 八百四拾 粟 式百式 麦 百式拾五 甘藷 式拾壹万

民業 男女皆農ヲ業トス、商ヲ業トスル者式戸

永吉村 ナカヨシ 古時、原良村ト両村タリ、明治四年原良村ヲ本

村ニ合ス

疆域 東北ハ甲突川ノ中央ヲ以テ、下伊敷村ニ界シ、東南

ハ西田村ト岡及ヒ村路ヲ界トシ、西ハ九州街道ヲ以テ、

田上村ニ界シ、西北ハ小野村ト岡上ノ徑ヲ界トス

幅員 南北凡拾四町、東西凡拾五町

管轄沿革 鎌倉執政ノ時、守護島津忠久ニ属ス、南北朝ノ

時 正平十八年 島津貞久本村ヲ其第六子氏忠ニ与フ 島津

二抛 四月十日 足利氏執政ノ時 応永十九 島津久豊本村ノ十二町

ヲ割ギ、高木二郎三郎ニ与フ 島津国史 豊臣氏執政ノ時

文録 島津義久本村ヲ喜入久道ニ与ヘ、其采地ト爲ス、

既ニシテ久道死ス、於是、島津氏本村ヲ収メ、其直管ト

為ス、王政維新以後、島津氏封土ヲ奉還シ、明治四年七

月本県ニ属ス

里程 鹿兒島県庁ヨリ西式拾壹町三拾六間、元標ハ村ノ中

央ヨリ南字岩崎ニ在リ

西 田上村元標エ凡壹里

東南 西田村元標エ凡拾壹町

西北 小野村元標へ凡耆里
東北 下伊敷村元標エ凡拾三町

地勢 西北岡陵ヲ負ヒ、東甲突川ヲ帶フ、東南ハ地勢平坦、
西田武荒田ノ諸村ニ接シ、運輸便利

地味 其色赤黒ニシテ、沙ヲ交ユ 赤ボクコ 真土少シ、其
質美ナラズ

税地 田 六拾三丁四反 畑 式拾八丁耆 切換畑 拾式丁五反
式畝拾八歩 反式畝八歩 九畝九歩
山林 九丁五反 宅地 式拾耆 拾八丁四反 墓地 五反
拾五歩 四反三歩 原野 五畝三歩 五畝

官有地 押堀 式反六畝 沙揚場 耆反三畝 社地 五畝
拾五歩 拾八歩 拾歩 總計四

反五畝拾三歩
宅地 ^{ウツトビラ}本村ノ北ヨリ西ニ連ル 新毛 ^{アラゲ}本村ノ南ヨリ北
宇都平 東西凡八丁、南北凡拾丁 二連ル、東西凡
五丁、南北 永田 ^{ナガタ}本村ノ東ヨリ西ニ連ル 源六 ^{ダシロク}本村ノ北
之ニ均シ 東西凡四丁、南北凡式丁 ヨリ西ニ

接ス、東西凡三丁
南北凡四拾間
貢租 地租 金八百式拾八円 營業稅 金四円 地方稅 金貳百
四拾式錢式厘 四拾錢 六拾耆

戸數 本籍三百三拾三戸 土族五拾七戸、平 寄留耆戸 土社
民貳百七拾六戸 族 社

人口 男六百九拾八口 土族八拾口、平 女八百式拾四口 土
民六百拾八口 族 社

鹿兒島県地誌(抄)

百式拾四口、 總計耆千五百式拾貳口 他出寄留男三口、本
民七百口 村エ寄留二口、男一

牛馬 牛式頭 杜牛耆頭 牝牛耆頭 杜馬百拾五頭、總計百拾七頭

車 牛車耆輛、人力車拾七輛、總計拾八輛
川 甲突川 幹流、本村ノ北、小野村ノ界ヨリ東南西田 玉江橋
村ノ界ニ至ル、長サ凡拾丁、広サ凡拾五間

道路 九州街道 一ニ出水街道ト称ス、国道三等ニ属ス、村ノ東
南西田村ノ界ヨリ、田上村ノ界ヲ過ギ、西北小
野村ノ界ヲ至ル、 県道三等ニ属ス、東南西田村界
長凡ソ拾丁 郡山街道 ヨリ、北小野村ノ界ニ至ル、長

凡拾丁、甲突川ニ
傍フ、支道アリ
神社 日枝神社 村社、村ノ南ニアリ、社地五畝拾歩、猿田彦命
ヲ祭ル、例祭十一月二十一日、創建年月詳ナラズ

学校 公立小学校 村ノ中央ニアリ、生徒五拾
戸長役場 小野村ニアリ
古跡 原良墨址 村ノ東南ニアリ、応永二十年十一月、伊集院頼

田清正、蒲生清寛等ヲ率ヒ
頼久ヲ伐チ、大ニ其軍ヲ敗ル
物産 米 三百三拾貳 粟 九拾石四 甘藷 拾万九千貳 麦 拾五
石五斗五升 栗 斗五升 石六

斗七升 式合
民業 園村男女皆農ヲ業トス、商ヲ業トスル者九戸

中村

疆域 東南ノ隅ハ海ニ瀕シ、西北東ハ荒田村ニ界シ、南ハ郡元村ノ地、本村ノ中央ニ斗入ス、西南ハ字宿村ト畑地ヲ以テ相隣ル

幅員 東西凡三拾貳町、南北凡貳拾町

管轄沿革 鎌倉執政ノ時ヨリ、島津氏ノ統轄スル所タリ、島津氏ノ蔵書ニ據ル、貞治二年四月十日、島津貞久第二

子氏久ノ女ヲ以テ、暫ク中村郡元村ノ郡司職ト爲ストアリ、其後、島津氏ノ直管タリ、慶長以後ハ、下田村ニ全

シ

里程 鹿兒島県庁ヨリ南貳拾八町八間、元標ハ村ノ中央字

中洲ニ在リ

南 谿山駅エ凡壹里貳拾三町

北 荒田村元標エ凡八町

南 郡元村元標エ凡三町貳拾壹間

地勢 東ハ海ニ瀕シ、西南丘陵ヲ帶フ、土地平坦ニシテ、

水利運輸共ニ便ナリ

地味 其色黒ク、ニガ土真土相交ル、其質中ノ上、稻梁ニ

宜シ、海濱ハ斥鹵沙多シ

税地 田 四拾四丁九反 畑 六拾壹丁五 宅地 貳拾七丁七 山 貳畝貳拾五歩 反七畝九歩 反六畝七歩

林 五丁四反九 原野 六丁三反貳 塩田 三丁壹反九 畝拾壹歩 畝貳拾六歩 畝貳拾九歩 總計百

四拾九町貳反八畝拾七歩

官有地 村社敷地 宅地 壹丁四反 拾貳歩 六畝歩 總計壹町五反

八畝拾貳歩

宅地 毘沙門小路 村ノ東ヨリ西ニ連ル、東 騎射場 本村ノ東

リ、東西凡三丁 西凡貳丁、南北凡五丁 海浜ニ在

南北凡五丁 中園 村ノ西ヨリ東ニ接ス、東 唐渚 本村

ニアリ、東西凡三丁 西凡五丁、南北凡貳丁

丁、南北凡六丁

貢租 地租 金壹千貳拾五 營業稅 金拾 地方稅 金四百六

厘 錢貳 圓五拾貳錢壹厘 三厘 拾八圓五

戸數 本籍三百九拾貳戸 土族百六拾五戸、 寄留壹戸 平

社 社 總計三百九拾四戸 平民貳百貳拾七戸 民

人口 男九百貳拾拾口 土族三百八拾壹口、 女九百三拾壹口 土

三百九拾八口、平 平民五百三拾九口 他出寄留百八拾

民五百三拾三口 總計壹千八百五拾壹口 三口男八拾八口

女七拾五口○本村エ 寄留二口男女各一口

牛馬 牝牛五頭、牡馬八拾貳頭、總計八拾七頭

車 人力車三輛

川 山王溝 村ノ西字蓮田ヨリ田上川ヲ引キ、用水ト 為シ、田疇ニ灌漑シ、下流ハ海ニ注ク

道路 谷山街道 縣道三等ニ屬ス、村ノ北荒田村ノ界ヨリ、南ノ 方郡元村ノ界ニ至ル、長凡七丁、広サ貳間、海 浜ニ 谷山別街道 村ノ西、荒田村ノ界ヨリ、南ノ方郡元村ノ 界ニ至ル、長凡十丁、広サ凡壹間三尺、本

道ヲ距ル
凡式丁

神社 日枝神社 村社、社地壹反式畝拾貳步、大山昨命ヲ祭ル、
例祭陰曆十一月廿三日、創建年月詳ナラス

学校 共立小学校 村ノ西ニアリ
生徒男七拾人

戸長役場 村ノ西ニアリ東西凡五間南北凡拾
間反別四畝拾五步郡元村ヲ兼ヌ

古跡 唐渚 村ノ西ニアリ、海浜ヲ距ル凡拾四丁、昔時ハ、海岸
トシヨ ニシテ漢土ノ船舶ヲ繫泊セシヲ以テ、唐渚ノ名アリ

今変シテ、田畝ト為リ、人家ア
リ、桑澹ノ変以テ想像スベシ

物産 米 三百三拾 貳拾 八拾四 拾石 拾石 大
粟 五百三拾 糯米 壹石 石壹斗 五斗 大
豆 貳 六拾 蕎麥 貳石 甘藷 四万五 塩 六百四拾石以
石 粟 五石 蕎麥 貳斗 千斤 塩 上、壹ヶ年収

額入 民業 男女皆農ヲ業トス、商ヲ業トスル者七戸

郡元村 疆域 東ハ海ニ臨ミ、西ハ中村ニ界シ、北ハ同村ト溝又ハ
田畑ヲ界トシ、南ハ岡及ヒ瀬戸路ヲ以テ宇宿村ニ界シ、
西北ハ中村ノ中央ニ斗入ス

幅員 東西凡拾四町、南北凡拾三町拾六間
管轄沿革 中村ニ全シ

里程 鹿兒島県庁ヨリ南凡壹里、元標ハ村ノ中央字宮ノ下
ニ在リ

南 谷山駅エ凡壹里半

鹿兒島県地誌(抄)

西北 中村元標エ凡三町拾壹間
南 宇宿村元標エ凡式拾貳町

地勢 田上川村ノ西北隅ヨリ、中央ヲ貫キ、東流シテ海ニ
入ル、鬮村大抵平坦ニシテ、田上川ノ南ハ畑地ノ間ニ山

林アリ、水利運輸共ニ便ナリ

地味 其色黒ク、其實中ノ上、稲梁ニ宜シ

税地 田 四拾四丁三 六拾八丁壹反 貳拾七
反八畝貳步 四畝貳拾貳步 宅地 反拾九步 山林

壹丁八 原野 三丁四反 塩田 三丁七反七 總計百四拾貳町
貳反四畝六步 畝拾壹步

官有地 絞罪場 九反四畝
貳拾五步

字地 立小路 村ノ西ニアリ、東 鑪園 村ノ西ヨリ南ニ連ル
柴立松 村ノ南ニアリ、東西 宮ノ下 村ノ東ヨリ南ニ連
凡三丁、南北凡六丁

南北凡 三丁

貢租 地租 金九百五拾三 營業稅 金拾九円 地方稅 金三百
円七拾 錢七厘 總計金壹千二百貳拾八円四拾貳錢七厘

戸數 本籍三百拾戸 土族百壹戸、社壹戸 社總計三百拾壹戸
人口 男七百七拾壹口 土族五百貳拾四口 女七百五拾九口

土族貳百四拾貳口 平民五百拾七口 總計壹千五百三拾口、他出寄留五拾七口男
平民五百拾七口 總計壹千五百三拾口、三拾貳口女貳拾五口

牛馬 牝牛六頭、牡馬八拾四頭、總計九拾頭

三二

舟車 漁船六艘、人力車六輛

山 著名ノ山ナシ、田上川ノ南涯皆丘陵ニシテ、本村ニ係

ル者、長凡五町、高サ凡八丈、樹木少シ、青草ヲ生ス

川 田上川 幹流、本村ニテハ新川ト曰フ、水源犬迫村ノ山中ヨ

リ出テ、東西流シテ、西ノ別府村田上村ヲ過キテ

本村ニ入り、又東流シテ、郡元村ヲ經テ、海ニ入ル、本村ニ

係ルモノ、長サ凡拾町、広サ凡八間、深サ凡壹尺、其流緩シ

涙橋 石造長サ八間四尺、広サ壹丈三尺、田

道路 山川路 村ノ界ヨリ、南ノ方宇宿村ノ界ニ至ル、長凡拾五

町拾六間、広サ式間、支流アリ

北ニ折レ、村ヲ過キ、中村ニ通ス

出崎 鶴ヶ崎 長沙村ノ東ニアリ、海中ニ出ルコト凡式丁

ケ崎 鶴ヶ崎ニ対ス、長沙海中

神社 郡元神社 式拾間、南北之ニ均シ、大日靈貴命ヲ祭ル

祭陰曆十月一日

創建年月詳ナラス

学校 公立小学校 村ノ西ニ在リ、生徒六拾

戸長役場 中村ニ在リ

古跡 青屋松原 本村ノ東、海浜ニ在リ、觀応中、谷山郡司平忠

高弟祐玄ヲ遣リ、間道牛落ニ出デ、島津氏ノ後ヲ衝カントス、

貞久ノ弟忠直敵兵ノ来リ襲フヲ知り、兵ヲ青屋松原ニ伏セ、单

騎戰ヲ挑ム、祐玄出テ戰フ、牛落 谷山街道ニ属ス、西ハ靑崖

屋松原ヲ距ル西南四町許ニ在リ、貞 紫原古戰場 村ノ西ニア

年三月十三日、島津貴久麾下ヲ率ヒ、島津実久ヲ谷山ニ伐ツ

谷山城將弥寝播磨実久ニ応シ、貴久ヲ紫原ニ要撃ス、貴久大ニ

之ヲ破リ、播磨

等數十人ヲ斬ル

物産 米 式百九拾 糯米 拾五 大麦 石 六拾 小麦 石 八 粟 五

式 大豆 三石 蕎麦 壹石 甘藷 四方六千 塩 式百八拾石鹿

石 五斗 九斗 八百斤 児島ニ輸出ス

民業 男女皆農ヲ業トス、商ヲ業トスル者凡拾戸

宇宿村 古時、谷山郡山田郷ニ属ス、明治四年三月、鹿

児島郡ニ属ス

疆域 東ハ海峡ニ瀕シ、西ハ田上村ト岡及ヒ畔道ヲ界トシ、

南ハ谷山郡上福元村ト岡上ノ逕ヲ以テ相隣リ、北ハ岡及

ヒ瀬戸路ヲ以テ、郡元村ニ界シ、畑地ヲ以テ中村ニ接ス

幅員 東西式拾壹町四拾間、南北拾三町五拾四間

管轄沿革 鎌倉執政ノ時、守護島津忠久ニ属ス、北条氏執

政ノ時、島津忠時其長子忠繼ニ山田郷ヲ与へ、之ヲ領セ

シム 島津国史 忠繼四子アリ、第一子忠真忠繼ノ後ヲ

嗣キ、山田郷ヲ領ス、第二子忠泰中村ヲ領シ、中村二郎ト

号ス、第三子忠秀本村ヲ領シ、宇宿三郎ト号ス、第四子

忠重宮里四郎ト号ス、建治二年九月十三日、山田忠真其

第三子真久ニ本村ヲ与フ、應永六年二月、島津元久本村

ヲ以テ、福昌寺領ト爲シ、歴世島津氏ノ直管スル所タリ、

王政維新ノ後、島津忠義封土ヲ奉還シ、明治四年七月本
島二属ス

里程 鹿兒島県庁ヨリ南ニ距ル壹里貳拾五町、元標ハ村ノ

中央字國料ニ在リ

西 田上村元標へ凡壹里半

北 郡元村元標へ凡貳拾貳町

南 谷山郡上福元村元標へ貳拾四町四拾壹間

地勢 東ハ海ニ瀕シ、西北ハ岡陵回環シ、脇田川村ノ中央

ヲ流ル、運輸便利

地味 田ハ其色白ク沙ヲ交ユス 畑地ハ其色黒シカ

其實中、稲梁甘藷等ニ宜ク、水利便ナリ

税地 田 五拾八丁貳 百四拾六丁五 宅地 貳拾九丁四反
反壹畝拾步 反四畝拾壹步 七畝貳拾壹步

山林 九丁三反 總計貳百四拾三町五反八畝拾六步

官有地 草生地 壹畝貳 墳墓地 貳畝 總計三畝貳拾九步

字地 脇田 本村ノ東ニアリ、東 大字都 本村ノ西ニアリ、東
西六丁、南北拾三丁 西五丁、南北四丁

永仮 西四丁、南北三丁 牛掛 本村ノ北ニアリ、東 樋ヶ迫
西六丁、南北三丁 本村ノ西ニアリ、東

本村ノ西ニアリ、東 梶原迫 西三丁、南北五丁

賃租 地租 金千四百七拾七 牛馬賣買税 金四 船税 金四円
円八 三拾九錢八厘 地方稅 金貳百五拾五円 貳拾錢 四拾錢

人力車稅 円八 地方稅 貳拾八錢四厘 總計金千七百四拾

鹿兒島県地誌(抄)

六円七拾八錢貳厘

戸數 本籍四百五拾五戸 土族貳拾五戸、平民四百三拾戸 社老戸 社村 總計

四百五拾六戸

人口 男千貳拾口 土族七拾口、平民九百五拾口 女千六拾七口 土族七拾八口、平民九百八拾口

牛馬 牡牛六頭、牝牛四頭、牡馬貳百八拾頭、牝馬貳拾七頭、總計三百拾七頭

舟車 漁船六艘、人力車五輛

川 脇田川 幹流、水源谷山郡五ヶ別府村ヨリ出テ、田上村ヲ經、村ノ中央ヲ東南流シテ、海ニ入ル、長サ三拾壹丁、最深ノ処五寸、最淺ノ処壹寸、其流レ清クシテ、緩シ 脇田橋 ノ下流ニ架ス、広サ貳間長サ八 北手溝 本村ノ西字八ツ枝ヨリ脇田川ヲ引キ、村ノ中間石造 中央國料ニ至テ、五派ニ分レテ、田ニ溉ク、長拾三丁、巾三尺、田拾三丁 南手溝 本村ノ西字大字都ヨリ八反式拾七步ノ用水ニ供ス 同川ヲヒキ、本村ノ南字主田ニ至リ、二分レテ、田ニ溉ク、長式拾三丁、巾三尺、田貳拾丁式反四畝拾六步ノ用水ニ供ス

道路 山川路 一ニ谷山街道ト称ス、県道三等ニ属ス、鹿兒島郡郡元村界ヨリ、谷山郡上福元村ノ界ニ至ル、長拾三丁式拾壹間、巾式間、支道アリ、谷山街道ノ東字浜田ヨリ西ニ折レテ、田上村ニ通ス、長式拾壹丁四拾七間、巾壹間 伊作往還 里道一等ニ属ス、村ノ東谷山街道ノ南字南新田ヨリ、西ニ折レ、上福元村諸村ヲ經テ 伊作駅ニ通ス、長壹丁四拾五間、巾式間

堤塘 脇田川堤 脇田川ニ沿フ、長式拾三丁四拾間

神社 天御中主神社 村社、村ノ西ニアリ、社地東西五拾間、南北式拾間式尺、反別三反壺畝壹歩、天御中

主命ヲ祭ル、例祭
陰曆九月二十六日

学校 公立学校 本村ノ西ニアリ、生徒五拾八人、男五拾六人、女八人

戸長役場 本村ノ北ニアリ、東西拾六間壹尺、南北拾九間式尺、反別九畝式拾五歩

古跡 蔵六軒廢寺跡 本村ノ南ニアリ、禪宗、開基年月詳ナラズ、慶応元年廢ス

物産 米 四百五拾四石 百三拾 粟 百四拾壹石 八斗九升六合 七石 石九斗 甘藷 拾式石五

千四 大豆 三石式 蕎麥 七石四 小海老 凡拾百斤 斗五升 斗八升 石

民業 男女農ヲ業トス、農隙商ヲ業トスル者拾戸、魚獵ヲ業トスル者六戸

田上村 タカミ

疆域 東北ハ小野永吉両村ト九州街道ヲ界トシ、西田村ト

岡上ノ径ヲ界トシ、東南ハ用水路ヲ以テ武村ニ界シ、荒

田村宇宿村ト岡及ヒ田間ノ堤ヲ界トシ、西南ハ山林ヲ以

テ谷山郡山田五ヶ別府両村ニ界シ、西北ハ西ノ別府村ノ

地本村ニ斗入ス

幅員 東西凡壹里拾貳町、南北凡壹里

管轄沿革 鎌倉執政ノ時、守護島津氏ニ属ス、正平七年五

月二十二日島津貞久本村ノ半ヲ割キ、伊地知季豊ニ與ヘ、之ヲ領セシム

伊地知氏藏書ニ拠ル

天正中、喜入季久本村ヲ領ス

是ノ時ニ當テ、季久ハ喜入四十町及ヒ桜島ノ赤水村鹿兒島ノ伊敷村牛山郷ノ花北村等ヲ併領ス、後季久本村及ヒ

花北赤水伊敷ノ三村六十町ヲ島津義久ニ獻シ、鹿籠園地

四十町ト易ント請フ義久之ヲ許シ、季久ヲ鹿籠ニ封シ、

本村以下三村ヲ収メ、本村ヲ以テ其直隸ト為ス 地理纂考ニ拠ル

王政革新以後、島津忠義封土ヲ奉還シ、明治四年七月本

県ニ属ス

里程 鹿兒島県庁ヨリ西凡壹里五町、元標ハ村ノ東字庭田 ニツラ

ニ在リ

南東 武村元標エ凡貳拾町

東北 小野村元標ヘ凡壹里半、永吉村元標ヘ凡壹里、西

田村元標ヘ凡貳拾三町

南 荒田村元標ヘ凡三拾町

東南 宇宿村元標ヘ壹里半、谷山駅ヘ凡貳里半

西南 谷山郡山田村元標ヘ凡壹里壹町、五ヶ別府村元標

ヘ凡貳里

西北 西ノ別府村元標ヘ凡壹里三町

地勢 南脇田川北田上川ヲ帶ヒ、林巒繁回シテ、平地少シ、運輸便ナラズ

地味 其色赤ク 赤ボク 真土少シ、其質中ノ下、山地ハ麦及

甘藷煙草二適ス

稅地 田 七拾六丁七反 烟 百七丁九 宅地 貳拾五丁三反 切
六畝貳拾壹步 反拾四步 三畝拾七步

換畑 五拾壹丁八反 山林 貳丁四反 原野 四畝拾七步 稻
貳畝貳拾七步 山畝五步 四畝拾七步

乾場 六畝 荒地 四畝 墳墓地 五反六畝 總計三百拾三町
七步 七步 拾七步 拾七步

六反六畝五步

官有地 社地 七畝 草生地 四反三畝 荒蕪地 九反壹畝
七步 七步 拾六步 拾五步 總

計老町四反貳畝八步

宅地 中園 田上川ノ涯ニアリ、東ヨリ北ニ 上方切 西北田
連ル、東西凡三丁、南北凡五丁

上川ノ上流ヲ夾ム、東西 前方切 田上川ノ中流ヲ夾ム、東
凡拾丁、南北凡拾貳丁

下方切 田上川ノ下流ヲ夾ム、東ヒヨキ脇田川ノ両涯ヲ云フ、東
西凡七丁、南北凡拾壹丁 廣木 西凡壹里、南北凡九丁

貢租 地租 金壹千百拾五 營業稅 金拾 地方稅 金三百三拾
圓六拾錢壹厘 三圓 五圓貳拾五

錢八 總計金壹千四百六拾三圓八拾五錢九厘

戶數 本籍五百拾五戶 土族七拾壹戶、平 寄留八戶 土族三戶
民四百四拾四戶 平民五戶

社貳戶 村 總計五百貳拾五戶

人口 男壹千八拾口 土族百六拾五口 女壹千百九拾三口 族士
平民九百拾五口 他出寄留八口男三 口女五口本村エ寄

留貳拾六口男 留貳拾六口男 留貳拾六口男

牛馬 牡牛八頭、馬貳百五拾貳頭 牡馬百四頭、牝 總計貳
馬百四拾八頭

百六拾頭

山 本村ハ丘陵多ク、或ハ村ノ中央ヲ横絶シ、城ハ谿山郡
二界シ或ハ小野永吉兩村ニ界ス、其樹木ハ矮少ニシテ、

或ハ草ヲ生スルモノアリ、高キハ拾丈ニ過ギズ

川 田上川 幹流、一二新川ト称ス、水源犬迫村ノ山中ヨリ出デ
西ノ別府村ヲ過キ、本村ノ東北ヲ東ニ流レ、中村郡

元村ヲ経テ、海ニ入ル、長貳拾 脇田川 幹流、水源谷山郡五
四丁、広サ凡八間、其流緩シ

村ノ西南ヲ東流シ、宇宿村ヨリ海ニ入ル
長サ凡三拾六丁、広サ凡六間、其流緩シ

道路 伊集院別徑 還 里道一等ニ属ス、本村ノ南武村ノ界ヨ
リ北ニ折レ、西田上川ニ傍ヒ、五ヶ別

府村ニ出ツ、長凡貳拾四丁、広サ三間、支道アリ、宇永田ヨリ
南スルニト貳拾丁、字山口ニ至リ、一ハ南宇宿村ニ通シ、一ハ

西谷山郡五ヶ 別府村ニ通ス

神社 八幡神社 村社、村ノ東ニアリ、社地四畝貳拾步、神功皇
祭十一月三日、創 吉満神社 村社、村ノ北ニアリ、社地貳畝

建年月詳ナラス 拾七步、伊勢諾命・伊勢冊命ヲ
祭ル、例祭十一月三日 創建年月詳ナラス

學校 共立小學校 村ノ東ニアリ、生徒男
九拾八人、女拾九人

戶長役場 村ノ東ニアリ
西別府村ヲ兼ス

古跡 茶臼ヶ城墟 村ノ東北岡陵ノ上ニアリ、土人ノ伝説
ニ、南朝ノ將島山園長ノ陣セシ処ト云

物産 米 四百六拾壹石 糯米 四拾 裸麥 七拾 小麦 六拾
三斗八升五合 四拾 栗 九十石 蕎麥 九 甘草 拾四万 煙草 三百 高菜 凡三拾

式斗 石 五千斤 烟草 斤 三石 以

三十五

上一ヶ年
收穫高

民業 闔村皆農ヲ業トス、商ヲ業トスル者尠戸

西別府村

疆域 西北ハ犬迫村小野村ト田上川ヲ界トシ、西ハ日置郡

伊集院郷石谷村ト畔道ヲ以テ隣リ、南ハ山谷郡五ヶ別府村ト

田圃及ヒ山林ヲ界トシ、東南ハ田上村ニ斗出ス

幅員 東西凡壹里貳拾八町、南北凡貳拾六町

管轄沿革 小野村ニ全シ

里程 鹿兒島県庁ヨリ西南凡貳里、元標ハ村ノ中央字金井

迫ニ在リ

南 谿山駅エ凡三里

西北 犬迫村元標エ凡貳里、小野村元標エ凡壹里拾九町

四拾間

西 日置郡石谷村元標エ凡壹里拾町

南 山谷郡五ヶ別府村元標エ凡壹里壹町

東南 田上村元標エ凡壹里九町

地勢 西北田上川ヲ帶ヒ、脇田川村ノ中央ヲ流ル、岡陵繁

回シテ、平地少シ、運輸便ナラズ

地味 山地ハ其色赤ク、田地ハ其色黒クシテ、沙多シ、其
質下ノ下、山地ハ甘藷及ヒ蕎麦ニ適ス

税地 田 拾六丁貳反八 畑 百四丁七反 切換畑 五拾四丁四反
貳貳拾六歩 貳貳拾六歩

不定田 貳反三 不定畑 貳反四畝 宅地 九丁四反 山林 拾
畝四歩 拾壹歩

三丁三 草生地 貳拾八丁七 柴生地 百三拾丁壹 總計三百
反六歩 反七畝壹歩 反七畝六歩

官有地 社地 貳反貳畝 陸軍省用地 畝八歩 荒蕪地 貳丁七
畝八歩 拾六歩

柴草生地 壹丁三反六 總計三町九反貳歩

字地 金井迫 本村ノ西南ニアリ、脇田川ノ上流ヲ 岩屋 村ノ
夾ム、東西凡拾五丁、南北凡貳丁

田川ノ南涯ヲ云フ、東 大牧 村ノ東南ニアリ、田上村ニ接 大
西凡五丁、南北凡貳丁

峰 本村ノ東ニアリ、東西 凡五丁、南北之二均シ

貢租 地租 金五百九拾貳円四 營業稅 金貳拾 地方稅 金百
八錢貳厘 拾八錢三厘四毛

戸數 本籍貳百拾三戸 土族五拾五戸 寄留貳戸 族 社壹
戸 社 總計貳百拾六戸

人口 男四百七拾貳口 土族百貳拾三口 女五百四口 土族
拾五口、平民 三百四拾九口 總計九百七拾六口 他出寄留拾貳口男五口女
三百四拾九口 總計九百七拾六口 七口本村エ寄留七口男四
口女 三口

牛馬 馬百三拾九頭 牝馬百六頭 牛八頭 牝牛五頭 總計
百四拾七頭 牝馬三拾三頭 牝牛三頭

山 取添山 トリソヘ 村ノ東南ニ在リ、高サ凡式拾丈、
周圍凡式拾丁、全山松杉ヲ生ス

川 田上川 幹流、本村ニテハ西ノ谷川ト云フ、水源犬迫村字萩
ノ別府ヨリ出テ、本村ト犬迫村トノ界ヲ東流シテ、

田上町中村郡元村ヲ經テ、海ニ入ル、本村ニ係ルモノ、脇田
長凡壹里式拾丁、広サ凡六間、深サ凡壹尺、其流急ナリ

川 幹流、本村ノ西字上六谷ヨリ出テ、本村ノ中央ヲ東流シテ、
田上村宇宿村ヲ經テ海ニ入ル、本村ニ係ルモノ、長凡式拾六

丁、広サ三間、深
サ四寸、其流緩シ

原野 尾穴原 オナナ 民有二属ス、東西凡壹丁、南北凡式
丁、村ノ西ニアリ、草及小松ヲ生ス

道路 伊集院別往還 里道一等二属ス、本村ノ東田上村ノ界ヨ
リ村ノ中央ヲ過ギ、字上野原ヨリ谷山郡

五ヶ別府村ノ界ヲ過ギ、石谷村ヲ經テ、伊集院駅ニ通ス、支道ア
リ、字合常口ヨリ北ニ折レ、西脇田川ノ涯ヲ過ギ、西スルコト

壹里、本
道ニ合ス

神社 諏訪神社 村社、本村ノ南ニアリ、社地式反式畝拾六歩
建御中命・事代主命ヲ祭ル 例祭八月二十八日

創建年月
詳ナラズ

戸長役場 田上村ニアリ
本村ヲ兼ヌ

古跡 小田城墟 ヲダ 村ノ西南ニアリ、岡上平地広サ凡壹反、俗云フ芦
谷左次衛門ノ城墟ナリト、芦谷某事跡詳ナラズ

名勝 紅葉山 モミヂヤマ 村ノ東ニアリ、田上川ニ臨ム、山
麓楓樹多シ、霜葉佳絶ヲ以テ聞ユ

物産 米 九拾 麦 三拾 蕎麦 拾六 粟 百拾 甘藷 拾万五
千斤
石 五石 石 八石

民業 男女皆農ヲ業トス、商ヲ業トスル者壹戸

犬迫村 イヌサゴ

疆域 上伊敷村ト東北ハ郡山街道、東南ハ岡陵ヲ界トシ、
鹿兒島県地誌(抄)

西北ハ小山田村ト岡陵ヲ以テ接シ、西ハ日置郡竹山村石
谷村ニ界シ、南ハ西ノ別府村ト田上川ヲ界トシ、小野村
ト畔道ヲ界トス

幅員 東西凡式里式町、南北凡式拾八町
管轄沿革 鎌倉執政ノ時、満家院ニ隸シ、守護島津忠久ニ
属ス、寛元ノ頃、満家榮尊之レカ院司タリ、建長ノ頃、

榮尊ノ子比志島祐範其第二子満家義祐ヲシテ、本村ヲ領
セシム 比志島氏藏 大永ノ頃、島津勝久本村ヲ川田義元
書ニ抛ル

川田義秀ノ二人ニ與へ、之ヲ領セシム 地理誌 永祿三年
六月貴久本村ヲ入來院重朝ニ與へ、其忠勤ヲ賞ス 入來院
氏藏書

二抛 慶長以後ハ、下田村ニ全シ
ル

里程 鹿兒島県庁ヨリ西北凡式里六町、元標ハ村ノ中央字
中組ニ在リ ナカクミ

西 伊集院駅エ凡三里
北 郡山駅エ凡式里半

東北 上伊敷村元標エ凡壹里八町
西北 小山田村元標エ凡壹里

西南 小野村元標エ凡壹里
南 西ノ別府村元標エ凡式里

西 日置郡竹山村元標エ凡壹里、石谷村元標エ壹里半

地勢 郡山街道ト九州街道ノ間ニ横絶シ、東ハ甲突川ヲ帶

フ、全村岡陵起伏、西ヨリ東ニ向テ陵遅ス、運輸便ナラ

ズ

地味 其色黒ク 黒ボク 其質中ノ下、陸稻蕎麦ニ適ス

税地 田 百九丁七反 畑 二百五拾式丁式 宅地 式拾五丁四反

切換畑 百四拾四丁四 不定田 六畝拾 山林 百壹丁七反 原

野 七拾丁五反 總計七百四町三反式拾式歩

官有地 社地 式反式 柴生地 三反式 蕪地 壹丁式 陸

軍省用地 三丁式反壹 内務省用地 拾式丁六 草生地 二反

宅地 老反六畝 藪 八畝拾 山林 四丁五反 切換畑

四畝拾 總計式拾式町五反四畝式拾六歩

字地 入佐迫 村ノ東ニアリ、東西凡 下ノ門 村ノ東ニアリ

南北凡 荒磯 村ノ北ニアリ、東西凡 久木田 村ノ東ニアリ、南

北凡 中組 村ノ中央ニアリ、東西 栗ノ迫 村ノ南ニアリ

八丁 川路山 村ノ西ニアリ、東西凡 古別府 村ノ西ニア

八丁、南 横井町 村ノ西ニアリ、東西 萩ノ別府 村ノ西南

東西凡式拾丁

貢租 地租 金式千三百九拾七 營業稅 金式拾六円 地方稅 式拾五錢

金四百四拾六 總計金式千八百七拾円式拾三錢九厘

戸數 本籍五百七拾八戸 土族三拾八戸 社老戸 社 總計

五百七拾九戸 平民五百四拾戸

人口 男老千式百七拾口 土族六拾八口 女老千三百拾八口

民千式百式拾壹口 總計式千五百八拾八口 他出寄留三口

牛馬 牛拾九頭 牝牛拾壹頭 馬四百拾頭 牡馬拾壹頭、牝

計四百式拾九頭

山 入佐山 村ノ東、甲突川ノ涯ニアリ、高サ凡拾式丈、周圍凡

民有二 屬ス

川 甲突川 幹流、村ノ北小山田村ノ界ヨリ本村ノ東ヲ南流シテ

式尺、其流清 太鼓橋 甲突川ニ架ス、本村ト小山田村ノ界宇

半 田上川 幹流、水源三アリ、皆本村ノ西字萩別府ヨリ出テ

ナリ、西ノ別府村ヲ經テ、田上村中村元村ヲ經テ、海ニ入ル

本村ニ係ルモノ、長凡式拾丁、広サ凡式間、深サ凡壹尺、其流

緩 犬迫川 支流、水源ニアリ、皆本村ノ西字古別府川路山ノ

兩所ヨリ出テ、本村ノ中央宇床次ニ至テ合シ、東

流シテ甲突川ニ入ル、長凡壹里半、下

道路 九州街道 一ニ出水街道ト称ス、国道三等ニ屬ス、本村ノ

長凡式拾壹丁、広サ六間、並木アリ、支道四アリ、一ハ字留ノ

尾ヨリ東ニ折レ、小野村ニ通ス、一ハ字明久原ヨリ西南ニ折レ

日置郡石谷村ニ通ス、一ハ字桃木原ヨリ東ニ折レ、郡山街道ニ

合ス、長凡五拾式丁、一ハ字地ノ眼ヨリ東北ニ折レ、郡山街道ニ

通 郡山街道 県道三等ニ属ス、本村ノ東南上伊敷村ノ界ヨリ
北小山田村ノ界ニ至ル、長サ凡拾八丁、広サ凡

瀑布 久木田瀑 本村ノ東字久木田ニアリ、即チ犬迫
川ノ中流、高サ凡拾丈、巾凡八間

神社 霧嶋神社 命・彦火々出見命・木花咲耶姬命・玉依姬命・
鷓鴣草葺不合命・神武天皇ノ六神ヲ祭
ル例祭九月十九日、創建年月詳ナラズ

戸長役場 村ノ中央字
中組ニアリ

学校 公立小学校三 一八村ノ中央ニアリ、二八村ノ西ニアリ
生徒百五拾人、男百四拾五人、女五人

物産 米 七百壹拾七石八 粟 九百壹拾三石六 蕎麦 貳百貳拾七石
斗四升五合 麦 八百七拾八石 油菜子 八拾七石
甘藷 六拾四万斤 麦 六斗七升三合 三斗九升

民業 男女皆農ヲ業トス、商ヲ業トスル者四戸
コヤマダ

小山田村

疆域 東ハ甲突川ヲ以テ比志島村ニ界シ、西ハ伊集院脇往

還ヲ以テ日置郡竹山村ニ界シ、南ハ岡陵ヲ以テ犬迫村ニ

界シ、北ハ日置郡川田東俣両村ト岡及ヒ畔道ヲ界トシ、

同郡郡山村ト岡陵ヲ隔テテ相隣ル

幅員 東西凡壹里七町、南北凡三拾貳丁

管轄沿革 古時、本村比志島村及ヒ日置郡郡山村東俣村西

俣村川田村ヲ満家院ト称ス、後、本村及比志島村ヲ鹿兒

島郡ニ隸ス、正中ノ比、小山田景範之ヲ領ス景範ハ比志

鹿兒島県地誌(抄)

島時範ノ孫ナリ、時範ノ祖父祐範満家院郡司タリ、比志

島村ニ居ル、因テ比志島ヲ氏トス、時範盛祐義隆ヲ生ム、

時範ハ満家院ヲ領シ、盛祐ハ川田ニ居リ、義隆ハ邊牟木

ニ居リ、各其地名ヲ以テ氏トス、時範忠範ヲ生ム、忠範

二子アリ、長ヲ義範ト曰フ、次ハ即チ景範ナリ、忠範景

範ヲシテ小山田村ヲ領セシメ、因テ以テ氏トス、應永中、

小山田範清小山田城ニ居ル、小山田氏ハ何レノ時ニ滅ヒ

シヤ、載籍詳ナラズ、應永ノ比、吉田位清之ヲ兼領ス

位清ハ吉田ノ郡司吉田清正十四世ノ孫ナリ、位清島津

氏ニ叛ス、島津忠隆兵ヲ率テ之ヲ撃チ、位清ヲ滅ス 其後、

鹿兒島近在ト称シ、歴世島津氏ノ直管タリシガ、王政革

新以後、鹿兒島県ニ隸ス

里程 鹿兒島県庁ヨリ西ニ距ル凡貳里拾町、元標ハ村ノ中

央ヨリ西字田ノ平ニアリ

西北 郡山へ凡壹里

西 伊集院駅へ凡三里

北 日置郡川田村元標へ凡拾五町

西 同郡中川村元標へ凡壹里半

東南 犬迫村元標へ凡壹里

東 比志島村元標へ凡壹里貳町

地勢 江月川北ヨリ屈曲シテ東ニ流レ、両涯ハ皆丘陵ニシ

テ平地八十ノ二ニ過ギズ、薪藪ニ富ミ、水利モ亦便ナリ

地味 山地ハ其色赤ク、其質中、麦・陸稻・蕎麦・油菜・

甘藷等ニ宜シ、水涯ノ地ハ其色薄黒ニシテ、砂ヲ交エ、

稲梁ニ宜シ

税地 田 百式拾壹丁三 畑 百九拾四丁九 宅地 拾九丁八反九

切換畑 百七拾九丁式 山林 七丁壹反 柴草生地 百九拾三反

墳墓地 壹拾叁步 山林 壹畝步 八畝拾八步

官有地 社地 壹丁壹反 山林 八丁六反六 荒蕪地 三反式畝

柴草生地 五反六 附寄洲 七畝式 拾伍步 拾四步

九歩

字地 高城 本村ノ東ニアリ、東西 上永吉 本村ノ東南ニアリ

凡式 下永吉 本村ノ南ニアリ、東西 前迫 本村ノ南ニアリ

凡壹丁式 牛ヶ迫 本村ノ南ニアリ、東西 平見 本村ノ南ニ

拾式間 凡壹丁 凡壹丁、南北之ニ均シ 蒲ヶ原 本村ノ東

凡三丁式 稲村 本村ノ東ニアリ、東西 古園 本村ノ西

南北凡五丁 栗ノ迫 本村ノ西ニアリ、東西 尾尻 本村ノ西ニ

東西凡六丁 大迫 本村ノ西ニアリ、東西 堀ノ内 本村ノ

南北凡四丁 田中園 本村ノ西ニアリ、東西 西ニア

凡三丁、南 凡三丁、南北凡四丁 木ノ下 西ニア

北凡式丁 三山迫 本村ノ西ニアリ、東西 西ニア

リ、東西凡五丁 上原 本村ノ北ニアリ、東西 西村 本村ノ北

南北凡三丁 凡式丁、南北凡五丁 平組 本村ノ南ニアリ、東西 本村ノ南ニ

南北之ニ同シ 谷ノ頭 本村ノ南ニアリ、東西 北之ニ同シ

貢祖 地祖 金貳千三百圓 地方税 金四百七拾八圓 總計金貳

千七百七拾九圓四拾錢七厘

戸数 本籍四百九拾戸 土族貳拾九戸、平 寄留貳戸 土社

九戸 無格社八座 總計五百壹戸

人口 男壹千四拾壹口 土族七拾四口、平 女壹千拾七口 土

七拾八口、平民 總計貳千五拾八口 他出寄留男三口本村エ寄

牛馬 牛百八頭 牡牛拾貳等 馬五百六拾九頭 牡馬貳百頭

頭 總計六百七拾七頭

山 本村ハ著名ノ山無シ、江月川ノ両涯、皆丘陵ニシテ、

高低參差一ナラズ、姿態モ亦異ナリ、高キモノハ二十丈

ニ過ギズ、低キ者八十丈ニ下ラス、叢竹ヲ生スル者アリ、

雜樹ヲ生スル者アリ、青草ヲ被ル者アリ、巉巖壁立スル

者アリ、皆高樹無シ

川 甲突川 幹流深サ平水凡壹尺五寸、濶凡八間、源ヲ日置郡花

尾山ニ發シ、尾山ニ發シ、尾山ノ北ヨリ屈曲シテ、郡山川ヲ合セ

東流シテ大迫村上下伊敷村西田村ノ諸村ヲ經テ海ニ入ル

本村ニ係ルモノ、長凡壹里余、或ハ巖石ニ激シ、或ハ急或ハ緩

其水 雙橋 飯橋郡山街道ヨリ、湯田ノ温泉ニ通スル処ニ
清流 架ス、川中ニ小洲アリ、水分レテ二ト為ル 太

鼓橋 郡山街道大迫村ト本村ノ界ニ架ス 郡山川 ニテハ大迫
石橋ナリ、長拾壹間、広サ貳間半

川ト云フ、水源郡山村ヨリ出テ、本村ノ内字ニ俣川ニテ、甲突
川ニ入ル、濶サ凡六尺、深サ平水凡壹尺、長凡貳拾五丁、大雨

時ハ暴 下永吉川 支流、本村ノ南山中ヨリ出テ、字鍋田ニテ江月
漲ス 川ニ入ル、長凡十五丁、川巾大迫川ト略同シ

森林 山林官有ニ属スルモノ、凡十二町、其樹木ハ檜栢桜
柿等ナリ、大木少シ、民有ニ属スルモノ百老町、樹木ハ

松及雜木アリ、大木少シ

冷泉 湯田冷泉 本村ノ東ニアリ、泉質鉄氣ヲ含ム、煙
シテ湯トナス、浴池ニヶ所 逆旅ニ戸

道路 郡山街道 県道ノ三等ニ属ス、本村ノ南犬迫村ノ界ヨリ郡
山郷郡山村ニ至ル、長凡三十二丁、江月川ニ傍フ

大迫往還 里道一等ニ属ス、本村ノ西字尾尻ヨリ郡山街道ト分
レ、西日置郡竹山村ニ通ス 巾凡三尺長サ凡壹里

上原往還 里道一等ニ属ス、本村ノ西字園田ヨリ郡山街道ニ分
レ、北郡山郷東俣村ニ通ス 巾三尺、長凡二十丁

瀑布 小山田瀑布 一ニ布引滝ト曰フ、平城ノ北三丁許ニアリ
高サ凡五丈五尺、源ハ日置郡郡山郷ノ山間ヨ

リ出テ、下流ハ江月川ニ入ル 雌瀑 平城ノ南ニ在リ
巾狭クシテ、勢雄壯ナリ 高サ凡貳丈許

社 諏訪神社 本社ノ北ニアリ、社地東西凡三拾間、南北
之ニ准ス、坪數貳反九畝貳拾五歩、事代主神・建

南方刀美神ヲ祭ル 秋葉神社 無格社、本社ノ西ニアリ、社
例祭旧曆九月十九日 地壹畝貳拾歩、祭神詳ナラズ

祭上 妙見神社 無格社、村ノ南ニアリ、社地三反六
畝拾貳歩、祭神詳ナラズ、祭日同上 現王神

社 無格社、本社ノ西ニアリ、社地四 鎮守神社 無格社本社
畝六歩、祭神詳ナラズ、祭日同上 ノ西ニアリ

鹿兒島県地誌(抄)

社地九畝八歩、祭神 鎮守神社 無格社、村ノ西ニアリ、社地

詳ナラズ、祭日同上 八畝貳拾貳歩、祭神 詳ナラ

ズ、祭 荒人神社 畝六歩、祭神詳ナラズ、祭日同上 八幡

日同上 無格社、本社ノ西ニアリ、社地拾反三 山ノ神宮 無
格社、本社ノ西ニアリ、社地貳畝拾

六歩、祭神詳ナラズ、祭日同上 戸長役場 本村ノ中央ヲ高城
ニアリ、坪數壹反

学校 公立小学二 一ハ村ノ東ニアリ
一ハ村ノ西ニアリ

原野 村中有名ノ原野無シ、草生地ト称スルモノ、九拾九
町 葛秣ヲ採ル

古跡 小山田城墟 又高城ト云フ、今其地ヲ高城ト呼フ、建武中
小山田景範之ニ居ル、今其址ヲ見ス、山上古

松樹アリ、応永二十一年四月二日伊集院頼久景範ノ孫
小山田範清ヲ本城ニ攻ム 範清伏ヲ設ケテ之ヲ破ル 平城墟
小山田城墟ノ西北ニアリ、建武
ノ頃 小山田景範方族之ニ居ル

物産 米 千百六拾五 粟 貳百八拾八 麦 三百三拾八石
石 三斗四合 石 三斗五升 九斗八升貳合 蕎麦
百四拾四石九 斗九升壹合 大豆 八斗四 甘藷 拾貳万貳千貳
拾 油菓子 拾

民業 男女皆農ヲ業トス
比志嶋村 古時、皆房村ト一村タリ、天保ノ末、本村ニ
併ス
疆域 西北ハ三重嶽ヲ以テ、比志嶋村本名村ト界ヲ接シ、東

南ハ岡ノ原村ト丘上ノ徑ヲ界トシ、南ハ上伊敷村ト岡陵ヲ界トシ、西ハ甲突川ヲ以テ、小山田村ニ間道ヲ以テ、川田村ニ隣ル

幅員 東西凡壹里貳拾町、南北凡壹里

管轄沿革 鎌倉執政ノ時、滿家院ニ隸シ、守護島津忠久ニ屬ス、寛元ノ頃、滿家榮尊之レカ院司タリ、比志島西保

城前田上原園ヲ併有ス、榮尊ノ子祐範比志島村ニ居リ、因テ、比志島ヲ氏トス、其子孫累世島津氏ノ麾下ニ屬ス比志島氏藏 天正十五年十二月十八日、島津義久榮尊十書ニ抛ル

四世孫比志島義基ヲ日向ノ曾井ニ移ス、其後、島津氏ノ直營スル所タリ、徳川氏大政ヲ奉還セシ後、島津忠義封土ヲ奉還シ、明治四年七月本県ニ屬ス

里程 鹿兒島県庁ヨリ西北凡三里拾貳町、元標ハ村ノ北字カリヤシタ 假屋下ニ在リ

東北 重富エ凡三里
東北 本名村元標エ凡壹里

東南 岡ノ原村元標エ凡壹里
南 上伊敷村元標エ凡壹里貳拾町

西 小山田村元標エ凡壹里貳町、日置郡東俣村元標エ

凡壹里

西北 日置郡川田村元標エ凡壹里

地勢 北ニ三重嶽ヲ負ヒ、全村皆陵谷ニシテ、比志島川ノ

両涯稍平地アリ、薪炭饒足スト雖トモ、運輸極メテ不便ナリ

地味 其色赤黒相交ル 赤ボクコ 黒ボクコ 川涯ノ地ハ沙多シ、其質

悪シ、川流浅少ナルヲ以テ、時々旱ニ苦ム

税地 田 七拾三丁 畑 六拾四丁三反 切換畑 百拾九丁六反 五畝壹歩 四畝貳拾六歩 三畝拾壹歩

宅地 拾丁八 山林 貳拾九丁貳 田 荒地八反七 原野 百拾畝壹歩 墓 反七畝五歩 畑 畝四歩 六丁

五反貳 畝六歩 墓 四反七畝 總計四百拾四町三反壹畝七歩 官有地 畑 老反三畝 拾貳歩 原野 四丁三反 社地 四反六畝六歩 總計四

町九反六畝四歩 字地 谷川原^{タニガハラ} 村ノ中央ニアリ、東西 塚谷^{ツカノダニ} 村ノ東ヨリ西ニ連 南北凡 凡九丁、南北凡八丁 茅蒲谷^{シヨウブダニ} 村ノ西ニアリ、東西 四丁 拾貳丁、南北凡拾參丁 五月田^{サツキデン} 村ノ南ヨリ 東西凡拾五丁 上須山^{カミス} 村ノ南隅ニアリ、東西 南西凡拾丁 凡八丁、南北之ニ均シ

貢租 地租 金九百四拾五円 營業税 金五拾 地方税 金貳百 三拾五錢五厘 五錢 五拾八

戸數 本籍貳百七拾四戸 土族五拾戸、平民貳百貳拾四戸 社四戸 無格 計貳百七拾八戸

社四戸 無格 計貳百七拾八戸

人口 男老千七百七拾五口 士族百貳口、平民老千七拾三口 女四百六拾六口

士族老百八口、平民三百五拾八口 總計老千六百四拾壹口 他出寄留九拾三口 女五拾 式口

牛馬 牛三拾老頭 牝牛拾九頭 馬貳百貳頭 牝馬五頭、牝馬百九拾七頭 總計貳百三拾三頭

山 三重嶺 本村ノ北ニ聳ユ、山ノ北ハ本村ニ屬ス、東北ハ本名村ニ屬シ、西北ハ日置郡東俣村ニ屬ス、高サ凡三拾丈、周圍凡老里、山脈西北花尾山ニ接ス、樹木鮮シ

川 甲突川 幹流、本村ト小山田村ノ界ヲ流ル、長比志島川凡四丁、濶サ貳拾三間、其流稍急ナリ 支流、本村ノ東字塚ノ谷ヨリ出テ、西流シテ村ノ中央ヲ貫キ、西ノ方小山田村ノ界ヨリ甲突川ニ入ル、長凡老里六丁、濶サ三間、深サ六寸、流清クシテ急ナリ

神社 諏訪神社 無格社、社地老反貳步、村ノ北ニアリ、例祭同日 日枝神社 無格社、社地老反三畝貳步北ニアリ、例祭同日 村ノ北ニアリ、例祭同日

嚴嶋神社 無格社、社地老反貳步、村ノ南ニアリ、例祭同日 以上四社祭神及創建年月詳ナラズ

道路 郡山別往還 ヨリ、北日置郡川田村ノ界ニ至ル、長凡九丁

中三間、支道アリ、宇涼松ヨリ東岡ノ原 鹿兒嶋往還 里道 村ノ界ニ至ル、長凡老里拾丁、巾五間 鹿兒嶋往還 一等ニ屬ス、本村元標ヨリ西南上伊集院村ノ界ニ至ル、長凡老里貳拾丁、巾凡五尺路頗ル險惡 森林 元鹿倉林 民有ニ屬ス、東西凡五丁、南北凡三丁、村ノ北ニアリ、雜木ニテ大樹無シ

鹿兒島県地誌(抄)

原野 石場迫 民有ニ屬ス、東西凡貳丁拾間、南北凡貳町村ノ北ニアリ、樹木ナシ、唯草ヲ生ス

学校 公立小学校 村ノ西ニアリ、生徒四拾四人、男三拾九人、女五人 戸長役場 村ノ中央ニアリ、仮設

古跡 比志島城墟 村ノ中央丘陵ノ上ニアリ、平地貳反五畝步ハ古樹ヲ存シ、半ハ畑地ト為ル 其址ヲ存セス、寛元ノ頃ヨリ比志島氏累世ノ居城ナリ、建武三年十月十八日、矢上高純比志島範平ヲ本城ニ攻ム、克タス、文明九年島津季久守護島津忠昌ニ叛シ、比志島義重ヲ本城ニ攻ム、既ニシテ季久困ヲ解キ、忠昌ニ降ル

物産 米 六百石六斗五升 粟 拾石 麦 五百八十石 蕎麥 貳百五十石 斗五升 藁 拾石

民業 園村男女皆農ヲ業トス、商ヲ業トスル者三戸 岡ノ原村 古時、塚ノ原村ト称シ、後、岡ノ原村ト改ム、花野村ト両村タリ、後合シテ一村ト為ス、年号干支詳ナラズ

疆域 東ハ川上村ト吉田往還下田村ト用水路ヲ界トシ、西ハ丘上ノ徑ヲ以テ、比志島村ニ隣リ、南ハ上伊敷村ト岡陵ヲ界トシ、北ハ丸岡ヲ以テ本名村ニ界ス

幅員 東西凡貳拾老町八拾三間、南北凡三拾七町七拾八間 管轄沿革 小野村ニ企シ

里程 鹿兒島県庁ヨリ西北凡貳里半、元標ハ村ノ中央字屋敷添ニ在リ 東 重富駅エ凡三里半

西 比志島元標エ凡巷里
東 川上村元標エ凡式拾五町、下田村元標エ凡巷里

南 上伊敷村元標エ凡巷里拾式町

地勢 地勢南北ニ控キ、花野川村ノ中央ヲ南流シ、陵谷起

伏シ、運輸便ナラズ

地味 其色或ハ赤ク、或ハ黒ク、或ハ白シ、大抵ニガ土赤

ボクコ、シラス等ニテ、其質美ナラズ

税地 田 三拾六丁九反 畑 式百八丁 宅地 六丁五反 山林
七畝拾五歩 九反七歩 六畝八歩

反畝畝七歩 總計三百式拾八町壹反五畝壹歩

官有地 社地 七反壹 荒蕪地 七反六畝 草地 壹反七畝
畝三歩 式拾壹歩 畝壹歩 總

計壹町六反四畝式拾五歩

字地 東村ノ東ニアリ、東西凡 春山 村ノ北ニアリ、東西凡壹
町ノ南ニアリ、南北凡三拾間、南北之ニ均シ

熊追 東西凡式丁、南北凡 前田 村ノ南ニアリ、東西凡壹
町ノ南ニアリ 丁三拾間、南北凡三丁

貢租 地租 金九百九拾四円 地方税 金三百拾式 總計金壹千
三拾九錢貳厘 円八錢六厘

三百六円四拾七錢八厘

戸数 本籍式百四戸 土族拾七戸、平 社三戸 無格 總計式
民百八拾七戸 社 總計式

百七戸

人口 男四百七拾五口 土族三拾六口、平 女四百五拾式口
民四百三拾九口

土族式拾八口、平 總計九百式拾七口
民四百式拾四口

牛馬 牛拾三頭 牡牛九頭 牝牛四頭 馬百九拾三頭 牡馬八頭、牝
計式百六頭 牝牛四頭 馬百八拾五頭 總

丸岡 本村及本名村比志島村三村ニ跨ル、高サ凡
拾五丈、周圍凡巷里、矮樹叢生良材ナシ

川 永井田川 ケ窪ヨリ出テ、北ヨリ南ニ流レ、上伊敷村ヲ經テ
甲突川ニ入ル、本村ニ係ルモノ、長 支流本村ノ内旧
凡三拾八丁六拾式間、広サ凡三間 花野川 花野村ノ谷ヨリ
出テ、西南流シテ、上伊敷村ヲ經
テ、甲突川ニ入ル、長凡三拾丁

学校 公立小学校 村ノ中央ニアリ
生徒男六拾人

神社 諏訪神社 無格社、村ノ中央ニアリ、社地式拾七歩、建南
方刀美命ヲ祭ル、例祭十一月八日 創建年月詳
ナラ 塚田神社 無格社、村ノ北ニアリ、社地壹反 池尾神社
九畝式拾三歩、例祭九月十九日

無格社、村ノ北ニアリ、社地壹反七畝壹歩、例祭
十一月八日、以上ニ社祭神及ビ創建年月詳ナラズ

物産 米 百八拾壹石 糯米 式拾五石 大麦 拾式石三
斗七升 壹斗九升 甘藷 四拾七万八千
三拾四 蕎麥 六拾七 石三斗 五百六拾斤

民業 男女皆農ヲ業トス

川上村 古時、花棚村ト両村タリ、後、合シテ一村ト為
カハカミ ケダナ

疆域 東ハ吉野村、西ハ岡ノ原村ト吉田往還上伊敷村ト畔
道ヲ以テ界シ、南ハ山路ヲ以テ下田村ニ隣リ、北ハ精木
川ノ中央ヲ以テ宮ノ浦村ニ界ス

年号千支 詳ナラズ

幅員 東西凡式拾七町五拾六間、南北凡三拾町七間

管轄沿革 文治以後、島津氏之ヲ統轄ス、後島津頼久ノ子

川上親久本村ヲ領シ、子孫相承ク 天文中川上昌久宛ヲ以テ死ス、其族川上城ニ拠ル

島津勝久之ヲ攻ム、河田某村田某川上氏ヲ援ク、勝久困ヲ解テ退ク、後、島津忠良親久ノ子久隅ヲシテ本村ヲ領セシム

慶長ノ頃ヨリ鹿兒島近在卜称シ、島津氏ノ直隸タリ、王

政革新以後、本県ノ所管ト為ル

里程 鹿兒島県庁ヨリ、北ニ距ル凡弍里、元標八村ノ中央字

宮ノ迫ニ在リ

東 重富駅エ凡三里

西 岡ノ原村元標エ凡式拾五町

南 下田村元標エ凡拾八町

北 宮ノ浦村元標エ凡弍里半

東 吉野村元標エ凡壹里

地勢 北ハ牟禮岡ノ麓ニ接シ、精木川村ノ中央ヲ南ハ其両

涯ハ皆丘陵ニシテ、其上畑地アリ

地味 田地ハ其色黒ク、稲梁ニ宜シ、畑地ハ其色赤黒相交

リ、麦及蕎麦・甘藷等ニ適ス、其質共ニ中ノ上

税地 田 四拾四丁九反 式百八拾弍丁
三畝拾九步 六反四畝三歩 宅地 七畝拾三歩

山林 四拾七丁三 平林 壹丁壹
反六畝六歩 畝六歩 柴生地 八丁八反五
畝拾六歩 總計

鹿兒島県地誌(抄)

四百五町五反八畝三歩

官有地 社地 式反六畝
拾五歩

字地 池ノ川 イゲ 村ノ中央ニアリ、東西凡 宮ノ前 ミヤノマエ 全上東西凡式
壹丁、南北凡壹丁三拾間、シ 丁、南北之ニ

同 永吉 ナカヨシ 村ノ西ニアリ、東西凡 西ノ前 マエ 旧花棚村ニ属ス、
丁式拾間、南北凡壹丁、シ 村ノ北ニアリ、東

西凡式丁、南北 凡上村ノ北ニアリ、東西 凡式丁、南北之ニ同シ

貢租 地租 金壹千六百六 地方税 金四百九拾九
円拾五錢式厘 總計金式

千百五円四拾壹錢三厘

戸数 本籍三百五戸 土族三拾八戸、平 社四戸 無格社式座
民式百六拾七戸

總計三百九戸

人口 男六百六拾九口 土族八拾七口、平 女六百七口 土族
四口、平民五 民五百八拾弍口 八拾

百弍拾三口 總計壹千弍百七拾六口

牛馬 牝牛拾五頭、馬弍百三頭 牡馬拾八頭、牝 總計弍百
拾八頭 馬百八拾五頭

川 精木川 幹流、源ヲ牟禮岡ノ西麓ニ發シ、宮ノ浦村ヲ經、南
流シテ、本村ノ中央ヲ過キ、下田村ヲ經、坂本村ト

吉野村ノ界ヲ流レ、鹿兒島市街ノ北ヲ過キ、海ニ入ル、本村ニ
係ルモノ、長サ凡三拾三丁式拾三間、広サ七間、深サ凡壹尺、

石橋二、一ハ本村ヨリ下田村ニ通スル村道ニ架ス、長凡八間広
サ九尺、一ハ本村ヨリ岡ノ原村ニ通スル村道ニ架ス、長サ凡八

間広サ 間広サ

神社 南方神社 村社、社地式畝拾歩、本村ノ北ニアリ、建南方
刀美命ヲ祭ル 例祭八月廿八日、創建年月詳カ

間広サ

間広サ

ナラ 日枝神社 村社、本村ノ北ニアリ、社地七畝式歩、大山
昨命ヲ祭ル、例祭十一月初申ノ日、創建年月
詳ナス

菅原神社 無格社、社地老反老畝式拾老歩、菅原道真ヲ
祭ル、例祭二月廿五日、創建年月詳ナラス

池ノ神社 無格社、社地四畝七歩、例祭二月
廿五日、祭神及ヒ創建年月詳ナラス

道路 吉田往還 里道一等ニ属ス、本村ノ東ヨリ本村吉野村ノ界
ヲ過ギ、北ノ方宮ノ浦村ノ界ニ至ル、長凡拾式

丁、広
サ式間

学校 公立学校二一ハ村ノ中央ニアリ、生徒三拾六人、一
ハ旧花棚村ノ中央ニアリ、生徒三拾四人

戸長役場 村ノ中央ニアリ
岡ノ原村ヲ兼ヌ

物産 米 百七拾五石五 糯米 六拾 蕎麥 七拾三 大麦 六拾
斗七升五合 七石 石式斗 大麥 四石
九 小麦 百三拾六 裸麥 六拾九 粟 百式拾八石 甘藷 九
石式斗 石四斗 壹斗式升 拾

六万五千六
百七拾斤

民業 男女皆農ヲ業トス
ヨシノ

吉野村

疆域 東北ハ大隅始羅郡平松村ニ界シ、西ハ精木川ヲ以テ、

下田村坂元村ニ界シ、西北ハ吉田往還ヲ以テ、川上村ニ

隣リ、北ハ傘禮岡ノ麓ヲ以テ、宮ノ浦ニ接シ、南ハ鹿兒

島 稻荷馬場町 二接シ、東南ハ海ニ面ス
清水馬場町

幅員 東西式里式拾四町五拾間三尺、南北老里式拾四町七

間三尺

管轄沿革 小野村ニ全シ

里程 鹿兒島県庁ヨリ東北ニ距ル凡壹里拾八町、

重富駅元標エ式里三拾三町七拾間

西北 川上村元標エ凡壹里

北 宮ノ浦村元標エ凡壹里式拾町

西 坂元村元標エ凡三拾町下田村元標エ凡三拾町

地勢 東南海ニ面シ、傘礼岡其北ニ峙チ、土地爽塏ニシテ、

原野広渺、西ニ精木川ヲ帶フ、薪炭ニ乏ク、蕪秣ニ富ム

地味 其色赤黒相交ル、雜穀及茶ニ適ス、水利不便ニシテ、

時々旱ニ苦ム

税地 田 拾三丁七反 畑 五百三拾六丁五 切換畑 三百六拾五
拾五 山林 四百九丁六反 原野 四拾三丁八反 總計壹千三

百六拾八町九反九畝六歩

官有地 牧内原野 八拾八丁三反 島堀山林 拾丁式 磯 海軍
九畝拾三歩 反歩 省用

地式丁 五反歩 總計壹百壹町九畝拾三歩

字地 菖蒲谷 本村ノ北ニアリ、東ハ吉田郷ニ連リ、西ハ帶 帶迫
シヤウブダニ 迫ニ接ス、東西凡壹里拾丁、南北凡三拾丁

村ノ西ニアリ、北ハ川上村、西ハ下田 雀ヶ宮 村ノ南ニアリ、
村ニ接ス、東西凡式拾丁、南北凡拾五丁

北凡式 中ノ町 村ノ東ニアリ、東西 七社 村ノ東ニアリ、南
ナカヨウワ 凡八丁、南北凡五丁

拾丁 凡八丁、南北凡五丁

凡八丁、南北凡五丁

北凡拾 上ノ原 村ノ北ニアリ、東西
 西凡壹丁、南 平松 本村ノ北ニアリ、北ハ始羅郡平松村
 北凡拾貳丁 二接ス、東西凡壹丁、南北凡五丁
 花倉 村ノ東ニアリ、東西 本村ノ南ニアリ、東西 実方
 凡拾丁、西北凡拾五丁 凡壹丁、南北凡拾丁 磯 凡壹丁、南北凡拾壹丁

本村ノ西ニアリ、東西 凡拾丁、西北凡拾五丁
 貢租 地租 金貳千八百拾貳 金四拾五円
 拾円 円七拾四錢八厘 六拾五錢 地方税 金壹
 拾四錢 總計金三千九百八円五拾三錢八厘 千五
 戸数 本籍壹千貳百三拾五戸 土族三百六拾七戸 社九戸
 平民八百六拾八戸
 總計壹千貳百四拾四戸

人口 男壹千五百四拾五口 土族四百貳拾四口、
 貳拾四口 平民壹千百貳拾壹口 女貳千八百
 土族八百八拾壹口、平 總計四千三百六拾九口 出
 寄留貳拾口男 貳拾四口 民老千九百四拾三口
 牛馬 牛五頭 牡牛四頭 馬五百九拾六頭 牡馬貳百七拾貳頭
 牝牛壹頭 牝馬五百貳拾四頭
 總計六百壹頭

舟 蒸氣船 百噸以上壹艘 漁船 貳拾 總計三拾壹艘
 百噸未満壹艘 九艘
 山 牟禮岡 本村ノ北ニ在リ、岡ノ東麓ハ大隅重富郷ニ屬シ、北麓
 ハ本郡吉田郷ニ屬ス、周圍凡七里、高サ凡貳拾三丈、
 岡ノ西南麓ハ原野ニシテ、全野ノ牧ト云、頂ニ社アリ、牧神
 ヲ祭ル、登路凡拾壹丁余、山樹木生セズ、青草之ニ蒙ル
 磯山 本村ノ東南海浜ニ連リ、山脉西ハ東福寺山ニ連リ、東ハ
 大隅始羅郡ノ諸山ニ接ス、本村ニ係ルモノ、長サ貳里貳

鹿兒島県地誌(抄)

拾丁余、高サ凡貳拾丈、東福寺山 本村及鹿兒島ニ跨リ、山
 嶺岩ニシテ、茂樹多シ 脉東磯山ニ接ス、山上路
 アリ、本村ヨリ鹿兒島ニ通ス、其
 頂ヲ鳥越ト云フ、高サ凡拾八丈

川 精木川 幹流、本村ニテハ実方川ト云フ、水源本郡宮ノ浦ノ
 山中ヨリ出テ、川上村下田村ヲ經、本村ト坂元村ト
 ノ界ヲ南流シテ、鹿兒島ニ抵テ、稲荷川ト為リ、海ニ入リ、長
 サ本村ニ係ルモノ、凡式里、広サ四間、其流緩シ、深サ凡壹尺
 太鼓橋 精木川ニ架ス、吉野往還ニ屬ス、石造長サ四間、広サ
 九尺、西岸巨巖ニシテ、大水ト雖トモ、破壊ノ患ナシ
 雀ヶ宮川 單流水源下田村ノ山中ヨリ出テ東流シテ本村ニ入り
 宇雀ヶ宮ニ抵リ各所ニ筭ヲ設ケ田ニ灌キ下流ハ磯海
 ニ注ク長サ凡ソ
 壹里濶サ五尺

森林 磯平林 磯山ノ間ニアリ、民有ニ屬ス、松及ヒ雜木ヲ生
 ス、大木少シ南北式里拾八丁余、東西凡拾五丁
 原野 吉野原 本村ノ北牟禮岡ノ麓ニ連ル、北ハ吉田郷ニ接シ
 東ハ大隅始羅郡重富郷ニ控ス、今大抵開墾シテ
 雜穀ヲ種ユ、土人ノ伝説ニ、畑地
 トナリシハ、享保以後ナリト云フ
 牧場 吉野原ニアリ、官有ニ屬ス、此地古牧場ナレトモ、其後
 牛馬ヲ牧セズ、明治四年鹿兒島県知識兼雄官ニ請テ、此地
 ヲ借り、牛ヲ牧ス、十三年
 ニ至テ、牝牡牛三拾頭アリ

出崎 大崎 本村ノ東隅ニ方ル、巖石ニテ海中ニ斗 三舟崎本
 出スル、凡壹丁之ヲ大崎ノ鼻ト呼フ
 海浜ノ中央ニアリ、巖石ニテ海中 茅落崎 本村海浜ノ南ニア
 二斗出スル、凡ソ六間灣ヲナス カヤオトシヤキ
 中ニ盤 茅落崎 本村海浜ノ南ニア
 回ス 巖石ニテ稍海
 道路 大隅路 一ニ福山街道ト称ス、県道一等ニ屬ス、本村ノ南
 鹿兒島ノ界宇田ノ浦ヨリ海浜ヲ過キ、大隅始羅郡
 平松村ノ界ニ至ル、長サ凡式里老丁、巾三間 旧大隅路 道里
 磯ヨリ西ニ折レ、本村ニ通スル支道アリ

一等二属ス、村ノ西南坂元村ノ界ヨリ、字関谷ノ東北大隅始羅郡平松村ニ至リ、大隅路ニ合ス、長凡壹里式拾壹丁壹間、広サ凡式 吉田往還 里道一等二属ス、村ノ西旧大隅路ノ中央字帶間 迫ヨリ、北川上村宮ノ浦村本城村ヲ経テ、大隅始羅軍二通ス、元標ヨリ長式拾五丁拾五間、広サ凡式間

神社 白山比咩神社 無格社、村ノ南ニアリ、社地五畝歩、伊諾那岐命・伊諾那美命ヲ祭ル 例祭十一月九日、創建

鎮守神社 無格社、村ノ西ニアリ、社地八畝歩 年月詳ナラズ 天照皇大神ヲ祭ル、例祭十一月十日、創建年 実方神社 無格社、村ノ西ニアリ、社地三畝歩 月詳ナラズ 天照皇大神ヲ祭ル 例祭十一月十五日、創建年 蒲谷神社 無格社、本村ノ北ニアリ、社地三畝歩、天照大神ヲ祭ル、例祭十一月十五日、創建年 七社神社 無格社、村ノ東ニアリ、社地壹反歩 月詳ナラズ 大國主命ヲ祭ル、例祭十一月十二日、創建年 三舟神社 無格社、村ノ東ニアリ、社地三畝歩、伊諾那岐命・伊諾那美命ヲ祭ル、例祭十一月十八日、創建 菅原神社 無格社、村ノ南ニアリ、社地四反歩 年月詳ナラズ 三畝式拾三步、菅原道真ヲ祭ル 例祭十一月廿五日 上ノ原神社 無格社、村ノ北ニアリ、社地十一畝歩、霧島神ヲ祭ル、例祭十一月十二日、創建 平松神社 無格社、村ノ東字平松ニ在リ、社地三反六歩、島津歳久ヲ祭ル 例祭十一月二十五日、島津歳久ハ島津貴久ノ第三子ナリ、人ト為リ、沈深剛毅知略アリ、年甫テ十九貴久ニ従ヒ、蒲生範清ヲ蒲

生城ニ撃ツ、爾後、攻城野戰功ヲセサル無シ、天正八年吉田ヨリ封ヲ祁答院ニ移サル、十四年兵ヲ將テ、豊後白仁城ヲ守ル十五年豊臣秀吉大挙シテ、薩摩ヲ征ス、歳久大口地頭新納忠元ト秀吉ヲ要撃セント謀リ、窃ニ義久ニ言テ曰ク、秀吉大兵ヲ提ケテ我疆ヲ侵ス、敢テ一人モ之ニ敵スル者無シ、天下將ヲ困ニ一男子ナシト謂フ、邀テ之ヲ撃シ、義久許サズ、秀吉ノ泰平

寺ヲ発スルヤ、將ニ祁答院ニ宿セントス、義久ヲシテ歳久告ケシム歳久許サズ、秀吉怒ル 乃チ、山崎ヨリ鶴田ニ如ク、歳久人ヲ發シ、肩輿ノ前ニ及ツ、以為ク、故ニ險ニ導クト、時吉遂ニ鶴田ニ宿ス、歳久病ヲ以テ、來謁セズ、家臣本田掃部助ヲシテ、館事ヲ知ラシム、文祿元年 秀吉大ニ征韓ノ師ヲ興シ、諸將ヲ部署シ、肥前名護屋ニ陣ス、六月島津義弘進テ朝鮮ヲ攻ム、歳久疾アリ、軍ニ從フヲ得ズ、部將梅北國兼義弘ニ後レテ發シ、肥前ニ至リ、兵ヲ還シ、佐敷城ヲ陥レ、又八代城ヲ攻メ小川城ヲ援ク、佐敷ノ人境某婦人ヲシテ、酒ヲ飲シメ、醉シメテ之ヲ殺ス、秀吉淺野長政等フシテ、國兼ヲ討シメ、至レハ則チ、既ニ死ス、初秀吉國兼ノ叛スルヲ聞クヤ、義久之ニ与ルト為シ、罪ヲ加ント欲ス、徳川家康之ヲ諫メ、其罪無キヲ論ス秀吉乃チ義久ヲ赦シ、國ニ就カシメ、細川幽齋ヲ遣リ、梅北ノ國兼ト謀フ同フス、秀吉積怒一ニ非ス、然レトモ、義久ト和ヲ講スルヲ以テ、之ヲ優容ス、讒者ノ言ヲ聽クニ及テ、大ニ怒ル七月十日秀吉書ヲ義久ニ与ヘ、歳久ノ罪ヲ數ヘ、且ツ曰ク、速ニ歳久ノ首ヲ斬リ來レ、否ラザレバ汝ノ國ヲ屠ラン、是ニ於テ義久歳久ヲ祁答院ニ召ス、歳久病ヲ興シ、鹿兒島ニ詣ル、陰ニ如ク、群臣義久ニ言テ曰ク、今歳久ヲ縱チ其邑ニ帰ラシム、是虎ヲ山ニ放ツナリ、乃チ町田久倍ヲ緋テ兵ヲ將テ、之ヲ逐ハシメ、吉田蒲生ノ間ニ要ス、歳久之ヲ聞キ、以テ免ルヲ得ザルト為シ、乃チ滝ヶ水ニ泊ス、家臣戰ント欲ス、之ヲ止メテ曰、君父ノ命校セズ、吾死スル而已、家臣聽カス、皆戰テ死ス、將士進テ之ニ逼リ、自裁セシメント欲ス、歳久ニ語テ曰ク、身疾病ニ罹リ、手足痠痺、刃ヲシテ能ハズ、公等ヲ煩シ、我頸ヲ斬レ、意氣自若、衆皆俯伏、敢テ起タズ、原田甚次ナル者アリ、遂ニ起テ、之ヲ斬ル 歳久終ニ臨ミ歌ヲ詠ス曰ク、晴蓑メガ玉ノ有家ヲ人問ハバイザ白雲ノ上ト答ヘヨ、晴蓑ハ歳久ノ号ナリ、義久永詠ノ歌ヲ付シ、首ヲ秀吉ニ送ル、秀吉為ニ涙ヲ墜ス、歳

久年ヲ亨ル五十六、一女アリ、薩摩守義虎ノ第二子忠隣ヲ養テ子ト爲シ、其女ヲ配シ、常久ヲ生ム、忠隣天正十五年日州根白坂ニ戦死ス、常久薩摩日置郷ヲ領シ、子孫相承ク、歳久ノ死スルヤ、義久痛悼遺骸ヲ滝ヶ水ニ埋メ、諡シテ心岳良久空大禪伯ト曰フ、慶長四年一寺ヲ建テ、号シテ心岳寺ト曰フ、明治三年島津忠義心岳寺ヲ廢シ、更ニ社ヲ建テ、平松神社ト曰フ、歳久ノ死スル、其罪ニ非ス、後人之ヲ冤トス、初メ歳久伊集院忠棟ノ人ト爲リヲ惡ミ、窃ニ義久ニ告ケ曰フ、異日乱ヲ邦内ニ作ス者ハ、必ス此人也、公宜ク、心ヲ用ユベシ、忠棟聞而恨ム曰ク、他日吾ヲ亡ス者、必ス此人也、忠棟便佞寵ヲ秀吉ニ得、某国兼ト謀ヲ同フス、謂フ者、忠棟之ヲ讒スルナリ、忠棟後、島津氏ニ叛シ、誅ニ伏ス、果シテ歳久ノ見ル所ノ如シ

学校 公立学校二五人、一ハ本村ノ西ニアリ、生徒男式百五人、女拾

戸長役場 本村ノ中央字中ノ別府ニアリ坪数五畝歩

郵便局 仮設本村ノ西字帶迫ニアリ

電線 線路 本村大隅路ノ左ヨリ始羅郡平松村ニ達ス、長式里七丁

紡績所 本村ノ南磯ニアリ、坪数千坪、木綿糸ヲ製ス

古跡 月船寺廢寺跡 村ノ南ニアリ、禪宗、明治三年廢ス 心岳寺跡 禪宗、村ノ北字平松ニアリ、明治三年廢ス

名勝 大磯 南ハ田ノ浦ニ接シ、西ハ磯山ヲ負ヒ、東ニ霧島岳ヲ望ミ、西南ニ開聞岳ヲ雲表ニ瞻ル、桜島ト海トヲ隔

テテ相對ス、南山川ノ海口ヨリ北東福山ニ至ル、山脉相接ス、凡式拾余里風景佳絶 仙巖園 磯山ノ麓ニアリ、萬治中、島津光久別館ヲ築キ、園池ヲ設ケ、名テ仙巖園ト曰フ、光久ノ曾孫吉貴致仕ノ後、多ク桜樹ヲ磯山ニ栽ヘ、此館ニ遊息

鹿兒島県地誌(抄)

ス、天明丁未ノ歳、島津重豪園中ノ勝景ヲ品シテ、十六景トナシ、画師ニ命シテ、其真景ヲ画カシメ、長崎ノ客林梅郷ニ托シ、清人ノ詩文ヲ求メ、一帖ト爲ス ト云フ、今島津忠義ノ別館タリ

物産 米 百九拾二石五 陸稻八拾 粟 七百八 蕎麦 三百拾 斗八升四合 石 拾石 小麦 八拾 裸麦 石 百五 甘蔗 万斤 油菜子 百 貳拾石

民業 園村男女皆農ヲ業トス、漁獵ヲ業トスル者拾戸 (以下宮ノ浦村・本名村・本城村・西佐多浦村・東佐多浦村ニ現吉田村ノ記事省略)

明治十七年九月十五日編成

鹿兒島縣令 渡辺千秋

鹿兒島縣六等属 丸山子堅

鹿兒島県地誌備考（抄）

綱貴公御譜中

正文在文庫

薩摩国鹿兒嶋城下之干潟海手江五町程築地申付町屋仕、且亦右築地之内小船等入置候堀并從居所寅方磯辺大船繫候、浪除之波戸被申付度旨得貴意候、伺之通以連々可有普請候、（朱）繪圖書付之趣各一覽之事情、以上、

元禄十四年 三月廿六日 土屋相模守

松平薩摩守殿

右一通後年参照ノ為抜抄セリ

鹿兒島郡

鹿兒島

一、矢上没落之時曆応四年之頃者道鑑公七拾三歳ニ被成御座候、

一、天文四年四年島津実久鹿兒島江乱入致放火故、十月十日勝久公被成御没落、実久暫鹿兒島押領ス、一、川辺平次郎良道六男鹿兒島久米三郎忠重領也、家譜ニ有阿多平四郎忠景養子領之、其子女子一道鑑公当所之凶徒を退治

被遊、氏久公江被進候故、氏久公御代より御居城之地ニ被成候、曆応四年矢上没落已後御入部之様申説有之、難信用其以前より被成御座候与相見得候、按曆応四年之頃氏久公拾四才ニ而被遊御座候へ者、矢上没落以後御入部之説実歟、觀応三年之頃者氏久公式拾三才なれハ其頃より被成御座候歟、

一、東福寺城氏久公御自身被遊御責候、氏久公被遊御在城候、○肝付八郎重兼・中村弾正忠秀純等格籠之、曆応三年八月十二日より攻之、翌年四月廿六日攻落之候、貞久公也、○応永

廿年巳十二月七日久豊公聞本城落去之事於吉田而翌日直

ニ歸師彼地、從五十騎而入当城守之給、軍兵白諸所馳集、

一、尾頸小城浜崎御城とも云ふ同四年同月廿八日落城ニ而候、裨寝

三郎清種目安、道鑑公御一見状ニ詳也、寄手大将島津三

郎左工門尉師忠と云々、

一、昆沙門堂、応永廿年本城江伊集院頼久攻入之時此所ニ而戦有、

一、唐湊、当分下町若宮之真菰池之所と云り、また武村にも名所之部と見得たり、

一、本城○嘉慶之頃元久公志布志内城より此城ニ移給ふ、○応永廿年癸巳十二月七日之夜伊集院頼久窺之攻落候、

時二久豊公菱刈表御馬發候留守なり、北原弥二郎・同太
郎三郎・佐多三郎九郎忠豊以下防禦之場を失戦死也、頼
久原良二退陣ス、久豊公聞此変、從蒲生美作守・同三郎太
郎・吉田若狭守以下廿三騎雜兵共五十計之兵吉田より引
返し給ひ松尾坂より入、詣諏訪大明神、夫より清水東福
寺城入給ふ、城裏悉焦土と成候、青木の前の川原物門口、
一、四郎か坂、応永廿年巳十二月七日伊集院頼久攻落本
城、退陣原良、頼久餘党谷山兵屯此所、仍川田之軍勢抑懸
及合戦、凶徒敗北、味方乘勝殘党加頼久か原良之陣退散
此所也、一、上山城、坂元村万平門ニ有、火立番所有、
在草牟田、觀心之頃南方之凶徒鮫島彦四郎入道蓮道か党
成べし、此地を取ん逆谷峯城ニ打集候、依之道鑑公自身上
山ニ馳向給ふよし比志島家文書ニ見得たり、○氏久公御
代薩州御家人交名帳ニ上山領主と有之ハ此城主之事歟、
○旧記ニ云、天正十九年辛卯鹿兒島上野山城取劔初、八月
六日己亥、滿役者川田駿河入道也、龍伯公御代と有、○
日記云、慶長七年壬未八月五日少将様鹿兒島御出馬御上
落也と有、同八年癸卯二月十五日御帰国也、同比ニ鹿兒
島樓門立候事、慶長十七年九月十一日柱立被成候事、○

鹿兒島県地誌備考（抄）

兒島を御打立被成候而豊後国迄御登被成候へ共、鎮り候
故、同廿年之正月御帰国被成候事、左候而亦々大阪乱争
ニ而同年五月六日ニ鹿兒島を御打立被成候処、大阪落城
之由相聞得候而根占衆七人京泊より帰陣候事、五月廿九
日上様ハ御上落被成候而七月廿九日御帰国之事、

一、本御内 大龍寺境内也、
坂元村水口門 天正十五年六月十五日義久公發

当城越路、天文十九年庚戌十二月十九日貴久公伊集院よ
り被遊御座候、○文祿四年初冬義久公此地を忠恒公ニ御
讓被成候、公者高麗国渡海御留主也、慶長七年上山ニ御
陣を被移候已後本御内と世談申習し候、

一、催馬樂城 矢上左エ門五郎高純楯籠之、振逆意、依之
曆応四年四月一日、同十六日迄ニ攻落也、追手大将島津
七郎左エ門尉資忠、搦手大将島津三郎左エ門尉資久也、
大将貞久公、又康安二年九月十二日より責之、十一月七
日之夜攻落寄手比志島彦一丸範平也、預道鑑公之御威、
道鑑公御一見状ニ詳也、城主相知す候、

一、小山田村、久豊公より吉田若狭守賜之領知也、

一、勝岡城、比志島義祐合戦也、一、野元武村之内歟、

一、原良壘 正平年間、官方大将畠山治部大輔国長当所ニ
陣ス、氏久公御戰陣毎日攻合有之候、御内山田弥九郎敵

方多田七郎と名譽之太刀打有之、応永廿年十二月七日夜伊集院頼久本城を攻落し引退、此地陣取候、同十二日合戦有、久豊公圍攻之、頼久已ニ自害ニ相究候砌、吉田若狭守・蒲生美濃守申宥ニ依、頼久之免罪帰陣と云々、

一、火立番所、一、御仮屋此式行犬迫村在横井、

一、小野村、原良合戦之砌於此地大合戦有之、頼久方日置肥前守・町田土佐守直久以下数人戦死、其時四郎坂ニ而も攻合有、○大永七年丁亥五月十一日貴久公鹿兒島を落給ふ時此村ニ而御支度有而夫よりい十院竹之山并鬢石・

柳ヶ谷・場貫・日添尾・牛の河内等之語所を経而田布施ニ越給ふ、一、犬迫村○太守勝久公より川田式部少義元八代拝領之^{十五丁}之内同飛彈守義秀九代同公より拝領、天文六年之春二月日新公此地ニ陣し給ふ、実久軍向之時、

藪田某如惠鉤後詰を成す、故鹿兒島殘敗軍小野・栗山之西之坂下ニ而悉打取之候、日新公之兵得勝利、手鞞を打而喜舞ふ、其後其地を鞞々筒と云々、今按茶島之地之辺々

と云々、永禄二年^{己未}十二月廿三日太守貴久公賞渋谷加賀守重副^{十二世}之忠志、賜当村、

一、千手堂^{坂元} 応永廿二年^{乙未} 上総介久世伊作勝久和睦を太守久豊公ニ受、勝久謁鹿兒島、其後太守川辺ニ御越、

同十二月久世謁鹿兒島千手堂坊二宿、越年久豊公御対面之後、発人数圍之、然而川辺城を渡さハ圍を解んと也、

久世承諾、雖然福昌寺大田和尚嚙ニ而川辺ニ使を越、執事天辰辰徳庵、其子阿波介以下評義して返詞ニ御息犬太郎殿を守立城を警衛、長久之計を可成、然に者久世之死生ニ不構と有二依而同十二月廿七日籠千手堂、翌廿三年

丙申正月十三日久世切腹、侍中太郎・本田伊賀守・小田原弾正・天辰助次郎・黒田伊駒・重田以下之勇士拾壹人殉死ス、

一、御仮屋^{吉野村之内大磯} 一、長谷場山^{福昌寺上之山を云} 一、田之浦^{尾頸小城} 之下 ○天文四年^{乙未} 十月十日勝久公没落之後此地より出船、帖佐ニ被趣候、

一、日田^{在上伊敷村本肥田トモ} 久豊公御代上伊敷之者共伊集院ニ合心、此処ニ要害を構と云々、此所ニ近衛信輔公春日大明神草創、詠和歌と云々、

一、田上村 観応之頃凶徒等大勢打出候間、谷峯ニ差越候、子共已下降達合戦と有、一、谷峯城右同断、一、久留美山大明神○貴久公觀請花尾権現此地ニ被遊御建立と云々、

一、遠見番所^{在草牟田村} 一、遠見番所^{在犬迫村横井} 一、川上城 川上昌久伏誅之後、勝久公より御勢を被向被

攻取之、然共後室并家臣等能相附ゆへ城不能拔、

一、鹿兒島大夫康友 又内舎人 鹿兒島太郎号 嫡子康忠 五代法名心知 二男友

家 宮太郎鹿兒島右馬四郎平野下祖 一、下田村吉田氏清二男下田頼清、自

応永十八年之頃領也、甥吉田若狭守清正依忠節、応永十

八年頃久豊公為馬飼所六十町を拝領、為名代至庶子之惣

領を以下田為名字、一、大門口津口番所 安永五申年建

立、

一、紫原 天文八年 己亥 三月十三日貴久公より島津実久之

兵と合戦、実久敗軍多亡一、櫛森在武村傳称往古肝付氏軍

勢於当所合戦死亡之首塚と云々、一、荒田村地頭伊地知

民部少輔重政、寛永 丙子 三月大吉日、一、出水崎 柿本寺上之山を云

此所島津山城守忠朝在住之處 と云 一、武村応永十年 癸未

十一月廿九日従太守元久公入来弾正少弼重頼賜之、一、犬

迫村 上古満家五郎左衛門尉義祐 比志島太郎 祐範二男也 領之、一、比

志島城 在比志島村 忠宗公御代満家五郎義祐と有り、歟初ハ

伊地知縫殿介季重也、比志島家代々在城也、建武四年十

月十八日夜子刻凶徒矢上左工門五郎高純 催馬楽 城主 以下寄来

當城防戦移刻、城主比志島彦太郎範平終二追退凶徒而當

城堅固也、此合戦二比志島親頼北村諸三郎清範手負六郎入道打死六郎三郎家貞入道已下手負 一、

伴掾御館、妙谷寺上ノ山也、於上伊敷村此所二築四十町 肝付家鼻祖伴掾大監兼

行居于是 旧名 神食 一、小野村 応永十七年之頃大守元久公

より為忠節川田伊豫守義尹 十三代目 賜此地矣、

鹿兒島郡

吉田

一、從古来吉田氏領之、至天正年間也、一、元龜元年頃より

島津左工門尉歳久領之、天正八年去而移祁答院、一古来

雖為隅州始羅郡内郷、天正十五年隸于薩州鹿兒島郡、一、

吉田城 涼松坂より町之方 へ過左一丁計二有 永正之比吉田二郎四郎位清守

城、同十四年二月十二日忠隆公当郷江御発向被攻城、同

十四日 庚申 日戌刻乞降落城、同十七日内城二而御祝ひ也、

位清山門院江退去ス、島津善左工門以謀人数を集、野田

・阿久根之境松原二而生害ス、于今崇若宮、

一、宮之浦 天文年間蒲生与守護方与合戦有、山田蔵人直

治励軍功、飯山文明十七年四月十四日吉田衆と於此所迫

合有之、味方得利と云々、

一、大隅国正八幡宮神官公文執当權政所神事奉行息長助清

領分之諸所、神河村・楠原村別府分田藪等也、天仁三年

正月十九日行賢執印關邦得而吉田院讓渡、為座三位大藏

行忠之活都也、同年二月廿五日国司在免判、神領之始也、

一、權政所御供所檢校權執印長太夫清道 助清子 承久二年 吉田祖

四月廿七日死八十四歳、源為重ハ母方之祖父也、故清道
二讓、吉田院為重ハ鎮西八郎為朝之男也、領分之諸所、神

河村・国分寺・弘津村・楠原村・別府・九躰堂分田園等也、

一、吉田院司御供所檢校吉清、元文二年得父清道之讓状、

達久八年七月右大将家賜安堵之御下文、同九年八月賜社

家之御下文、吉田太郎御供所檢校守清、承久元年八月

廿八日受吉清讓、同十一年十一月賜安堵之御下文、延応

元年六月廿日死、六拾歳、

一、清弘、曆仁元年六月得守清之讓、建長五年七月賜安堵

之御下文、建治三年八月三日死、年七拾、

一、公文執当吉田又次郎清高 正和二年二月廿三日死五十八才 一、公文執当

吉田彦次郎清秋 康永二五月十五日死 一、公文執当吉田次郎太夫清

持 康永元十二月十一日死五十九才 一、氏清 康暦元三月一、清元 正長元年九月十一日死七十

九才 一、吉田若狭守清正 応永廿七年六月廿三日死十八才 一、吉田次郎四郎兼

清 享徳二五月十五日死、五十五才 一、吉田尾張守泰清 永正二年十一月七日死、七十九才 一

吉田三河守教清 明応九年十月十六日死、四十八才 一、吉田若狭守位清 永大

退去薩州野田郷也、道号心月法名了安 七十月十九日死、二月十五日吉田城没落、 一、古城 号薦之巢

浦 由緒不詳、上古矢上氏可為格護歟、一、本城吉田家之

村、初而築之在城と云々、

鹿兒島

諏方稻荷御神事調

諏方稻荷御神事二付一往神前まで供物等相備、頭殿并在

町踊又者鑷流馬等都て御引取被仰付、差支有之間敷候、

吟味いたし可申上旨被仰渡、左之通御座候、

一、諏訪社之儀

御先祖忠久公御八歳之御時、文治二年薩隅日三州之地頭

職御補任、同年正月八日頼朝公以御下文信濃国塩田庄地

頭職被遊御補任、將軍頼朝公御代、承久三年七月十八日

同国太田庄地頭職御給、御五代貞久公に至り塩田太田両

庄を併せ被遊御伝領候、夫故貞久公御当国御下向之節、

信州之本社諏訪大明神を山門院江御勸請、総社に被遊御

崇候段、御家譜之内歴然被載置、山田聖栄日記にも 貞

久公御在国之時者信濃に御下り、本社諏訪を懐に御申山

門に崇め祝い御申候、同神馬鷹御すゑ御下向、去に依て

諏訪を道鑑より已来鷹之事者御奔走、於今二茂在と記置

申候、

一、六代氏久公之御時鹿兒島東福寺城江被遊 御移、諏訪

社之儀も当分地江御遷宮宗廟に被遊御崇候、氏久公御家譜之内、老父道鑿給鹿兒島於氏久ニ、去山門院、一向入部鹿兒島、于時遷宮山門之諏訪大明神を鹿兒島、以宗廟に与被記置候、聖栄日記にも氏久之御時者、東福寺之御城せはきに依て先脇に御座在りてツキシ山に築き、主殿作可有候之処、御他界に依て其儘闇かれ候、齡岳の始め山門より鹿兒島御入部、御祈願に山門之御諏訪を移し御申、重々茂御信心成、さるに依て正八幡ノミ御輿を移御申、若宮八幡如此之御神力を以て郷司屋紙を御退治在て未代御陳所に成、御子孫御繁昌被成候哉と記置申候、左候而氏久公より神領餘多被遊御寄進、天下泰平我門繁昌、殊に為遂弓箭素懐所願如件と有之、正平十二年十二月十八日御正判之御寄進状其外御同人様并元久公・久豊公・立久公・義久公御判之御寄進状御合戦御勝利之御願文等数通、且ツ龍伯様御代神領御寄附御家老中よりの御書附、是又数通相見得申候、

一、九代忠国公御代頭殿居殿之御神事相始められ、頭殿者勅使居殿者上使之心にて七月壹ヶ月頭殿之規式者勅会釈之儀を相学候、本田信濃守氏親記置候書附にも祭り之日天下之為祈禱居殿御幣次に三ヶ国御祈念之為貴久公之御

幣如此也、未代迄此旨を存知、島津家を扱老能々可致奔走なり、為子孫書附置所也、永享十年^{戊午}五月七日之旧記にも相見得申候、左候て十代立久公御代寛正六年^{乙酉}年より信州之本社御佐祭之式を被相始、鹿兒島近在より番繰を以て礼貢之作法有之、此儀当分之頭掛りと相見得申候、七月廿七日・廿八日之御祭礼ぢやし屋神供屋と申付候而芦薄を以て社地に仮屋を作り数多之神供を備へ重々神秘有之候儀、都て御佐山祭之規式にて御座候、光久公より佐藤大和江拝領被仰付置候、諏方祭書物にも五月祭・七月御佐山之祭は御狩にて軍陣発向之式なり、猶また七月は揚馬打立脇鞍馬之美麗五月会に超過せりと被記置、格別重き御神に御座候、尤先年公義御目附衆江被差上候地志要略諏訪祭之条に例年七月朔日至同月廿八日祭儀ありと被書出置候其節此御祭礼之事ニ御座候、

一、稻荷社之儀

御元祖様摂州住吉におひて御誕生之御時、神明之擁護有之候儀、御家系図御記録は勿論、御領國中普く傳称仕、御代々様取分被遊御崇敬、例年十一月三日鑄流馬御事之儀者惟新様朝鮮御渡海之前年御無難に御帰朝之御立願被遊置、御帰朝翌年より神前におひて鑄流馬御張行有之

候、其節者射手人数拾六騎与御犬追物御傳授書之内相見得申候、大玄院様御代元禄年間公義江被差出候御譜略にも忠久公御誕生之時におひて末社稻荷大明神冥助之旨趣有之、御当国御下向御国政之始め先づ稻荷社被遊御創建、御氏神に御崇め毎年十一月三日鐺流馬御興行、且つ又御当家御吉事之節者白狐相現、朝鮮新塞之御勝利三狐出現之儀とも具さに被書載置、公辺江も屹度相知れ申たる御神事御座候、左候而上馬射手兩人に相成候義者中古以来と相見得申候得とも何年間より之儀くわしく相知れ不申候、

一、在踊之儀何年間より相始り候儀究て相知れ不申候得とも頭殿神事二相付候踊御座候、元和元年六月惟新様より中納言様江被遊御書之内来月者諏訪御祭礼にて早晚衆中之踊有之事候得とも、当年者其所御留主之儀候間、衆中踊者先づ被相留候得者、老中衆に談合申候、去ながら御存分とも候者、追て可被仰下候、如其可申付候、百姓之踊者旧例まで之小踊にて踊申候て可然候半と申事候との趣御記録之内相見得申候、右通元和年間之御書に百姓之踊旧例までと有之候二付ては其時分最早諏訪御神事者旧式御座候、先年郡奉行へ相糺申候処、諏訪御神事在踊之儀

者、惟新様朝鮮御帰朝之節五島にて稽古被仰付、加治木始て踊被仰付、其後頭屋并御城下寺々へ踊かた被仰付以前の者五島踊と相唱へ申たるよし候、加治木または近在古老之ものとも申傳へ有之由、此儀実否相知れ不申候得とも、古昔より之旧式別条無御座候、

一、上下町踊之儀、是又何年間相始り候哉、当座ハ相知れ不申、町奉行所より町役とも江相糺し申候処、是又発起委細之儀相知れ不申候得とも、六月・七月神事二付上町踊之歌并手馴面之儀寛陽院様御作にて今以て用ひ来り別而大功仕候段申出候、尤以前にて上下町とも頭屋御城まで相踊り候処、当分之通御寺々江も踊来り候段是又申出候、

右之通御座候、諏訪社之儀御元祖忠久公塩田・太田両社被遊御領知、右之御由緒を以て道監様御代御当国江御勸請、其以来御代々様御尊敬成され来り、就中氏久公御代鹿兒島惣廟に御崇、忠久公・立久公御代猶又御家御繁栄御國中御安全之為、御祈願頭殿多并に御佐山祭之御神事等追々御発起被成置、御当代様まで御拾八代大数三百七拾餘年におよひ候、御神事此節御引取被仰付候儀不容易御吟味与奉行候、鐺流馬之儀は以て前文通格別之御訳合に

て朝鮮御渡海之御時勢、旧記等を押計り候に天正十五年太閤御下向御家之御危難此時御座候、龍伯様御深慮之一筋を以て首尾よく御和談相調ひ候得とも、其後までも「」之にて「」御領国中安堵之思ひ無之、大軍騒乱、上下疲入候折から纔六ヶ年目之早春朝鮮御渡海之事起り、大分之御国役貴賤とも千辛万苦之御時節漸々御出陣、惟新様御父子栗野城御首途之砌者異域之御渡海并ひ御帰朝之期も不相知、御供之面々老母妻子傍輩之別れ、面々涙に沈み難儀之形様旧記之内にも相見得、偏に神明之擁護等を被遊御願之外御術計無之、御元祖様御已来之御氏神江上下とも無難に御帰朝之御立願、恐れながら其時之御実意二百餘年之今にいたり誠に以て奉感服候、多年之御出陣中就中慶長三年十月朔日泗川表之御勝利、異国本朝に被挙御名譽、殊更 御合戦之半、白狐・赤狐出現、御軍配旁希無之御武功、且つ者神助之著明七ヶ年之御在陣首尾能御帰朝、薩隅之両国此時より全く御領地、其已来当分まで無退転鏑流馬之御神事其第一、大玄院様御代御家之美目に公辺江も屹与被仰出置候而者は以て御引取之儀不軽御事と奉存候、当分御難涉之御時節御座候得とも、前条委曲申上候通上代より格別之御訳合を以て無闕如被

成来儀、凡一往も此節御引取有之候而者恐れなから古来より之御祭式御廢絶之意味相成、被对御先祖様御遺志之程も薄きかたに相見得、次に今 御国中之人氣も難計、旁以難被黙止御訳合と奉存候間、あとを是迄之通り御旧式通被仰付置度儀与遮て吟味仕候、右二付而者在踊も支神事江相内候儀にて是以て惟新様御代已前より御旧式御座候間、弥当分之通被仰付置、上下町踊之儀も由緒不分明候得とも軽き事ながら寛陽院様御手を被附置候一筋茂有之、町家在方等二右躰之儀者却て競ひにも相成、両踊之儀者格別御物雜費とても無之事候間、都而当分之通被仰付置度儀与是また吟味仕、此段申上候、以上、

御記録奉行

平田貞太郎
橋口善兵衛

辰三月五日

同添役

相良甚太夫
本田休七
八田孝之進

鹿兒嶋寺社廻 全

上国海路記

梅雨名残なく此嶋は晴て只北乃うミの雲井路はやすミぬなといふ比、船出も近付ぬと船くらに高つきものつミ入る、わたなとおひたたく村々立わたり瀬玉の湊、おきすのほとりは日々人たまひして、夜乃目もあハすよひ叫ひ走まふ、されは此嶋の師走大晦日とは此時なるへし、已におほやけ乃つつきより自他の用物皆積路しとハいへと事多きか中ニは洩る有とおもひ出るも有給ふそよとて苦とり船之繰出して真帆ひく迄も末々の者は此里彼村より息もつきあへず、あとさ鬢左右に別れひろき袖かたぬき泥土にひきまミれ、樽を荷ひ、筵をかたけて瀬玉に走る有様、皆是一手のことわざをやまと船に積のせやるか故也、けたし此嶋乃ならはしにてわかき比ハかくれてかよへる女もあり、はらからゆるせし妻も有て、とりく名残おほえて小船漕出別れを送り、かたミに袂をしほる杯、都も鄙もかわりなきハ男女の情なるべし、見るか内ニきおふ追風に只帆計そみえぬるか、日も落くれかかれははやミへすなりゆく、短夜ほとなかはせあかし、天水か渡只はせにはせて又日も暮て夜すか

らねもやらず、二夜の明はなるるまで臥蛇悪石を始として七嶋の七離れもはや跡になし、屋久嶋ノ山たかく種子嶋のたいらかに流れあるを東之方ニ見渡しはせくけるに嬉しくも開聞嶽の波の間にくそれかあらぬかと見へぬるこはいはぬ方嬉しさすれ、是そ筑紫乃富士といひけむ古事迄もはやこころにうかひぬ、舟のうち皆そよめき立て北を望むに、はや佐多の御崎もよくみえて峽の丸くほけとをり天をみるなども嶋にて見馴れず、めつらしき巖なれ蜷尻のこくそめくり入たる湊の真砂地の白きに松乃並木のみとりはゑあるもことにゆかしけれ、名に聞し山川の津の更に風をしらぬも嬉しくたのもしけれ、家居の軒をならへて賑ハひけるそ鹿兒嶋見ぬ嶋目にハ驚くもむへなりけらし、船々とも碇下し纜を松か枝に繫くも有、扱此所に番所有て改の役人船々残らず、廻りて乗給ひぬ、御掟の一筋事済、まつ陸に上りてあら海にゆられし舟栖居のうさはらし、酒汲かはして人々着津の賀を述、一日二日ハ様々の事にまきれぬ、又舟借て鹿兒嶋に趣く、内海乃浪穩なる面を見、あくれば開聞嶽のゆふにやさしく高き東の方には桜嶋のことごとく海より出て高大成得もいはぬ四方の風景詩料歌枕にあらざるはなし、百千の勝景筆にも詞にも二三を述かたし、嶋にて耳

二聞、こころにおもひけりしを井の蛙とは今そ思ひしられる、打続きたる山々のたたすまひ、濱の真砂の白妙なるに松の並木乃立ならひたる緑の色、松嶋や天の橋立にもおさおさとらさるへし、御屋形乃流々たる照日に耀きて松のひまひまにほのみえけるそ、はや恭敬の心も生しぬ、下町上町の豊かなる瓦葺乃黒く、土蔵の白き、碁を囲める局面のことし、築地鶴江崎、神明宮乃松山より、大磯・小磯・花倉・滝か水・御舟・大崎かはな・帖佐・加治木・国分など高限に霧嶋の嶺二はるるに見渡したる風景、唇をとち、心もほれかへる計也、ほとなく行屋の浜に着て問屋に尋行てみれば、亭主の物馴ける様やさしく、念比なる親はらからの心地して、旅のうさもはやわするはかり、おもき荷をおろしたる心地しぬ、一二日と過るほと、おさおさ敷事などもはうはうよりややととのへまりぬ、今ははや宮々寺々の物詣などして華都の有様をも見て此度のほりしかひともせはや、筆にもつりおきて故郷のつともせはやとはおもへと、拙き筆にいつれをか始とせぬ、ふらく、おもひめくらすに、玉龍禅客こそとて第一二書出し、名を上国海路記とよひ、身を喜界か嶋へとし鹿兒嶋の廣方に比するこそ、我ながら恥かしけれと若徒の為ともならんかと人の笑を不顧

鹿兒島県地誌備考(抄)

事になん、

明和九年のとし季夏乃日 如柳稿

薩陽嶋津御庄鹿兒嶋廻

抑薩隅日三州第一之大伽藍玉龍山福昌寺御代々様御寺御菩提所也、高千三百五拾石、能州総持寺峩山五哲之内通幻派下石屋派薩隅日曹洞宗門首開山石屋和尚真梁坊伊集院長門守忠国五男也応永元年七代 太守元久公御健立也、境内之名有所、我知たるを記す、

龍門橋

遠望龍門橋千仞勢橋頭日夜動風雷寄言四海参去到底莫遭點

額面

龍献水

神龍蛻骨山々塵焚岩湧甘泉酬法恩東院西廊分算水風前碎処

却渾崙

鏡石岩

誰鑄古岩開鏡客胡來漢現不留蹤風吹碧落淨如洗疑是月明在

後峯

望月亭

萃亭為容構禅叢臨水倚山心近工夜靜独因明月照全身如坐廣

五九

寒宮

坐禪石

盤石封苔在半山祖翁陳蹟隔人衆此間不許作來往四面鏡松雲

影閑

金剛嶺

至人自為願心深親写全文鎮北岑將靈山消息斷松吹破有法王

音

龍燈松

大哉維德感神龍松際掛燈古梵宮一點靈光不尽作祥作瑞照蒼

穹

撻黎々

天開古祠倚雲端是処皆聞靈物蟠勝跡至今知幾歲泉声昼夜音

清寒

西山瀑布

一条瀑布落碧阿試向源頭看如何古木叢林蒙漑潤枝流々域中

多

智日蓮池

無縫団々層落々高懸智日照昏衢三千刹界馨香遍是為金蓮瑞

色敷

深固眺望

晦蹟多年善此躬白雲扉柱翠微中山川幾許供採上本筆畫函談
濃

岩屋天神

從參徑鳩鳥頭子此地初傳古記來震且扶桑無隔處清舌薰徹一

枝梅

右福昌寺二十五世龍鱗脩門和尚之作

鹿兒嶋惣高式百三十七百拾六石壹斗余上下諸屋敷迄も込ル
廿五ヶ村

吉野村高九百四拾三石四斗余、花棚村高式百五拾壹石式斗
余、川上村高八百壹石壹斗余、比志嶋高九百拾壹石壹斗
余、下田村高四百六拾九石九斗余、花野村高三百九拾五石
七斗余、上伊敷村高千八百三拾九石九斗余、坂元村高五百
九拾七石八斗余、草牟田村高四百八拾八石七斗八升余、下
伊敷村高千四百石、四拾七石八斗余、原良村高九百三拾九石
六斗余、小野村高千貳百四拾五石八斗余、永吉村高三百六
拾九石七斗余、岡之原村高三百六拾四石五斗余、西田村高
千四拾六石六斗余、荒田村高千九百九石七斗余、武村高千
七百人拾六石六斗余、田上村高貳百貳拾八石九斗余、郡元
村高八百八拾貳石五斗余、中村高九百九拾四石八斗余、小
山田村高千九百拾壹石四斗余、犬迫村高千四百九拾九石六
斗余、皆房村高貳百三拾五石式斗余、西之別府村高貳百八

拾九石九斗余、塩屋村高式百八拾五石八斗余、経團山宝城就

寺大乘院 京都醍醐山宝地院末寺薩隅日真言宗小野方門首花尾権現宮座主高八百八拾六石六斗余、 日置郡

伊集院より大興寺南院二引移し給ふ寺也、大興寺は 高三拾

二米四石三月十三日、七月十三日 兩度為御法事 京都足利将

軍御舍弟大覚寺門跡大僧正義照陰謀已に露顕し、潜に日

州福嶋に隠處するの由將軍家より誅戮乃命を蒙らせ給ひ、

忠国公御代嘉吉元年三月十三日義昭を誅しけると也、隊将

樺山家とや、大覚寺殿臣下に都足讚岐坊とて強勇不敵之者

なりしを智略を以討取けると也、坊之津一乘院末寺也、左

に昆沙門堂有、其脇二大石仏有、三途川乃姥といふ、大興

寺上之は昔御代々の御城地とかや、西北之方に大堀有、鬼堀

と言也、是を清水城と申也、奥之院とは松岳寺、尤真言宗、

奥院即事

密院無人春寂々団蒲曲九道情濃林間鳥呼談般若潤底花然現

色空枯葉炉頭吹伏火新茶鼎裡煮松風聽終法話又詩話杖屨西

望嶺日紅、

大乘院馬場東に向て仍望めは稲荷大明神、別当寺は宝持院

高五 御祭毎年霜月三月鑄流馬有鹿府第一之壯觀也 鑄流馬と

者の 両人被仰付あや笠とて美しく彩り飾りたるを被り、短

刀行騰にて馬二乘りのを一二三とて三処ニ立置、一散の駈

二て右三処の的被射候、鹿府年中行事之内第一之見物也、

清水馬場二王門辺都而市場と成、煮賣茶也、又は呉服・

反物・衣類・刀・鎌・鉞・斧・包丁・小刀・鍬類、苗代

川之焼物など賣物夥敷賑ハひ也、二王門脇二名水も有、二

王門 此二王ハ天文十四年豊後入之時、彼国より持来ルと言リ、 門内十か寺有、威光院・

万寿院・善行院・善聚院・福蔵院・延寿院・西寿院・松本

寺・文珠院・千寿院都而大乘院之坊中也、山王之社有、大

乘院格護と也、護国院とて有、右之坊二茶や有、小城権現

宮有 高五拾石 九代 太守忠国公御逝去之後、奇瑞おはし

まして嶋津冢守護神とならせ給ふとの託宣にて、小城権現

宮と崇め称し奉りしと也、惟新様御壯年 忠平公と申奉り

し御時、御武運之御祈願とて御參籠有、夫より蒲生松坂の

城主中村父子を攻給ひ、城兵悉く御誅伐有、誠ニ御利生あ

らた也ける事とも旧記にも見得たり、善聚院格護とや、

是より後坂にて香雲院・松寿院兩寺共ニ真言宗也、川の向

に水天宮山田氏の造立とかや、荒神宮も立せ給ふ、佐藤大

和と言つる社人格護と也、東は荒神山其下に三本杉と云大

杉有り、川上氏之石塔有、愛宕山宮は山乃頂に立せ給ふ、

高拾石之社領とや、別当勝軍院右二軍神摩利支天立給ふ、

石之祠也、西ハ茶屋之松、東福か城、是ハ中古梶原氏之城

と也、仍而梶原か城ともいふ也、阿弥陀堂の跡有、夫より濱崎ヶ城・多賀大明神御祭米 志石 四月中の午日也、鷲頭氏格護と也、不働谷とて不働明王を安置すると也、日秀上人之作と也、船川と云水有、祇園大明神宮、此社前二大巖有、龍石といつづるハ是なるへし、岩形鷲背に似たるを以之故か、世人呼て鷲石と云、祇園の祭は六月十五日、一社ハ上下町の間に一年ツツ崇め置、毎年町遷り有、此日本社に來興有、神輿を守り奉り、町踊・山踊十二かくめとて女の立願に鍋をかつく有、山とて人形を飾り車に架し牛にて牽有、夥敷祭也、町家年中の行事也、辨財天宮たたせ給ふ、池乃王と申とかや、是昔慶長十四年の比かとよ、琉球国再ひ謀叛せしかは三司官邪那親方とて邪智奸謀にして変化常ならざる聚歛有て薩摩の国命を違蔑し税貢を怠慢し、逆背已にあらはれしに依て樺山・平田両将として伊集院氏ヲ參謀として、七嶋の物主共を案内先鋒として攻討給ふ、琉球運天の湊近く船を寄ける夜樺山美濃守殿の夢に容貌端莊天女の如き有て捷軍を告給ふ、則笈板に小刀ニ而書うつさせ給ふて海波に投入祈願し給ひしとかや、其笈板はるくゝと波もて送り來り、此所に打上けるとや、三百余里の海上靈験新有し事共也、老翁達の物語を我幼年に聞覚しまま記し

付伝る也、文珠院格護なり、田之浦には新寺建立有、良英寺慈徳院様 有邦院様 御位碑有、福昌寺廿五世修門和尚開起となり、高六拾石御代官取納ニて妙光院様より御寄附と也、出家衆などの物語あらなつかしの御寺也、夫より覺印か鼻と云所有、潮音院の其脇ニ梵字を岩ニ彫付たり昔唐人の彫尅せしより始とかや、脩門和尚、

阿字岩櫻嶋北長江似練繫空明温泉凝望白雲外萬里煙光非世情

題潮音院

塵外清江江外山々雲深鎖古禪関上方莫道隔人界猶有鐘声通世間

是より新道として磯御館の道すから櫻多し、此辺より新道と云、天満大自在天神の社有り、

丞相祠堂面海濤端籬梅古暗汀洲欲留征棹薦蘋藻客路忽々不自由

此絶句二首ハ川上親埤雅丈の作と也、夷子堂も有、龍洞院迎天台宗之寺有り、

雨歇寺門大海清逍遙偏不世中情雲迷龍洞龍何在花底春風鶯一声

吉田家作也、此寺に月船寺と云黄檗宗の寺も有、大磯御館吉貴公御隠居所、寓磯館看月有感、太憐梁園旧賓客纔隔春

秋散如雲漢暑猶明古時月影庭何事欠此君

老去長裾白髮新登臨梵刹避紅塵無情最是旧時事今日花開誰為春

二首之内始ハ弟、終ハ兄、吉田氏兄弟の作也といへり、鳥越の峠を過てしほミ坂より見おろせは、菜摘川清き流也、瀧のかみ玉ちる瀨々の川浪に、浮世を廻る水車、臼つくだ僕をいこはせて、よしや吉野の瓦盛、長瀬戸過て桜多尾杉谷越て木の原や、雀の宮も奥に有、花棚村には小鷹大明神、昔肥後周防平盛家建立とかや、盛家は花棚村・鳥越村・磯村を十五代太守貴久公より拝領して花棚村に住しけると也、先祖代々の墳墓今に在とかや、小鷹大明神此祭はいつなりや、人二とへとも知人なし、吉野村には嶋津左金吾歳久公子の御廟石有とかや、里人はを御石と云、御卒去の後度々御神乃あらはれしより里人驚布尊敬して立けるにや、御正忌日は文禄元壬辰七月十八日、御石塔は隅州帖佐之内瀧か水イ本嶽イ本か水 御寺は心岳寺と云、公子何尤罹此殃豊臣奸計害賢良古墳遙拝翠岑裡長使行人滴涙流

瀧水與龍石舟行三里程遠山霞接海近渚鳥交聲跳沫微吟起乘晴柔櫓輕漸逝岩下寺怪石激流清

鹿兒島県地誌備考(抄)

初は川上親埤雅丈後ハ脩門和尚也、中の別府中の町七社大明神別当寺は善聚院、祭は七月廿三日狂言踊有、御飯やの跡有と云ところ迫大明神立せ給ふ、爰にも禪寺有、名を忘れたり、是本田氏建立と也、実方に権現宮、河添に天台宗憲英寺・法輪院、芳野山とかや、下田村に諏訪大明神、川上村天神宮、祭ハ十一月廿五日、川流院といふ禪寺庭前に清水有、花棚村に福泉寺、浄光明寺之末寺也、同所に明神も立せ給ふ、祭は九月十九日とかや、川田には大川寺、是は川田家建立と也、疱瘡安全乃守出るとかや、奈良の窪にハ地藏堂有、兼新坂越て牛込、觀世音蛇乃窪に正真軒、禪寺也、松か原過て催馬樂俗西原とかく之城、是昔矢上左衛門五郎義純の居城也、今有馬左衛門佐様之御先祖と也、御当家七代太守元久公に攻討れ薩摩を去、肥前有馬郡に一城構へ、有馬を以家号とし、世々傳へて今に城主也、故に昔は此所を矢上か城とも申せしと也、夫より右に茶碗屋有、鍋屋も有、坂を下りて本鼓川助六松乃いはれ有、知恵光院ハ真言宗坊之津一乘院の宿坊とかや、轟木の瀧又若菜の瀧とも言とかや、三門の乙名此水ニて若菜を洗ひ清め正月御規式御用ニ奉しとかや、また此瀧乃音により韃靼蓼と此辺を近き比まていひけるから又鼓川ともかわりしとかや、移りゆく世々

六三

につれて所乃名もかはるゝ今ははや本の字までも付二ける、本鼓川過て無常涅槃門の前ニ打出れば福昌寺前田大地出来蓮を植、其廻りの土手桜款冬を植ませけるとかや、蕎麦切又田染杯の茶屋も有と云を聞に武州上野の小形なるへし、たの前地藏菩薩 福昌寺開山石屋和尚真梁坊の作と也、左に一ツ橋 前にも云あり、堂の前行過て左衛門坂 さよみ坂共云、右之方三原を左にし鷲馬場池上権現宮俗ニハ福昌寺門前之権現と云、祭は九月九日とかや、内之丸千手観音堂、是は総州家三代久世主を崇建とかや、御法名惟馨久徳大禪定門応永廿四年 丁 正月十六日
大守元久公攻られて自殺し給ふ、行年卅一とかや、翁心軒・建寿院・橘陰軒皆是禪寺也、橘陰軒ハ阿多長寿院盛淳惟新公老臣にして関ヶ原御退口 御難戦之時御諱を犯し戦死也、寺とかや荷坂越て本御内馬場 俗ニ馬乗馬場と云、大龍寺瑞雲山濟家宗也、寺領現米三拾石とかや、此御寺は儒仏の経共ニ講釈有寺とかや、扱本御内之名ハ貴久公・義久公・家久公御代迄御屋形の地とかや、慶長七壬寅年 中納言様御代当御屋形に御遷城と也、山之名鶴丸山、至御当代目出度御繁栄之御城也、護摩所 長日番寺と云とかや、真言宗より一ヶ月ツツ輪番住と也、鬼門ニ当ルと也、時の鐘、有稻荷大明神、是は朝鮮御合戦之時不測なる靈助故、殊ニ御崇敬と也、祭は十月朔日といへり、天満自在天神宮、是は贈太政大臣菅原道真公

と申奉りし時、自御像を写させ給ふとかや、幼我雅の時分、老翁達の物語を覚ぬ、又立帰り本御内馬場若宮八幡宮 正月十五石、弁官氏格護也、東隣ハ法花宗の妙頭寺 繼豊公御母建月桂院様御建立なり、扱鼓川御屋敷とて土屋敷十五カ所御取入に相成、島津周坊忠紀公子江御拝領、吉貴公御三男ニ而御元祖忠久公御二男周坊守忠綱十餘代の後給て久しき御家跡、元文二丁巳年かとよ、御相続被仰付、是を越前家と申也、四方石垣構へ 廣大成御屋敷也、此処大龍寺 御屋形之前犬之馬場共申也、夫より春日大明神 正月五社御參詣 其一他、社領、抱真院に打出ミ、是は神明宮松井抱真院金駄山三本寺寺真言宗 高五拾石余、是は古住職盛、願寺高ニ御免、後迫引移給ふ寺也、前にも云へる多賀山 峨々として高し、、海色東南萬里開風帆遲日向晴来小魯心事酒色裏全傲陽春作賦事
多賀山下に観音彫刻せり、昔いづれの比ニや唐神の作といへり、戸柱橋より諏訪之馬場筋見上れば大華表有、 一之鳥居 鹿兒嶋惣廟正一位諏訪上下大明神内之鳥居は左右二ツ有、額之文字ハ近衛殿下の御筆とかや、別当寺は安養院高式百石 護国山東福寺神職本田出羽守、祭は七月廿八日頭真言宗 殿とて左右両人士衆之子息十歳計成を四月始より被仰付置、六月廿三四日之比別火所と申に移居、一七日別火二而

七月朔日よりまた頭屋と申候而誠に山取之丸柱ニ青茅葺の御棚左右に出来、是に被移居候、同二日より十二日迄大小

の太鼓踊有、是を名踊と云、桜嶋迄も踊る也、上下両町狂言踊も有、町中富家之子弟十四五之美童舞をなす、やさしくかわゆし、同十八日御能有、十五代太守貴久公御代より頭殿と云事始とかや、戸柱橋涯より清水の橋涯迄通る馬場有、

舟屋はふしと昔いひし、夫よりまた清水馬場にて東有諏訪馬場、西は堂之前一橋ニ至り廣き馬場有、左右尤武士屋敷也、

仁王門と云、此仁王は天正十四年春豊後入候之時、彼国より持来とかや、其砌に清水湧出名高き水也、上町酒屋酒造には必此水を用るとかや、是故

に清水馬場と云、其上に又五道院馬場と云通有、本立寺清水山五道院時旨宗之寺也、御元祖忠久公・忠時公・久経公

・忠宗公・貞久公御石塔有、御靈屋一字也、得仏・道仏・道忍・道義・道鑑之御五公也、忠久公御忌日嘉禄三丁亥六

月十八日於鎌倉逝去、御年四十九、御法名得仏、道阿弥陀淨光明寺殿と奉申也、郷田薬師と云堂有、万寿院格護と也、

ここに松峯山無量寿院淨光明寺 御元祖忠久公始而三州を御給り有て、御入国之時、一遍上人の流垂宣阿上人と共に

御下向有しより権輿して 上代久経公御建立とかや、弘安

七年甲申閏四月之比かとよ、吉貴公御法名淨国院殿、鑑阿・天晴、道悲大居士、延享四年丁

鹿兒島県地誌備考(抄)

卯十月十日覺御、御靈屋有、境内高くして眺望奇禮之御寺也、

金利地高開半天天鍾神秀列欄前窓含一碧滄浪水座入椽教鳴奇烟暮布春城楊柳屋業浮晚浦釣漁船題迷彫放登臨眼遠近山羅屏四庭

蘭若松峯頂無塵心自閑溶々涵閣水墨々入樓山雲暗謝名路鐘鳴破夢閑隨看聽事々非人間

始は即潭和尚後ハ川親埤雅丈其外和漢共に吟多けれ共、思ひ出さず、堅野に般若院行者堂有、山伏面高氏格護と也、

不断光院養泉山無量寺高二十石余淨土宗之仏閣なり、光明寺は真言宗、是は琉球国中山之建立とかや、善福寺と云も

有、興国寺太平山不遷院 忠昌公の御寺也、高式百石とかや、薬師堂も有、宝持院格護と也、福か迫にハ諏訪大明

神別当寺は普賢院神職ハ井上氏也、夫より冷水と云所二近衛水と云名水も有、どんだを過て滑川、上町□屋之馬

場、車町・地藏町には地藏堂有、夷子堂も其右脇車町之内二有、柳町泉屋町ニは觀世音菩薩堂有、山伏坂口氏格護と

也、昔日秀上人行法有し所とて世人行屋と名付しとかや、此日秀上人ハ水雲の僧にして密宗の徒好て善因を修し、或

は山乃佳なる、或ハ境の勝れたる行て見すと云事なし、天下之勝景悉皆上人枝履之中に在、且公輪子か折有て諸天善仏神諸仏菩薩之尊容を彫刻すと云へり、彫老而後隅州八幡

六五

正宮之傍に一梵盧を結て弟子孫衆衆多なり、天正三乙亥仏成道之日世縁の未尽ニ深一坐禪定に入去と也、孝行橋と云有、昔此辺ニ住家ける、池田正右工門と云一人之老親あり、貧乏住家といえ共寒天には衾を煖め、暑天ニハ床枕を扇き、得ものハ必ずすめ朝夕親之心を慰勞せしと也、其故に世人孝行橋と呼付けると也、孝行屋敷と云も今に有と聞、築地ニは愛染明王立せ給ふ、普賢院之格護とかや、夫より又立帰り大小路通り滑川札之辻新橋口琉球仮屋庄内かりや、種子仮屋・櫛木馬場は廣したり、北郷殿之屋敷也、誠に三州之府内とこそハ見得たり、北郷殿之桜こそ梅と争ふ、早咲也、新橋唐がね之擬法珠ハ年月日彫刻して更に覺す、

御屋形之下に犬垣と云有、此辺拙き筆ニ述かたし、江戸橋と云小橋有、是より東を上、西を下と云とかや、ここに名高き名山堀・廣小路・若宮社其向に橋有、新桜橋とかや言へり、其辺に柳あり、是はむかし往古平治年中にや、琉黄嶋に流されし俊寛僧都・平判官康頼など此所より舟出しせし時纏繋ぎ候柳の植次とかや、又琉球国邪那親方とて女次謀ニして変化常ならず薩府之教旨を悖叛するに依之此所ニて御誅戮討手は川上泰助殿とかや萩原天神宮

御祭米五石式斗余

御祭は八月廿五日社殿連歌之会有とかや、其日いつと云を忘る、向に蓮池有、石觀音を安置す、窪田には諏訪大明神、是ハ伊集院幸侃入道建立ともいへりしとかやいふ也、祭は八月廿八日はより跡ニ立帰り舛形通大雄出南泉院僧正住職之御寺とかや、寺高五百石東照大権現御宮有、四月十七日御祭法樂上なりといへり、随神門蓮池有、觀音堂有、平之過て柿本寺真言宗也、新上橋有、大徳寺と云禪寺山下之觀音堂三十三番請之札所之内とかや、上山寺是亦禪寺也、久富貴の宮と云有、池之平過て隆盛院樓鳳山此開山ハ宗津天祐和尚と申也、此和尚は大守忠国公御末子にして福昌寺十一代之住職也、門之辺ニ名水之流有、是を北山之清水と云とかや、十三代太守忠隆公之御寺也、宇治瀬の宮ハ森丹下と云社人格護となり、祭は十月十八日、右之方は四郎か坂迎有、妙谷寺不働院寛照山高三百八拾石福昌寺三か寺之卷なり、義久公御寺也、梅か淵山崎川とかや有、上伊敷川と云有、不働明王建立有、よき詣所也、不働院と云も有、妙谷寺之高小野に高伽木高木之文字不知、楓紅葉の名所也、鬱林林深樹漏くる日影もしはしニて左右之瀧水潔し、紅葉の折からはうつれるかけや流るる葉是を錦の瀧といへり、同所に聖天宮もたたせ給ふ、原良には尾畔御假屋有、春は桜に秋は□、尾畔奉行宮内

氏、孔蕉・錦鶏・鷲・熊鷹、唐や倭の名高き獸数を尽せし御飼物、嶋々之のほりの人々ハ手寄々々を求めて見物あれ行末咄之たねそかし、常盤谷には世にも名高き鼻取地藏、西田町ニは新寺有、西田寺と云とかや、龍洞院之末寺とかや、日吉山王宮薬王寺薬師如来高十五石 式斗余、又野本ニは笑岳寺、此寺は伊集院大和守入孤舟齋為菩提、大守家久公御建立とかや、幸侃入道か父也といへとも忠義深切成人ニ而重病末期ニ及び、龍伯様御壮年之御時なれば病氣御尋として御入有ければ看病之親屬を病床より遠ざけ被申上候は世忉忠棟事要極之重職に被召仕候儀必御遠慮被遊可被下候、性質正しからず、内心難見届之旨涙と共に被申上候と也、忠義ニは至親を不顧なといへるもかかる事をそ申らん、誠に無二之忠臣也、是故ニ幸侃御誅戮庄内静謐以後孤舟齋忠心之程を被感思召為菩提御建立之寺と也、難有かりし事共也、爰に寿国寺信證院元知山と云黄檗宗之寺有也、寺領四百石、夫より大田大明神祭は九月十九日とかや、美保崎御茶屋有、高寺とて田上村ニ有、護生寺悟性とかや云り、曇りとて清発頓智之出家有と聞、馬頭観音堂有、川辺郡 日新寺之末寺也云、郡元には一条之宮御祭米三斗五升、荒田村には八幡宮、祭は九月廿三日御祭米五斗 式升五合、座主福蔵院とかや、薬師堂も有田之子呼

鹿兒島県地誌備考(抄)

てこへ壺薬師と云、正建寺本長山高十三拾石、法華宗之寺也、夫より長橋わたりて御船手之内船玉大明神たたせ給ふ、塩屋塩浜村洲崎之景もたくひなや、谷山には慈眼寺観音菩薩よき詣所也、瀧有、紅葉有、むかし、中納言様御詠歌、山姫乃瀧の白糸くりかけて紅葉の錦波やおるらん其後此御寺失火有て焼失せしを周防忠英公子を始鹿府中之歌人詠歌之一卷有、是一件之美事也、参詣あらは住持之出家衆に乞て拝吟あるべし、山之口地藏菩薩は始羅郡加治木より此所ニ遷し奉るとや云、誠に名高き靈仏なり、夫より海辺は南林寺松原山高岳院高四百六石、福昌寺三か寺之一也、脇寺数有とや、貴久公永正十一年甲戌五月五日御誕生、嶋津家十五代太守中興之良主也、元龜二年辛未六月廿三日持仏堂江入らせられ、仏前ニ生給ひ香花を捧けまし、法華經第一之卷誦終、第二之卷を持し給ひ、焼香まし、香烟いまた断さるに忽然として壇上ニ逝去まします、御年五拾八、御法号大中良等庵主、南林寺殿と号し奉る、御正忌日には参詣之男女群集をなす、大門の名清明門と云とかや、尤御仁徳を称誉し奉る、此前の名なるへし、或僧之いひけらし、其砌ニ櫟の木有、是は往古安部之清明之植けるにより大門之名をは清明門と云といへり、訝かりな出家衆方

六七

之いひ傳にやと今爰にしるし付ぬ、大門口より舟ニ乗漕出て見れば桜嶋三国一之風景そや、是は隅州之嶋なれや、順風よければ程もなく築地之内にみち来る、潮と諸共に行屋之浜ニ着ニけり、八詠亭八景

亭柱鹿兒府新築地樺山資次別業

桜島白雲

倪金鱗兒玉宗因

天際仰高桜嶋峰藍光翠色躍青龍白雲變態多奇異如雪花現妙谷

一山小森氏

桜嶋咲ぬ絶間も名にめて、花とこそ見れ嶺の白雲

前海行舟

橘山四本氏

甕城前海海之浜幾見輕帆越要津百里安好風面不勞南去北來頻

經興門氏

ゆく船の間近くみえて鳩の海や爰は打出の浜ならぬ共

築地晩潮

藺臯吉田氏

一曲清江浅水流晚来潮湧沙州啼鴉飛長堤上波面漫々月色浮

貞門大原氏

庵遠く潮さしめくり暮る江乃かかる見る目ハ世ニ類無キ

島陰漁火

梅洲吉田氏

十里島陰雨如烟松膏無數滅還然晚来人去風波起一點寒光照岸辺

正責和田氏

鳴陰や暮ぬる磯に焼す火は蜚のいさり乃光なるらん

洲崎平沙

玄幸野呂氏

洲崎地勢自優長日夜潮波相濯良水鳥翱翔耐昼字平沙数里白於霜

通代長崎氏

しらくと波の洲崎の真砂地や緑はえある松の村立

南林青松

玉山牧瀬端仙

松樹遠近南浦頭青林緑水望清断隔離庶俗乾坤別思入神仙物外遊

政一小森氏

幾世経ぬ南はるけき海原や緑につく松乃林は

松峯鐘聲

一朵松峯清浄音景光八望眼前宜暮鐘殷々使人感今日又過十二時

一鷗平瀬氏

山乃名の松の峯より吹おちて夕部の嵐鐘傳ふ也

多賀山風

多賀山風雲樹號重々積翠起波濤冷然響入没絃去天外唯聞
度曲音

胤昌牧氏

山の名のたかみる夢かさますらん更て音そふ嶺の松風
聞之薩人、景勝尤佳者、為新築地、蓋山海并絶也、樺山氏
家園坐収之、乃作八詠亭賞之、

如此卷所図若誦、余謂詩一也、和歌一也、図画一也、因為
三絶、然非有此勝末足施此枝、則景絶也、世俗謂山蓋高、
謂海蓋深非不観也、苟無勝情以何会之、不啻檣則又樺山君
好事、其絶一也可謂一絶乎、雖然山海吾勝也、五絶吾絶也、
吞不帶芥者、雖居薩国為大無所弗有已、薩安養湛公、為其
邸來修護摩于東都、則為樺山君、属余跋余得閱此卷、爽然
自失乎其絶之富、

享保丁未秋

東都服元喬跋

八詠亭八景之和韻并歌

桜嶋白雲

登龍志賀武兵衛

八面玲瓏玉女峯、白雲起処有吟龍、回看好是翠微地、半入
朦朧改旧客、

三省田浦校横

磯の波高根の雲の詠までさなから春の花さくら嶋

鹿兒島県地誌備考(抄)

前海行舟 静斎平山七兵衛

水色浸天南浦浜、布帆遠影過江津、棹歌一曲晚來起、不厭
風潮日々頻、

蠻人の世はたるわさか波の上に行かふ船の数浮ふ也

築地晚潮 举石山内平蔵

千墨防隄断碧流、鸛汀鳧渚接沙洲、江天日落寒朝繫岸輕帆

次第浮、

常考折田長兵衛

あかす見むうかへる月の影なからかこふ入江に満る夕汐

島陰漁火 如雲安養院

鳴陰漁火破寒煙、朝點浸波夜欲然、長笛一聲人去尽、浦江

残月落岸邊、

為純日高甚兵衛

時の間に浪立くらし嶋陰やみえかくれする海士の漁火

洲崎平沙 彩鸞山沢小弥太 為純日高甚兵衛

松原山畔白沙長、半入波深山々没良、漠々江夫烟断処、一

痕明月影如霜、

為常伊木半七郎

波近き浦乃松風静にて鷗むれたる磯の真砂地

南林青松 醉夢郡山次郎兵衛

松林一带遶江頭、隔海蒼々望更幽、馳思徂徠十里翠、四時
榮色入詩游、

正香平田喜兵衛

江乃南はるかにみえて立双ふ松の林の陰そこふかき

松峰鐘聲

玉鰲児玉宗四郎

藍翠逼空梵刹奇、松峯風物望相宜、鐘聲能破海雲曙、百人
揺山月落時、

村泰今井平左工門

鐘乃聲さそふや松の嶺に吹風の夕へ猶闇なり

多賀山風

梅川山田弥市右工門

緑樹森々雲籟號、碧空萬里起波濤、四時更好炎蒸日、多賀
山風涼気高、

為一日高次左工門

なれと齡を守る御垣より送るもあかぬ多賀の山風

此一巻見聞覚し事を本とし疑敷ハ一事一所つつ最寄の人に
も問尋書認候、拙夫病来は精神も甚衰記憶之念薄候き、嶋
任も廿年に餘りぬれは殊更下方之事杯ハ遠方にて隈々猶分
明ならず、嘸哉僻覚も有洩たる事のミにも筆なれとも嶋方
より始而上国之衆往来一日路之見物所候は聊助共成可申哉
と令書記候、其外外城江も段々大社等古来より御建立国分

之宮内ニは正八幡宮御石体之露る事を始、日州霧嶋六社権
現、薩州川内には新田八幡宮、出水ニは加紫久利神社、穎
娃に枚聞神社、又日州住吉三所大明神、是則憶原憶明神之
社は日本記等之神書ニも分て為相見得旧跡之由候得共、尤
参詣不仕所而已ニて只承傳候迄此嶋ニて誰に可尋問様も無
之故先閑筆、誠に閑落之拙夫故郷想葉之餘情ニ而候、御覽
之達士仰憐察計ニ候、

さひしさのやる方なさにつつり置筆乃すさミを哀とも見

よ、

□和九龍舎壬辰季春日

橘遊敬具

□書大河平左工門殿所持寛政十一年己未十一月
頼て写之 本田孫九郎親字